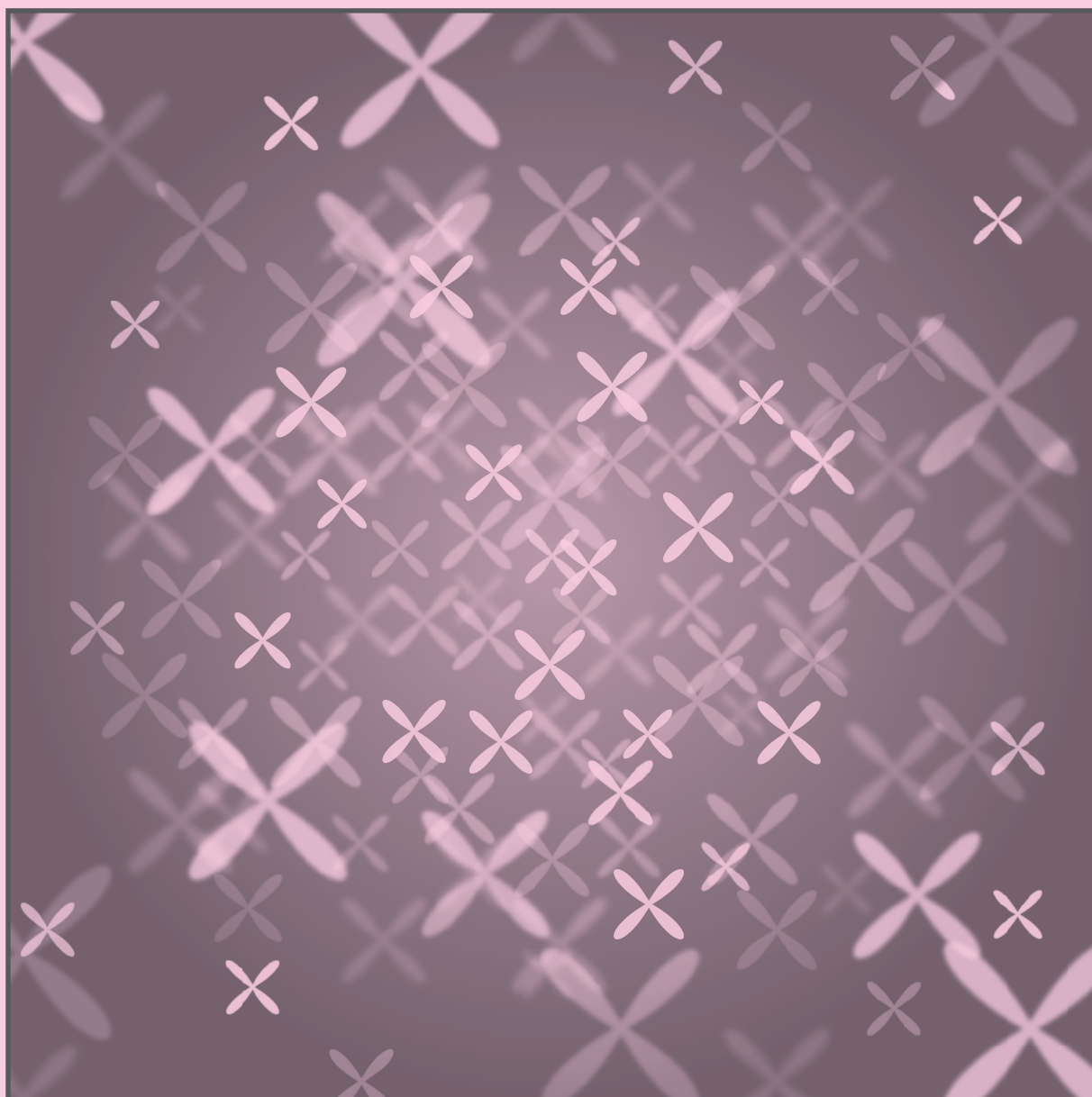

2012年度

シラバス ドイツ語学科



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

獨協大学

— 目 次 —

シラバスの見方	-----	2
ドイツ語学科授業科目（2009 年度以降入学者用）		
外国語科目、演習科目	-----	3
概論・専門講義・テキスト研究科目、交流文化論	-----	4
ドイツ語学科授業科目（2005 年度以降入学者用）		
学科基礎科目、学科共通科目	-----	6
学科専門科目 「Ⅰ 類部門」、 「Ⅱ 類部門」	-----	7
学科専門科目 「Ⅲ 類部門」、卒業論文	-----	8
外国語学部共通科目	-----	9
担当者別シラバス	-----	11

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

シラバスをよく読んで、計画的な履修登録をしてください。

【シラバスの見方】

1. ドイツ語学科授業科目表について

①シラバスページの検索方法

ページ両端にあるインデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを探してください。

科目は、学則別表と同じ順序で掲載しています。

※入学年度によっては学則別表とシラバスの順序が一致していない場合があります。ご注意ください。

②履修できない科目

「履修不可」の欄に所属学部・学科名が記されている場合は、その科目を履修することができません。

〈略称説明〉

外：外国語学部

養：国際教養学部

経：経済学部

法：法学部

独：ドイツ語学科

済：経済学科

律：法律学科

英：英語学科

全：ドイツ語学科以外の全学部学科

営：経営学科

国：国際関係法学科

仏：フランス語学科

総：総合政策学科

交：交流文化学科

言：言語文化学科

2. シラバスページの見方(右図参照)

①入学年度

09年度以降……2009年度以降入学者

08年度以前……2008年度以前入学者

05年度以降……2005年度以降入学者

②入学年度に対応した科目名

③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望

④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。

⑤授業で使用するテキスト、参考文献

⑥評価方法

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④	
春学期		
テキスト、参考文献	評価方法	
⑤	⑥	

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④	
秋学期		
テキスト、参考文献	評価方法	
⑤	⑥	

※「全学総合講座」および一部の科目は、記載方法が異なる場合があります。

3. 注意事項

①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。

必ず「講義目的、講義概要」の欄（上図③の部分）および『授業時間割表』を確認してください。

②定員

定員を設けている科目もあります。『授業時間割表』の「定員」の欄を参照してください。

ドイツ語学科授業科目(2009～2012年度入学用)

外国語科目

科名目	担当者	開講期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	レベル 定員	ページ
総合ドイツ語Ⅰ	各担当教員	春		1	1	全		11
総合ドイツ語Ⅱ	各担当教員	秋		1	1	全		11
総合ドイツ語Ⅲ	各担当教員	春		1	2	全		12
総合ドイツ語Ⅳ	各担当教員	秋		1	2	全		12
基礎ドイツ語Ⅰ	各担当教員	春		1	1	全		13
基礎ドイツ語Ⅱ	各担当教員	秋		1	1	全		13
応用ドイツ語Ⅰ	各担当教員	春		1	2	全		14
応用ドイツ語Ⅱ	各担当教員	秋		1	2	全		14
中級ドイツ語リーディング a	K. O. バイスヴェンガー	春	火2	1	2		A 25	15
中級ドイツ語リーディング b	K. O. バイスヴェンガー	秋	火2	1	2		A 25	15
中級ドイツ語リーディング a	H. H. ゲートケ	春	火4	1	2		B 25	16
中級ドイツ語リーディング b	H. H. ゲートケ	秋	火4	1	2		B 25	16
中級ドイツ語ライティング a	S. メルテンス	春	火1	1	2		A 25	17
中級ドイツ語ライティング b	S. メルテンス	秋	火1	1	2		A 25	17
中級ドイツ語ライティング a	T. マイヤー	春	木3	1	2		B 25	18
中級ドイツ語ライティング b	T. マイヤー	秋	木3	1	2		B 25	18
中級ドイツ語スピーキング a	J. シュトライト	春	月4	1	2		A 25	19
中級ドイツ語スピーキング b	J. シュトライト	秋	月4	1	2		A 25	19
中級ドイツ語スピーキング a	H. J. トロル	春	金1	1	2		B 25	20
中級ドイツ語スピーキング b	H. J. トロル	秋	金1	1	2		B 25	20
中級ドイツ語リスニング(CAL) a	J. シャルロート	春	火4	1	2		A 25	21
中級ドイツ語リスニング(CAL) b	J. シャルロート	秋	火4	1	2		A 25	21
中級ドイツ語リスニング(CAL) a	D. オルランド	春	木2	1	2		B 25	22
中級ドイツ語リスニング(CAL) b	D. オルランド	秋	木2	1	2		B 25	22
英語	M. J. クロフォード	春	木1	1	2		25	23
英語	M. J. クロフォード	秋	木1	1	2		25	23
総合ドイツ語Ⅴ	各担当教員	春		2	3		既・A・B 35	24
総合ドイツ語Ⅵ	各担当教員	秋		2	3		既・A・B 35	24
総合ドイツ語Ⅶ	各担当教員	春		2	4		既・A・B 35	25
総合ドイツ語Ⅷ	各担当教員	秋		2	4		既・A・B 35	25
上級ドイツ語リーディング a	K. O. バイスヴェンガー	春	月2	2	3		35	26
上級ドイツ語リーディング b	K. O. バイスヴェンガー	秋	月2	2	3		35	26
上級ドイツ語リーディング a	R. メッツィング	春	金2	2	3		35	27
上級ドイツ語リーディング b	R. メッツィング	秋	金2	2	3		35	27
上級ドイツ語ライティング a	H. J. トロル	春	月1	2	3		35	28
上級ドイツ語ライティング b	H. J. トロル	秋	月1	2	3		35	28
上級ドイツ語ライティング a	T. マイヤー	春	火2	2	3		35	29
上級ドイツ語ライティング b	T. マイヤー	秋	火2	2	3		35	29
上級ドイツ語ライティング a	I. アルブレヒト	春	木1	2	3		35	30
上級ドイツ語ライティング b	I. アルブレヒト	秋	木1	2	3		35	30
上級ドイツ語スピーキング a	I. アルブレヒト	春	水1	2	3		35	31
上級ドイツ語スピーキング b	I. アルブレヒト	秋	水1	2	3		35	31
上級ドイツ語スピーキング a	J. シャルロート	春	木2	2	3		35	32
上級ドイツ語スピーキング b	J. シャルロート	秋	木2	2	3		35	32
上級ドイツ語スピーキング a	R. ヘニング	春	金2	2	3		35	33
上級ドイツ語スピーキング b	R. ヘニング	秋	金2	2	3		35	33
上級ドイツ語リスニング(CAL) a	R. ヘニング	春	月2	2	3		35	34
上級ドイツ語リスニング(CAL) b	R. ヘニング	秋	月2	2	3		35	34
上級ドイツ語リスニング(CAL) a	T. マイヤー	春	木1	2	3		35	35
上級ドイツ語リスニング(CAL) b	T. マイヤー	秋	木1	2	3		35	35
中世ドイツ語 a	I. アルブレヒト	春	水2	2	3			36
中世ドイツ語 b	I. アルブレヒト	秋	水2	2	3			36
ビジネスドイツ語 a	H. H. ゲートケ	春	木3	2	3			37
ビジネスドイツ語 b	H. H. ゲートケ	秋	木3	2	3			37
上級英語	辻田 麻里	春	金2	2	3		25	38
上級英語	辻田 麻里	秋	金2	2	3		25	38

演習科目

科名目	担当者	開講期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	レベル 定員	ページ
ドイツ語圏入門Ⅰ	岡村 りら	春	水3	2	1	全		39
ドイツ語圏入門Ⅱ	岡村 りら	秋	水3	2	1	全		39
基礎演習Ⅰ	各担当教員	春	水2	2	2	全		40
基礎演習Ⅱ	各担当教員	秋	水2	2	2	全		40
通訳特殊演習	中山 純	春	金4	2	3		20	41
通訳特殊演習	中山 純	秋	金4	2	3		20	41
翻訳特殊演習	上田 浩二	春	金3	2	3		20	42
インターンシップ特殊演習	古田 善文	春	木3	2	3		35	43
留学準備特殊演習	柿沼 義孝	春	金2	2	3		35	44
外国語教育特殊演習	上田 浩二	秋	金3	2	3		35	45

概論・専門講義・テキスト研究科目

科名目	担当者	開講期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	レベル 定員	ページ
ドイツ語概論 a	柿沼 義孝	春	金4	2	1	交		46
ドイツ語概論 b	柿沼 義孝	秋	金4	2	1	交		46
ドイツ語圏文学・思想概論 a	矢羽々 崇	春	火1	2	1	交		47
ドイツ語圏文学・思想概論 b	矢羽々 崇	秋	火1	2	1	交		47
ドイツ語圏の言語 a	木内 基実	春	金2	2	2			48
ドイツ語圏の言語 b	木内 基実	秋	金2	2	2			48
ドイツ語圏の文学 a	石丸 昭二	春	火3	2	2			49
ドイツ語圏の文学 b	石丸 昭二	秋	火3	2	2			49
ドイツ語圏の思想 a	工藤 達也	春	月2	2	2			50
ドイツ語圏の思想 b	工藤 達也	秋	月2	2	2			50
テキスト研究(語学・文学・思想) a	能登 慶和	春	月2	2	3		35	51
テキスト研究(語学・文学・思想) b	能登 慶和	秋	月2	2	3		35	51
テキスト研究(語学・文学・思想) a	工藤 達也	春	月3	2	3		35	52
テキスト研究(語学・文学・思想) b	工藤 達也	秋	月3	2	3		35	52
テキスト研究(語学・文学・思想) a	P. ハインリヒ	春	水2	2	3		35	53
テキスト研究(語学・文学・思想) b	P. ハインリヒ	秋	水2	2	3		35	53
テキスト研究(語学・文学・思想) a	石丸 昭二	春	水3	2	3		35	54
テキスト研究(語学・文学・思想) b	石丸 昭二	秋	水3	2	3		35	54
テキスト研究(語学・文学・思想) a	上田 浩二	春	水4	2	3		35	55
テキスト研究(語学・文学・思想) b	上田 浩二	秋	水4	2	3		35	55
テキスト研究(語学・文学・思想) a	本橋 右京	春	木2	2	3		35	56
テキスト研究(語学・文学・思想) b	本橋 右京	秋	木2	2	3		35	56
テキスト研究(語学・文学・思想) a	渡部 重美	春	木3	2	3		35	57
テキスト研究(語学・文学・思想) b	渡部 重美	秋	木3	2	3		35	57
テキスト研究(語学・文学・思想) a	中山 純	春	金3	2	3		35	58
テキスト研究(語学・文学・思想) b	中山 純	秋	金3	2	3		35	58
ドイツ語圏芸術・文化概論 a	山本 淳	春	木1	2	1	交		59
ドイツ語圏芸術・文化概論 b	山本 淳	秋	木1	2	1	交		59
ドイツ語圏の美術 a	青山 愛香	春	月3	2	2			60
ドイツ語圏の美術 b	青山 愛香	秋	月3	2	2			60
ドイツ語圏の音楽 a	木村 佐千子	春	金3	2	2			61
ドイツ語圏の音楽 b	木村 佐千子	秋	金3	2	2			61
ドイツ語圏の演劇 a	上田 浩二	春	金2	2	2			62
ドイツ語圏の演劇 b	上田 浩二	秋	金2	2	2			62
ドイツ語圏のメディア文化 a	下川 浩	春	金5	2	2			63
ドイツ語圏のメディア文化 b	下川 浩	秋	金5	2	2			63
テキスト研究(芸術・文化) a	山本 淳	春	火2	2	3		35	64
テキスト研究(芸術・文化) b	山本 淳	秋	火2	2	3		35	64
テキスト研究(芸術・文化) a	工藤 達也	春	火3	2	3		35	65
テキスト研究(芸術・文化) b	工藤 達也	秋	火3	2	3		35	65
テキスト研究(芸術・文化) a	K. O. バイスヴェンガー	春	水1	2	3		35	66
テキスト研究(芸術・文化) b	K. O. バイスヴェンガー	秋	水1	2	3		35	66

概論・専門講義・テキスト研究科目

科名目	担当者	開講期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	レベル 定員	ページ
テキスト研究(芸術・文化) a	木村 佐千子	春	水2	2	3		35	67
テキスト研究(芸術・文化) b	木村 佐千子	秋	水2	2	3		35	67
テキスト研究(芸術・文化) a	上田 浩二	春	水5	2	3		35	68
テキスト研究(芸術・文化) b	上田 浩二	秋	水5	2	3		35	68
テキスト研究(芸術・文化) a	飯沼 隆一	春	木1	2	3		35	69
テキスト研究(芸術・文化) b	飯沼 隆一	秋	木1	2	3		35	69
テキスト研究(芸術・文化) a	前田 智	春	木2	2	3		35	70
テキスト研究(芸術・文化) b	前田 智	秋	木2	2	3		35	70
ドイツ語圏現代社会概論 a	岡村 りら	春	火4	2	1			71
ドイツ語圏現代社会概論 b	岡村 りら	秋	火4	2	1			71
ドイツ語圏歴史概論 a	古田 善文	春	木5	2	1	交		72
ドイツ語圏歴史概論 b	古田 善文	秋	木5	2	1	交		72
ドイツ語圏の政治・経済 a	大重 光太郎	春	火2	2	2			73
ドイツ語圏の政治・経済 b	大重 光太郎	秋	火2	2	2			73
ドイツ語圏の歴史 a	増谷 英樹	春	水5	2	2			75
ドイツ語圏の歴史 b	増谷 英樹	秋	水5	2	2			75
ドイツ語圏の地域・環境問題 a	飯嶋 曜子	春	木3	2	2			76
ドイツ語圏の地域・環境問題 b	岡村 りら	秋	木3	2	2			76
ドイツ語圏とEU a	飯嶋 曜子	春	火4	2	2	全	200	77
ドイツ語圏とEU b	飯嶋 曜子	秋	火4	2	2	全	200	77
テキスト研究(現代社会・歴史) a	大重 光太郎	春	月2	2	3		35	78
テキスト研究(現代社会・歴史) b	大重 光太郎	秋	月2	2	3		35	78
テキスト研究(現代社会・歴史) a	黒田 多美子	春	火2	2	3		35	79
テキスト研究(現代社会・歴史) b	黒田 多美子	秋	火2	2	3		35	79
テキスト研究(現代社会・歴史) a	J. シャルロート	春	火3	2	3		35	80
テキスト研究(現代社会・歴史) b	J. シャルロート	秋	火3	2	3		35	80
テキスト研究(現代社会・歴史) a	飯嶋 曜子	春	水2	2	3		35	81
テキスト研究(現代社会・歴史) b	飯嶋 曜子	秋	水2	2	3		35	81
テキスト研究(現代社会・歴史) a	増谷 英樹	春	水4	2	3		35	82
テキスト研究(現代社会・歴史) b	増谷 英樹	秋	水4	2	3		35	82
テキスト研究(現代社会・歴史) a	前田 直子	春	金2	2	3		35	83
テキスト研究(現代社会・歴史) b	前田 直子	秋	金2	2	3		35	83

交流文化論

科名目	担当者	開講期	曜時	単位数	開始 学年	履修不可	ページ
交流文化論(サステイナブル・ツーリズム論)	北野 収	春	月3	2	2	交・養・経・法	85
交流文化論(旅行・宿泊産業論)	遠藤 充信	春	火4	2	2	交・養・経・法	86
交流文化論(メディア・ライティング論)	横村 出	春	水4	2	2	交・養・経・法	87
交流文化論(航空産業論)	山路 顕	春	木2	2	2	交・養・経・法	88
交流文化論(開発文化論)	北野 収	春	金2	2	2	交・養・経・法	89
交流文化論(食の文化論)	北野 収	春	金3	2	2	交・養・経・法	90
交流文化論(ツーリズム人類学)	須永 和博	春	金5	2	2	交・養・経・法	91
交流文化論(ツーリズム文化論)	遠藤 充信	秋	火4	2	2	交・養・経・法	92
交流文化論(国際会議・イベント事業論)	遠藤 充信	秋	火5	2	2	交・養・経・法	93
交流文化論(ツーリズム政策論)	山路 顕	秋	火5	2	2	交・養・経・法	94
交流文化論(ツーリズム・マネジメント論)	山路 顕	秋	木2	2	2	交・養・経・法	95
交流文化論(表象文化論)	高橋 雄一郎	秋	木4	2	2	交・養・経・法	96
交流文化論(ツーリズム・メディア論)	高橋 利男	秋	金1	2	2	交・養・経・法	97
交流文化論(市民参加のまちづくり論)	北野 収	秋	金2	2	2	交・養・経・法	98
交流文化論(トランスナショナル社会学)	北野 収	秋	金3	2	2	交・養・経・法	99
交流文化論(オルタナティブ・ツーリズム論)	須永 和博	秋	金5	2	2	交・養・経・法	100

ドイツ語学科授業科目(2005～2008年度入学者用)

学科基礎科目

科名目	担当者	開講期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
総合ドイツ語Ⅰ	各担当教員	春		1	1	全	11
総合ドイツ語Ⅱ	各担当教員	秋		1	1	全	11
基礎ドイツ語Ⅰ	各担当教員	春		1	1	全	13
基礎ドイツ語Ⅱ	各担当教員	秋		1	1	全	13
ドイツ語LLⅠ	J. シャルロート	春	火4	1	1		21
ドイツ語LLⅠ	D. オルランド	春	木2	1	1		22
ドイツ語LLⅡ	J. シャルロート	秋	火4	1	1		21
ドイツ語LLⅡ	D. オルランド	秋	木2	1	1		22
総合ドイツ語Ⅲ	各担当教員	春		1	2	全	12
総合ドイツ語Ⅳ	各担当教員	秋		1	2	全	12
基礎ドイツ語Ⅲ	各担当教員	春		1	2	全	14
基礎ドイツ語Ⅳ	各担当教員	秋		1	2	全	14
ドイツ語圏入門Ⅰ	岡村 りら	春	水3	2	1	全	39
ドイツ語圏入門Ⅱ	岡村 りら	秋	水3	2	1	全	39
基礎演習Ⅰ	各担当教員	春	水2	2	2	全	40
基礎演習Ⅱ	各担当教員	秋	水2	2	2	全	40

学科共通科目

科名目	担当者	開講期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
総合ドイツ語Ⅴ	各担当教員	春		1	3	全	24
総合ドイツ語Ⅵ	各担当教員	秋		1	3	全	24
上級ドイツ語(時事)	K. O. バイスヴェンガー	春	月2	2	3		26
上級ドイツ語(時事)	K. O. バイスヴェンガー	秋	月2	2	3		26
上級ドイツ語(時事)	R. メッツィング	春	金2	2	3		27
上級ドイツ語(時事)	R. メッツィング	秋	金2	2	3		27
上級ドイツ語(会話)	I. アルブレヒト	春	水1	2	3		31
上級ドイツ語(会話)	I. アルブレヒト	秋	水1	2	3		31
上級ドイツ語(会話)	J. シャルロート	春	木2	2	3		32
上級ドイツ語(会話)	J. シャルロート	秋	木2	2	3		32
上級ドイツ語(会話)	R. ヘニング	春	金2	2	3		33
上級ドイツ語(会話)	R. ヘニング	秋	金2	2	3		33
上級ドイツ語(作文)	H. J. トロル	春	月1	2	3		28
上級ドイツ語(作文)	H. J. トロル	秋	月1	2	3		28
上級ドイツ語(作文)	T. マイヤー	春	火2	2	3		29
上級ドイツ語(作文)	T. マイヤー	秋	火2	2	3		29
上級ドイツ語(作文)	I. アルブレヒト	春	木1	2	3		30
上級ドイツ語(作文)	I. アルブレヒト	秋	木1	2	3		30
中世ドイツ語Ⅰ	I. アルブレヒト	春	水2	2	3		36
中世ドイツ語Ⅱ	I. アルブレヒト	秋	水2	2	3		36
通訳特殊演習Ⅰ	中山 純	春	金4	2	3		41
通訳特殊演習Ⅱ	中山 純	秋	金4	2	3		41

学科専門科目

「Ⅰ類」部門

科名目	担当者	開講期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
ドイツ語学概論Ⅰ	柿沼 義孝	春	金4	2	1		46
ドイツ語学概論Ⅱ	柿沼 義孝	秋	金4	2	1		46
ドイツ文学概論Ⅰ	矢羽々 崇	春	火1	2	1		47
ドイツ文学概論Ⅱ	矢羽々 崇	秋	火1	2	1		47
ドイツ語学各論Ⅰ	木内 基実	春	金2	2	2		48
ドイツ語学各論Ⅱ	木内 基実	秋	金2	2	2		48
ドイツ文学各論Ⅰ	石丸 昭二	春	火3	2	2		49
ドイツ文学各論Ⅱ	石丸 昭二	秋	火3	2	2		49
ドイツ語講読(語学)	能登 慶和	春	月2	2	3		51
ドイツ語講読(語学)	能登 慶和	秋	月2	2	3		51
ドイツ語講読(語学)	P. ハイน์リヒ	春	水2	2	3		53
ドイツ語講読(語学)	P. ハイน์リヒ	秋	水2	2	3		53
ドイツ語講読(語学)	中山 純	春	金3	2	3		58
ドイツ語講読(語学)	中山 純	秋	金3	2	3		58
ドイツ語講読(文学)	石丸 昭二	春	水3	2	3		54
ドイツ語講読(文学)	石丸 昭二	秋	水3	2	3		54
ドイツ語講読(文学)	上田 浩二	春	水4	2	3		55
ドイツ語講読(文学)	上田 浩二	秋	水4	2	3		55
ドイツ語講読(文学)	本橋 右京	春	木2	2	3		56
ドイツ語講読(文学)	本橋 右京	秋	木2	2	3		56

「Ⅱ類」部門

科名目	担当者	開講期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
ドイツ文化史概論Ⅰ	山本 淳	春	木1	2	1		59
ドイツ文化史概論Ⅱ	山本 淳	秋	木1	2	1		59
ドイツの思想Ⅰ	工藤 達也	春	月2	2	2		50
ドイツの思想Ⅱ	工藤 達也	秋	月2	2	2		50
ドイツの音楽Ⅰ	木村 佐千子	春	金3	2	2		61
ドイツの音楽Ⅱ	木村 佐千子	秋	金3	2	2		61
ドイツの美術Ⅰ	青山 愛香	春	月3	2	2		60
ドイツの美術Ⅱ	青山 愛香	秋	月3	2	2		60
ドイツの演劇Ⅰ	上田 浩二	春	金2	2	2		62
ドイツの演劇Ⅱ	上田 浩二	秋	金2	2	2		62
ドイツ思想・芸術各論Ⅰ	下川 浩	春	金5	2	2		63
ドイツ思想・芸術各論Ⅱ	下川 浩	秋	金5	2	2		63
ドイツ語講読(思想)	工藤 達也	春	月3	2	3		52
ドイツ語講読(思想)	工藤 達也	秋	月3	2	3		52
ドイツ語講読(思想)	渡部 重美	春	木3	2	3		57
ドイツ語講読(思想)	渡部 重美	秋	木3	2	3		57
ドイツ語講読(芸術)	山本 淳	春	火2	2	3		64
ドイツ語講読(芸術)	山本 淳	秋	火2	2	3		64
ドイツ語講読(芸術)	工藤 達也	春	火3	2	3		65
ドイツ語講読(芸術)	工藤 達也	秋	火3	2	3		65

「Ⅱ類」部門

科名目	担当者	開講期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
ドイツ語講読(芸術)	K. O. バイスヴェンガー	春	水1	2	3		66
ドイツ語講読(芸術)	K. O. バイスヴェンガー	秋	水1	2	3		66
ドイツ語講読(芸術)	木村 佐千子	春	水2	2	3		67
ドイツ語講読(芸術)	木村 佐千子	秋	水2	2	3		67
ドイツ語講読(芸術)	上田 浩二	春	水5	2	3		68
ドイツ語講読(芸術)	上田 浩二	秋	水5	2	3		68
ドイツ語講読(芸術)	飯沼 隆一	春	木1	2	3		69
ドイツ語講読(芸術)	飯沼 隆一	秋	木1	2	3		69
ドイツ語講読(芸術)	前田 智	春	木2	2	3		70
ドイツ語講読(芸術)	前田 智	秋	木2	2	3		70

「Ⅲ類」部門

科名目	担当者	開講期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
ドイツ史概論Ⅰ	古田 善文	春	木5	2	1		72
ドイツ史概論Ⅱ	古田 善文	秋	木5	2	1		72
ドイツの歴史Ⅰ	増谷 英樹	春	水5	2	2		75
ドイツの歴史Ⅱ	増谷 英樹	秋	水5	2	2		75
ドイツの地誌・民俗Ⅰ	飯嶋 曜子	春	木3	2	2		76
ドイツの地誌・民俗Ⅱ	岡村 りら	秋	木3	2	2		76
ドイツの政治・対外関係Ⅰ	飯嶋 曜子	春	火4	2	2	全	77
ドイツの政治・対外関係Ⅱ	飯嶋 曜子	秋	火4	2	2	全	77
ドイツの経済Ⅰ	大重 光太郎	春	火2	2	2		73
ドイツの経済Ⅱ	大重 光太郎	秋	火2	2	2		73
ドイツの法律Ⅰ	市川 須美子	春	木3	2	2	法	74
ドイツの法律Ⅱ	宗田 貴行	秋	木3	2	2	法	74
ドイツ語講読(歴史)	黒田 多美子	春	火2	2	3		79
ドイツ語講読(歴史)	黒田 多美子	秋	火2	2	3		79
ドイツ語講読(歴史)	増谷 英樹	春	水4	2	3		82
ドイツ語講読(歴史)	増谷 英樹	秋	水4	2	3		82
ドイツ語講読(歴史)	前田 直子	春	金2	2	3		83
ドイツ語講読(歴史)	前田 直子	秋	金2	2	3		83
ドイツ語講読(社会)	大重 光太郎	春	月2	2	3		78
ドイツ語講読(社会)	大重 光太郎	秋	月2	2	3		78
ドイツ語講読(社会)	J. シャルロート	春	火3	2	3		80
ドイツ語講読(社会)	J. シャルロート	秋	火3	2	3		80
ドイツ語講読(社会)	飯嶋 曜子	春	水2	2	3		81
ドイツ語講読(社会)	飯嶋 曜子	秋	水2	2	3		81

外国語学部共通科目

科名目	担当者	開講期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
総合講座	廣田 愛理	春	水2	2	1	養・経・法	101
総合講座	廣田 愛理	秋	水2	2	1	養・経・法	101
総合講座	谷口 亜沙子	春	水3	2	1	養・経・法	102
総合講座	谷口 亜沙子	秋	水3	2	1	養・経・法	102
情報科学概論a	呉 浩東	春	月2	2	1	養・経・法	103
情報科学概論b	休講						
(入門)情報科学各論	各担当教員						
(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火2	2	1	養・経・法	104
(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火3	2	1	養・経・法	104
(情報処理演習)[総合]	内田 俊郎	秋	木4	2	1	養・経・法	104
(情報処理演習)[英語]	内田 富男	春	水1	2	1	養・経・法	105
(情報処理演習)[英語]	内田 富男	秋	水1	2	1	養・経・法	105
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	木1	2	1	養・経・法	106
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	春	火2	2	1	養・経・法	106
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	金4	2	1	養・経・法	106
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	木1	2	1	養・経・法	106
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	秋	火2	2	1	養・経・法	106
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	金4	2	1	養・経・法	106
(応用)情報科学各論	各担当教員						
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	春	水2	2	1	養・経・法	107
(Excel・プレゼンテーション中級)	内田 俊郎	春	木2	2	1	養・経・法	107
(Excel・プレゼンテーション中級)	田中 雅英	秋	火4	2	1	養・経・法	107
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	秋	水2	2	1	養・経・法	107
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	春	月4	2	1	養・経・法	108
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	秋	月4	2	1	養・経・法	108
(Word中級)	金子 憲一	春	月3	2	1	養・経・法	109
(Word中級)	金子 憲一	春	月5	2	1	養・経・法	109
(Word中級)	内田 俊郎	春	木4	2	1	養・経・法	109
(Word中級)	田中 雅英	秋	火2	2	1	養・経・法	109
(Word中級)	内田 俊郎	秋	木3	2	1	養・経・法	109
(Office中級)	松山 恵美子	春	水3	2	1	養・経・法	110
(Office中級)	松山 恵美子	秋	水3	2	1	養・経・法	110
(言語情報処理1)	羽山 恵	春	木2	2	2	英・養・経・法	111
(言語情報処理1)	吉成 雄一郎	春	金2	2	2	英・養・経・法	112
(言語情報処理2)	羽山 恵	秋	木2	2	2	英・養・経・法	111
(言語情報処理2)	吉成 雄一郎	秋	金2	2	2	英・養・経・法	112
(HTML)情報科学各論	各担当教員						
(HTML初級)	内田 俊郎	春	木3	2	1	養・経・法	113
(HTML初級)	金子 憲一	秋	月3	2	1	養・経・法	113
(HTML初級)	田中 雅英	秋	火3	2	1	養・経・法	113
(HTML初級)	内田 俊郎	秋	木2	2	1	養・経・法	113
(HTML中級)	金子 憲一	秋	月5	2	1	養・経・法	114
経済原論a	未定(掲示で確認)	春	金2	2	2	養・経・法	115
経済原論b	未定(掲示で確認)	秋	金2	2	2	養・経・法	115
社会心理学a	休講						
社会心理学b	休講						

※定員のある科目はオンライン登録による抽選となります。必ず抽選結果を確認してください。

※情報科学各論を履修する場合は、『授業時間割表』の「情報科学各論 重複履修可否一覧」を参考にしてください。

ドイツ語学科科目シラバス

05 年度以降	総合ドイツ語 I	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<未習クラス> ネイティブ教員（週 2 コマ）と日本人教員（週 1 コマ）の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという 4 つの能力をバランスよく向上させ、1 年間の総合ドイツ語履修により「ヨーロッパ共通基準 Gemeinsamer europäischer Referenzrahmen für Sprachen」の A1 レベルの水準達成を、また 3 年間の総合ドイツ語履修により Goethe-Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。 外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。 <既習クラス> 別メニュー、別テキストで授業が行われます。詳細については、初回授業時に指示を受けてください。		1. 2. 3. 4. 5. 6. 5 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <未習クラス> テキストの 1～7 課 <既習クラス> 初回授業時に指示	
テキスト、参考文献		評価方法	
<未習クラス>『Schritte international 1 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』（Hueber）> 初回授業時までに購入 <既習クラス>初回授業時に指示		出席状況、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語 I の単位が取れないと、次の総合ドイツ語 II へ進めません。	

05 年度以降	総合ドイツ語 II	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<未習クラス> ネイティブ教員（週 2 コマ）と日本人教員（週 1 コマ）の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという 4 つの能力をバランスよく向上させ、1 年間の総合ドイツ語履修により「ヨーロッパ共通基準 Gemeinsamer europäischer Referenzrahmen für Sprachen」の A1 レベルの水準達成を、また 3 年間の総合ドイツ語履修により Goethe-Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。 外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。 <既習クラス> 別メニュー、別テキストで授業が行われます。詳細については、初回授業時に指示を受けてください。		1. 2. 3. 4. 5. 6. 5 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <未習クラス> テキストの 8～14 課 <既習クラス> 初回授業時に指示	
テキスト、参考文献		評価方法	
<未習クラス>『Schritte international 2 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』（Hueber）> 初回授業時までに購入 <既習クラス>初回授業時に指示		出席状況、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語 II の単位が取れないと、次の総合ドイツ語 III へ進めません。	

05 年度以降	総合ドイツ語 III	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<未習クラス> ネイティブ教員（週 2 コマ）と日本人教員（週 1 コマ）の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという 4 つの能力をバランスよく向上させ、総合ドイツ語 III, IV の履修により「ヨーロッパ共通基準 Gemeinsamer europäischer Referenzrahmen für Sprachen」の A2 レベルの水準達成を、また 3 年間の総合ドイツ語履修により Goethe-Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。 外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。 <既習クラス> 別メニュー、別テキストで授業が行われます。詳細については、初回授業時に指示を受けてください。		1. 2. 3. 4. 5. 6. 5 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <未習クラス> テキストの 1～7 課 <既習クラス> 初回授業時に指示	
テキスト、参考文献		評価方法	
<未習クラス>『Schritte international 3 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』（Hueber）>初回授業時までに購入 <既習クラス>初回授業時に指示		出席状況、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語 III の単位が取れないと、次の総合ドイツ語 IV へ進めません。	

05 年度以降	総合ドイツ語 IV	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<未習クラス> ネイティブ教員（週 2 コマ）と日本人教員（週 1 コマ）の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという 4 つの能力をバランスよく向上させ、総合ドイツ語 III, IV の履修により「ヨーロッパ共通基準 Gemeinsamer europäischer Referenzrahmen für Sprachen」の A2 レベルの水準達成を、また 3 年間の総合ドイツ語履修により Goethe-Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。 外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。 <既習クラス> 別メニュー、別テキストで授業が行われます。詳細については、初回授業時に指示を受けてください。		1. 2. 3. 4. 5. 6. 5 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <未習クラス> テキストの 8～14 課 <既習クラス> 初回授業時に指示	
テキスト、参考文献		評価方法	
<未習クラス>『Schritte international 4 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』（Hueber）>初回授業時までに購入 <既習クラス>初回授業時に指示		出席状況、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語 IV の単位が取れないと、次の総合ドイツ語 V へ進めません。	

05 年度以降	基礎ドイツ語 I	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<未習クラス (2～7組) > 春 (=基礎ドイツ語I) と秋 (=基礎ドイツ語II) の2学期間で、ドイツ語の基本 (基本文法=仕組み、基本語彙、基本表現など) をひと通り修得します。 この授業で身につけるべき学習内容は、これからドイツ語運用能力を養成していく上で欠くことのできない重要な土台となるものです。予習・復習をしっかりと行い、継続的な積み重ねを大切にしながら勉強を進めて下さい。 具体的な目標としては、1年間の勉強で「独検 (ドイツ語技能検定試験)」3級合格レベルを目指します。 詳細 (授業の進め方、評価方法、辞書の扱い等) については、初回授業時に説明します。 <既習クラス (1組) > ネイティブ教員により別メニュー、別テキストで授業が行われます。詳細については、初回授業時に指示を受けて下さい。		1. 2. 3. 4. 5. 6. 5 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <未習クラス> テキストの 1～10 課 <既習クラス> 初回授業時に指示	
テキスト、参考文献		評価方法	
<未習クラス>矢羽々(他):『Schritte international 1+2 日本語で学ぶドイツ語文法』 Ismaning (Hueber) 2009 <既習クラス>初回授業時に指示		<未習クラス>学期末統一試験の結果によって評価 (ただし、1 学期の間に授業回数の 3 分の 1 を超えて欠席すると評価の対象となりませんので、注意して下さい。) <既習クラス>初回授業時に指示	

05 年度以降	基礎ドイツ語 II	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<未習クラス (2～7組) > 春 (=基礎ドイツ語I) と秋 (=基礎ドイツ語II) の2学期間で、ドイツ語の基本 (基本文法=仕組み、基本語彙、基本表現など) をひと通り修得します。 この授業で身につけるべき学習内容は、これからドイツ語運用能力を養成していく上で欠くことのできない重要な土台となるものです。予習・復習をしっかりと行い、継続的な積み重ねを大切にしながら勉強を進めて下さい。 具体的な目標としては、1年間の勉強で「独検 (ドイツ語技能検定試験)」3級合格レベルを目指します。 詳細 (授業の進め方、評価方法、辞書の扱い等) については、初回授業時に説明します。 <既習クラス (1組) > ネイティブ教員により別メニュー、別テキストで授業が行われます。詳細については、初回授業時に指示を受けて下さい。		1. 2. 3. 4. 5. 6. 5 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <未習クラス> テキストの 11～20 課 <既習クラス> 初回授業時に指示	
テキスト、参考文献		評価方法	
<未習クラス>矢羽々(他):『Schritte international 1+2 日本語で学ぶドイツ語文法』 Ismaning (Hueber) 2009 <既習クラス>初回授業時に指示		<未習クラス>学期末統一試験の結果によって評価 (ただし、1 学期の間に授業回数の 3 分の 1 を超えて欠席すると評価の対象となりませんので、注意して下さい。) <既習クラス>初回授業時に指示	

09 年度以降 08 年度以前	応用ドイツ語Ⅰ 基礎ドイツ語Ⅲ	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、すでに「基礎ドイツ語ⅠおよびⅡ」を修得し、ドイツ語の基本的能力を身につけた学生を対象に、とりわけ読解と作文に重点を置いた応用的なトレーニングを行い、中級へのレベルアップを図ります。 効率的に学習を進めるため、授業に参加する際には、必ず予習をしてきてください。指示がない限り、授業中に辞書で調べることは禁止します。 また、適宜小テストを行い、内容の理解度、学んだことの定着度を確認します。 出席状況は、学期末試験の受験制限（学期中の規定欠席回数を超えると受験できない）に関係します。休めばそれだけ内容もわからなくなってしまうし、生活習慣や学習のリズムをつくるためにも、必ず毎回出席してください。 詳細については、第 1 回目の授業で説明します。		* 詳しい授業計画は、第 1 回目の授業で説明します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
<テキスト> 大谷弘道『ドイツ人を知る 9 章+1』(三修社)2011 年 <参考文献> 清野智昭『中級ドイツ語のしくみ』(白水社)2008 年、中島・朝倉・平尾『必携ドイツ文法総まとめ』(白水社)2003 年		小テストおよび学期末試験（出席状況にもとづく受験制限がありますので、注意してください）により評価します。	

09 年度以降 08 年度以前	応用ドイツ語Ⅱ 基礎ドイツ語Ⅳ	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、すでに「応用ドイツ語Ⅰ」を修得した学生を対象に、とりわけ読解と作文に重点を置いた応用的なトレーニングを行い、引き続き中級へのレベルアップを図ります。 効率的に学習を進めるため、授業に参加する際には、必ず予習をしてきてください。指示がない限り、授業中に辞書で調べることは禁止します。 また、適宜小テストを行い、内容の理解度、学んだことの定着度を確認します。 出席状況は、学期末試験の受験制限（学期中の規定欠席回数を超えると受験できない）に関係します。休めばそれだけ内容もわからなくなってしまうし、生活習慣や学習のリズムをつくるためにも、必ず毎回出席してください。 詳細については、第 1 回目の授業で説明します。		* 詳しい授業計画は、第 1 回目の授業で説明します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
<テキスト> Schmidt/Duppel-Takayama/三ツ石/和泉『現代ドイツを学ぶための 10 章 (Kennzeichen.de junior)』(三修社)2009 年 <参考文献> 清野智昭『中級ドイツ語のしくみ』(白水社)2008 年、中島・朝倉・平尾『必携ドイツ文法総まとめ』(白水社)2003 年		小テストおよび学期末試験（出席状況にもとづく受験制限がありますので、注意してください）により評価します。	

09 年度以降	中級ドイツ語リーディング a	担当者	K. O. バイスヴェンガー
講義目的、講義概要		授業計画	
In diesem Kurs werden verschiedene Textsorten gelesen, so dass auch unterschiedliche Lesestile geschult werden können. Die Texte sind gleichzeitig Grundlage für weiterführende Arbeiten. Die Texte sind einfach und haben verschiedene Themen zum Inhalt. Jedes Thema wird mit einer Wortschatzarbeit eingeleitet. Der Unterrichtsplan ist als Beispiel zu verstehen, Änderungen, auch auf Wunsch der Teilnehmer, sind möglich. 未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既習クラスの学生を対象とします。(成績がそれ以外でも受講可。)		1 Einführung 2-4: Freizeit und Hobby 5-7: Wohnen und Leben 8-10: Deutsche Städte 11-13: Berufe 14-15: Feste	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Regelmäßige, aktive Teilnahme, Hausarbeit	

09 年度以降	中級ドイツ語リーディング b	担当者	K. O. バイスヴェンガー
講義目的、講義概要		授業計画	
In diesem Kurs werden verschiedene Textsorten gelesen, so dass auch unterschiedliche Lesestile geschult werden können. Die Texte sind gleichzeitig Grundlage für weiterführende Arbeiten. Die Texte sind einfach und haben verschiedene Themen zum Inhalt. Jedes Thema wird mit einer Wortschatzarbeit eingeleitet. Der Unterrichtsplan ist als Beispiel zu verstehen, Änderungen, auch auf Wunsch der Teilnehmer, sind möglich. 未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既習クラスの学生を対象とします。(成績がそれ以外でも受講可。)		1: Einführung 2-4: Essen und Trinken 5-7: Mode und Einkaufen 8-10: Sport 11-13: Wichtige Persönlichkeiten 14-15: Familiäre Beziehungen	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Regelmäßige, aktive Teilnahme, Hausarbeit	

09 年度以降	中級ドイツ語リーディング a	担当者	H. H. ゲートケ
講義目的、講義概要		授業計画	
Im Unterricht werden gemeinsam Texte aus Geschichte, Gesellschaft und Politik bearbeitet, die von den Kursteilnehmern in Hausarbeit vorzubereiten sind. Dabei sollen nicht nur Begriffe und Ausdrucksformen geklärt, sondern es soll auch über die Inhalte gesprochen und, wenn möglich, diskutiert werden. Über die Autoren und/oder Hintergründe eines Themas soll abwechselnd je ein Kursteilnehmer im Forum ein Kurzreferat halten. 未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を対象とします。(成績がそれ以外でも受講可。)		Vorläufige Liste der zu verwendenden Materialien: "Deutsche Redensarten" "Das Albert Schweitzer Lesebuch" "Der Dativ ist dem Genitiv sein Tod. Ein Wegweiser durch den Irrgarten der deutschen Sprache." "Deutsches Anekdotenbuch" Florian Coulmas: "Die Deutschen schreien"	
テキスト、参考文献		評価方法	
Textkopien werden zur Verfügung gestellt		Intensive Vorbereitung zu Hause, regelmäßige Teilnahme und aktive Mitarbeit im Unterricht Kurzreferate	

09 年度以降	中級ドイツ語リーディング b	担当者	H. H. ゲートケ
講義目的、講義概要		授業計画	
Im Unterricht werden gemeinsam Texte aus Geschichte, Gesellschaft und Politik bearbeitet, die von den Kursteilnehmern in Hausarbeit vorzubereiten sind. Dabei sollen nicht nur Begriffe und Ausdrucksformen geklärt, sondern es soll auch über die Inhalte gesprochen und, wenn möglich, diskutiert werden. Über die Autoren und/oder Hintergründe eines Themas soll abwechselnd je ein Kursteilnehmer im Forum ein Kurzreferat halten. 未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を対象とします。(成績がそれ以外でも受講可。)		Vorläufige Liste der zu verwendenden Materialien: Günther Zobel: "Die Japanesen in Berlin". Bibliothek der Deutschen Werte: "Der Deutsche Verkehr". "Papa, Charly hat gesagt..." Kurt Magnus: "Kenn' Se den schon? Die köstlichsten Witze und Anekdotchen". Felix Rexhausen: " Schön Deutsch Gesagt."	
テキスト、参考文献		評価方法	
Textkopien werden zur Verfügung gestellt		Intensive Vorbereitung zu Hause, regelmäßige Teilnahme und aktive Mitarbeit im Unterricht Kurzreferate	

09 年度以降	中級ドイツ語ライティング a	担当者	S. メルテンス
講義目的、講義概要		授業計画	
In dieser Veranstaltung wird das Schreiben von Texten geübt. Vorwiegend soll in Gruppen gearbeitet werden. Das Ziel der Veranstaltung ist es, die schriftliche Ausdrucksfähigkeit der Studenten zu verbessern. In der ersten Semesterhälfte werden konkrete Texttypen wie zum Beispiel Grußkarten und Bewerbungsschreiben geübt. In der zweiten Semesterhälfte sollen dann Beschreibungen auf der Basis von Bildern, Bildergeschichten oder kurzen Videos zu unterschiedlichen Themen zur deutschen Kultur und Gesellschaft geübt werden. Am Ende einer jeden Semesterhälfte findet ein kurzer Test statt. Im Unterricht werden neben den sprachlichen Übungen selbstverständlich auch landeskundliche Aspekte behandelt.		1. Einführung 2. Grußkarte 3. Privater Brief 4. Geschäftlicher Brief 5. Lebenslauf 6. Bewerbungsschreiben 7. Test 1 8. Land & Leute (I) 9. Land & Leute (II) 10. Kultur (I) 11. Kultur (II) 12. Gesellschaft (I) 13. Gesellschaft (II) 14. Sport (I) 15. Test 2 / Zusammenfassung der Lernerfolge 未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既習クラスの学生を対象とします。(成績がそれ以外でも受講可。)	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materialien werden als Kopien ausgegeben.		Anwesenheit und aktive Mitarbeit Eine einzureichende Hausaufgabe Zwei Tests	

09 年度以降	中級ドイツ語ライティング b	担当者	S. メルテンス
講義目的、講義概要		授業計画	
In dieser Veranstaltung wird das Schreiben von Texten geübt. Vorwiegend soll in Gruppen gearbeitet werden. Das Ziel der Veranstaltung ist es, die schriftliche Ausdrucksfähigkeit der Studenten zu verbessern. Wie im Sommersemester werden auch im Herbstsemester in der ersten Semesterhälfte konkrete Texttypen geübt. In der zweiten Semesterhälfte sollen dann ebenfalls Beschreibungen zu unterschiedlichen Themen zur deutschen Kultur und Gesellschaft geübt werden. Am Ende einer jeden Semesterhälfte findet ein kurzer Test statt. Im Unterricht werden neben den sprachlichen Übungen selbstverständlich auch landeskundliche Aspekte behandelt.		1. Einführung 2. Grußkarte 3. Briefe (privat, geschäftlich) 4. Lebenslauf und Bewerbungsschreiben 5. Zeitungsartikel 6. Augenzeugenbericht 7. Test 1 8. Land & Leute (III) 9. Land & Leute (IV) 10. Kultur (III) 11. Kultur (IV) 12. Gesellschaft (III) 13. Gesellschaft (IV) 14. Sport (II) 15. Test 2 / Zusammenfassung der Lernerfolge 未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既習クラスの学生を対象とします。(成績がそれ以外でも受講可。)	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materialien werden als Kopien ausgegeben.		Anwesenheit und aktive Mitarbeit Eine einzureichende Hausaufgabe Zwei Tests	

09 年度以降	中級ドイツ語ライティング a	担当者	T. マイヤー
講義目的、講義概要		授業計画	
Der Kurs richtet sich an Studenten des 2. Studienjahrs. Das Unterrichtsmaterial wird im Wesentlichen auf dem „Schreiben Intensivtrainer A1/A2“ von Langenscheidt beruhen. Diverse Schreibaufgaben werden nach entsprechender Vorbereitung im Unterricht zu erledigen und ggf. zu Hause zu komplettieren sein. Besprechungen und Fehleranalysen sollen zu einem bewussteren Schreiben und zu größerer Sicherheit bei Textaufbau und Textgliederung führen. Außerdem sind Übungen zum Aufgabenteil „Schriftlicher Ausdruck“ der ZD-Prüfung geplant.		第 1 回目の授業で説明します。	
未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を対象とします。(成績がそれ以外でも受講可。)			
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien werden ausgeteilt.		Die Note wird sich aus der regelmäßigen Teilnahme, Unterrichtsbeiträgen sowie gelegentlich eingesammelten Schreibaufgaben zusammensetzen.	

09 年度以降	中級ドイツ語ライティング b	担当者	T. マイヤー
講義目的、講義概要		授業計画	
Der Kurs richtet sich an Studenten des 2. Studienjahrs. Das Unterrichtsmaterial wird im Wesentlichen auf dem „Schreiben Intensivtrainer A1/A2“ von Langenscheidt beruhen. Diverse Schreibaufgaben werden nach entsprechender Vorbereitung im Unterricht zu erledigen und ggf. zu Hause zu komplettieren sein. Besprechungen und Fehleranalysen sollen zu einem bewussteren Schreiben und zu größerer Sicherheit beim Textaufbau führen. Außerdem sind Übungen zum Aufgabenteil „Schriftlicher Ausdruck“ der ZD-Prüfung geplant.		第 1 回目の授業で説明します。	
未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を対象とします。(成績がそれ以外でも受講可。)			
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien werden ausgeteilt.		Die Note wird sich aus der regelmäßigen Teilnahme, Unterrichtsbeiträgen sowie gelegentlich eingesammelten Schreibaufgaben zusammensetzen.	

09 年度以降	中級ドイツ語スピーキング a	担当者	J. シュトライト
講義目的、講義概要		授業計画	
Dieser Kurs bietet viel Gelegenheit zum Sprechen, in kleinen Gruppen, vor der ganzen Klasse oder auch in Zweigesprächen. Die Studierenden äußern sich zu Themen von Interesse und hören die Meinungen der anderen dazu. Wir legen Wert auf das Präsentieren der eigenen Person und ihrer Individualität einerseits und das kollaborative Sprachhandeln zur Planung und Durchführung gemeinsamer „Projekte“ andererseits. Wir simulieren zufälliges Zusammentreffen vor oder nach dem schönen Wochenende, verabredete Treffen nach längeren Intervallen – beides mit einem offenem Ausgang – und auch zweckorientierte Meetings im Rahmen der Anforderungen des realen Alltags- und Studentenlebens. „Musterbeispiele“ werden in Form von Fotokopien, audio-visuellen Materialien oder Live-Vorführungen zur Verfügung gestellt.		1. Auswahl von Gesprächsthemen und -situationen für das Sommersemester unter Berücksichtigung der Wünsche der Kursteilnehmer. 2.-14. Übung verschiedener kurzer Unterhaltungen in kleinen Gruppen von zwei oder mehr Teilnehmern mit Vorführungen vor der Klasse. 15. Test 未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既習クラスの学生を対象とします。(成績がそれ以外でも受講可。)	
テキスト、参考文献		評価方法	
Für jeden Unterricht werden entweder Fotokopien ausgehändigt oder Tonband- bzw. Videoaufnahmen vorgespielt.		Regelmäßige, aktive Teilnahme am Unterricht; Mündlicher Test am Ende des Semesters.	

09 年度以降	中級ドイツ語スピーキング b	担当者	J. シュトライト
講義目的、講義概要		授業計画	
Anknüpfend an die Dialog- und Präsentationsarbeit des 1. Semesters orientieren sich die Gesprächsthemen stärker an individuellen Präferenzen. Dabei üben wir vor allem das Initiieren und rasche verbale Reagieren beim Plaudern und auch im ernstesten Gespräch, so wie es erwartete oder oft unerwartete Fragen und Antworten verlangen. Gefragt ist ein aktives Interesse an der Erweiterung des eigenen Wortschatzes, wozu gerade das Format dieses Kurses viel Gelegenheit bietet. Neben einem bereicherten Wortschatz gehören auch Strategien zum Themawechsel und zum Beenden des Gesprächs auf höfliche Weise zum Erfolgsrezept. „Musterbeispiele“, die besonders den Einstieg für alle neuen TeilnehmerInnen erleichtern, werden in Form von Fotokopien oder audio-visuellen Materialien zur Verfügung gestellt.		1. Auswahl der Themen für das Wintersemester unter Berücksichtigung der Wünsche und Vorschläge der Kursteilnehmer. 2.-14. Übung verschiedener kurzer Unterhaltungen in kleinen Gruppen von zwei oder mehr Teilnehmern. 15. Test 未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既習クラスの学生を対象とします。(成績がそれ以外でも受講可。)	
テキスト、参考文献		評価方法	
Für jeden Unterricht werden entweder Fotokopien ausgehändigt oder Tonband- bzw. Videoaufnahmen vorgespielt.		Regelmäßige, aktive Teilnahme am Unterricht; Mündlicher Test am Ende des Semesters.	

09 年度以降	中級ドイツ語スピーキング a	担当者	H. J. トロル
講義目的、講義概要		授業計画	
Wir beginnen einfach, aber mit stetigem Fortschritt. Aktive und stetige Mitarbeit ist erforderlich für einen erfolgreichen Abschluss. Die Grundlage für Kommunikation und Tests ist das Lehrbuch. Am Ende soll eine vertretbare Konversation stehen. Dazu ist aber regelmäßige Teilnahme unabdingbar. 未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を対象とします。(成績がそれ以外でも受講可。)		1. Einleitung 2. Wiederholungen aller Art 3. Deutschlandkunde 4. Lektion 1 5. Lektion 2 a 6. Lektion 2b 7. Kleiner Test und Video 8. Lektion 3a 9. Lektion 3b 10. Lektion 4a 11. Lektion 4b 12. Kleiner Test und Video 13. Lektion 5a 14. Lektion 5b 15. Zusammenfassung	
テキスト、参考文献		評価方法	
Szenen 2 (ISBN978-4-384-13083-6) Sanshusha		Kleine Tests (70%) Unterrichtsleistung (30%)	

09 年度以降	中級ドイツ語スピーキング b	担当者	H. J. トロル
講義目的、講義概要		授業計画	
Das Gleiche wie oben wird angewandt. 未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を対象とします。(成績がそれ以外でも受講可。)		1. Einleitung 2. Wiederholungen aus dem ersten Semester 3. Lektion 6a 4. Lektion 6b 5. Lektion 7a 6. Lektion 7b 7. Lektion 8a 8. Lektion 8b 9. Kleiner Test und Video 10. Lektion 9a 11. Lektion 9b 12. Lektion 10a 13. Lektion 10b 14. Kleiner Test und Video 15. Zusammenfassung/Abschluss	
テキスト、参考文献		評価方法	
Lehrbuch wie oben		Kleine Tests (70%) Unterrichtsleistung (30%)	

09年度以降	中級ドイツ語リスニング (CAL) a	担当者	J. シャルロート
講義目的、講義概要		授業計画	
In diesem Kurs üben wir das globale und selektive Hörverstehen anhand praktischer Beispiele. Dabei orientieren wir uns an typischen Gesprächssorten des Deutschen. Mit der Hilfe gesprächsanalytischer Transkriptionen werden die Studierenden für Feinheiten der Aussprache, der Intonation und der Gesprächsorganisation sensibilisiert. 未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既習クラスの学生を対象とします。(成績がそれ以外でも受講可。)		1. Überblick 2. Übung 1 3. Übung 2 4. Übung 3 5. Übung 4 6. Übung 5 7. Übung 6 8. Übung 7 9. Übung 8 10. Übung 9 11. Übung 10 12. Übung 11 13. Übung 12 14. Übung 13 15. Zusammenfassung	
テキスト、参考文献		評価方法	
Texte und Übungen werden vom Kursleiter in Kopie zur Verfügung gestellt.		Abschlusstest	

09年度以降	中級ドイツ語リスニング (CAL) b	担当者	J. シャルロート
講義目的、講義概要		授業計画	
In diesem Kurs üben wir das globale und selektive Hörverstehen anhand praktischer Beispiele. Dabei orientieren wir uns an typischen Medientextsorten des Deutschen in Radio, Fernsehen und Internet. Die Studierenden sollen durch die Erlernung typischer Redemittel und Ritualisierungen in die Lage versetzt werden, Nachrichten, Interviews und Reportagen leichter (selektiv) zu verstehen. 未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既習クラスの学生を対象とします。(成績がそれ以外でも受講可。)		1. Überblick 2. Übung 1 3. Übung 2 4. Übung 3 5. Übung 4 6. Übung 5 7. Übung 6 8. Übung 7 9. Übung 8 10. Übung 9 11. Übung 10 12. Übung 11 13. Übung 12 14. Übung 13 15. Zusammenfassung	
テキスト、参考文献		評価方法	
Texte und Übungen werden vom Kursleiter in Kopie zur Verfügung gestellt.		Abschlusstest	

09 年度以降	中級ドイツ語リスニング (CAL) a	担当者	D. オルランド
講義目的、講義概要		授業計画	
Deutschlernen im WEB (1) In diesem Semester werden wir einfache Hörverständnisübungen zur deutschen Sprache und auch zur deutschen Kultur machen. Wir werden uns im Laufe des Semesters mit den verschiedenen Formen des Deutschlernens im WEB beschäftigen. Dabei werden wir nicht nur spezielle Hörtexte zum Erwerb der deutschen Sprache (inklusive Übungen) durchführen, sondern auch Videos (youtube ...), Kurzfilme oder Web-Geschichten sollen behandelt werden. Im Mittelpunkt des Unterrichts steht somit die Verbesserung der Hörverständnisfertigkeiten. Der Kurs beinhaltet aber auch zusätzlich Übungen zur Förderung der sprachlichen Ausdrucksfähigkeit und zur deutschen Kultur. 未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を対象とします。(成績がそれ以外でも受講可。)		Das Kursprogramm soll auch als ein Angebot angesehen werden, das die persönlichen Interessen und Fähigkeiten der Teilnehmer widerspiegelt. Deshalb kann das Programm variieren. 1. Einführung 2. Hörbeispiele zur deutschen Sprache (WEB) 3. Hörbeispiele zur deutschen Sprache (WEB) 4. Hörbeispiele zur deutschen Sprache (WEB) 5. Hörbeispiele zur deutschen Sprache (WEB) 6. Zwischentest 7. Hörbeispiele zur deutschen Kultur (WEB) 8. Hörbeispiele zur deutschen Kultur (WEB) 9. Hörbeispiele zur deutschen Kultur (WEB) 10. Hörbeispiele zur deutschen Kultur (WEB) 11. Zwischentest 12. Kurzfilm 13. Kurzfilm 14. Kursfilm 15. Test	
テキスト、参考文献		評価方法	
		1. regelmäßige Teilnahme (man darf nur 3x fehlen) 2. aktive Mitarbeit (+ Referat oder Vorstellung eines Videos)	

09 年度以降	中級ドイツ語リスニング (CAL) b	担当者	D. オルランド
講義目的、講義概要		授業計画	
Deutschlernen im WEB (2) In diesem Semester werden wir hauptsächlich Hörübungen aus dem deutschsprachigen Kulturkreis machen. Wir werden uns auch im zweiten Semester mit der deutschen Sprache im WEB beschäftigen. Im Mittelpunkt stehen einfach zu verstehende Videos (youtube ...), Kurzfilme oder Web-Geschichten. Zusätzlich werden auch Übungen angeboten, durch die die sprachliche Ausdrucksfähigkeit gefördert werden soll. 未習クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を対象とします。(成績がそれ以外でも受講可。)		Das Kursprogramm soll auch als ein Angebot angesehen werden, das die persönlichen Interessen und Fähigkeiten der Teilnehmer widerspiegelt. Die Themen werden nach der Einführungsveranstaltung angegeben.	
テキスト、参考文献		評価方法	
		1. regelmäßige Teilnahme (man darf nur 3x fehlen) 2. aktive Mitarbeit (+ Referat oder Vorstellung eines Videos)	

09 年度以降	英語	担当者	M. J. クロフォード
講義目的、講義概要		授業計画	
The course aims to (1) advance students' topical knowledge of German-speaking countries (<i>geography, culture, and social issues</i>) and (2) to develop general academic English skills. It is a content- and project-based course that will integrate all four language skills. Students will explore various aspects of German-speaking countries by participating in class activities such as reading articles from magazines and newspapers, listening to lectures and interviews, writing short reports, and giving presentations. All class activities will be conducted in English. Minimum TOEIC score required: 450		Week 1: Introduction to the course Week 2: Reading passage 1 (geography) Week 3: Listening passage 1 (geography), planning session 1 Week 4: Reading passage 2 (geography), planning session 2 Week 5: Listening passage 2 (geography), planning session 3 Week 6: Group presentations, reading passage 3 (culture) Week 7: Group presentations, listening passage 3 (culture) Week 8: Reading passage 4 (culture) Week 9: Listening passage 4 (social issues) Week 10: Reading passage 5 (social issues) Week 11: Listening passage 5 (social issues) Week 12: Listening passage 6 (social issues) Week 13: Individual presentations Week 14: Individual presentations Week 15: Individual presentations	
テキスト、参考文献		評価方法	
Handouts will be provided in class. Additionally, students will be responsible for finding materials themselves and sharing them with their classmates.		Attendance and participation (20%), short reports (20%), presentations (60%)	

09 年度以降	英語	担当者	M. J. クロフォード
講義目的、講義概要		授業計画	
The course aims to (1) advance students' topical knowledge of German-speaking countries (<i>history, economics, and politics</i>) and (2) to develop general academic English skills. It is a content- and project-based course that will integrate all four language skills. Students will explore various aspects of German-speaking countries by participating in class activities such as reading articles from magazines and newspapers, listening to lectures and interviews, writing short reports, and giving presentations (group and individual). All class activities will be conducted in English. Minimum TOEIC score required: 450		Week 1: Introduction to the course Week 2: Reading passage 1 (history) Week 3: Listening passage 1 (history), planning session 1 Week 4: Reading passage 2 (history), planning session 2 Week 5: Listening passage 2 (history), planning session 3 Week 6: Group presentations, reading passage 3 (economics) Week 7: Group presentations, listening passage 3 (economics) Week 8: Reading passage 4 (economics) Week 9: Listening passage 4 (economics) Week 10: Reading passage 5 (politics) Week 11: Listening passage 5 (politics) Week 12: Listening passage 6 (politics) Week 13: Individual presentations Week 14: Individual presentations Week 15: Individual presentations	
テキスト、参考文献		評価方法	
Handouts will be provided in class. Additionally, students will be responsible for finding materials themselves and sharing them with their classmates.		Attendance and participation (20%), short reports (20%), presentations (60%)	

05 年度以降	総合ドイツ語 V	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<未習クラス>ネイティブ教員のみの授業（週 2 コマ）により、特にコミュニケーション能力の向上や異文化理解の促進に重点を置き、ドイツ語の総合的な運用能力をさらに高めます。Goethe-Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。 外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。 <既習クラス>別メニュー、別テキストで授業が行われます。詳細については、初回授業時に指示を受けてください。 ＊注意！ >09 年度カリキュラム以降、「総合ドイツ語 V」は選択必修（1 学期に 2 単位×週 2 回＝4 単位）となります。 >未習の学生用には、A クラス（総合ドイツ語 IV の成績が A 以上の学生用）と B クラス（同、B 以下の学生用）の 2 クラスが開設されます。 >ただし既習の学生は、必ず「総合ドイツ語 V」（既習クラス用）を受講してください。 >詳しくは、時間割表を確認してください。		1. } 2. } 3. } 4. } 5. } <未習クラス> 6. } テキストの 1～7 課 7. } 8. } <既習クラス> 9. } 初回授業時に指示 10. } 11. } 12. } 13. } 14. } 15. }	
テキスト、参考文献		評価方法	
<未習クラス>『Schritte international 5 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』（Hueber）>初回授業時までに購入 <既習クラス>初回授業時に指示		出席状況や試験の結果等を総合して評価します。なお、総合ドイツ語 V の単位が取れないと、次の総合ドイツ語 VI へ進めません。	

05 年度以降	総合ドイツ語 VI	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<未習クラス>ネイティブ教員のみの授業（週 2 コマ）により、特にコミュニケーション能力の向上や異文化理解の促進に重点を置き、ドイツ語の総合的な運用能力をさらに高めます。Goethe-Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。 外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。 <既習クラス>別メニュー、別テキストで授業が行われます。詳細については、初回授業時に指示を受けてください。 ＊注意！ >09 年度カリキュラム以降、「総合ドイツ語 VI」は選択必修（1 学期に 2 単位×週 2 回＝4 単位）となります。 >未習の学生用には、A クラス（総合ドイツ語 V の成績が A 以上の学生用）と B クラス（同、B 以下の学生用）の 2 クラスが開設されます。 >ただし既習の学生は、必ず「総合ドイツ語 VI」（既習クラス用）を必ず受講してください。 >詳しくは、時間割表を確認してください。		1. } 2. } 3. } 4. } 5. } <未習クラス> 6. } テキストの 8～14 課 7. } 8. } <既習クラス> 9. } 初回授業時に指示 10. } 11. } 12. } 13. } 14. } 15. }	
テキスト、参考文献		評価方法	
<未習クラス>『Schritte international 6 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』（Hueber）>初回授業時までに購入（秋販売） <既習クラス>初回授業時に指示		出席状況や試験の結果等を総合して評価します。なお、総合ドイツ語 VI の単位が取れないと、次の総合ドイツ語 VII へ進めません。	

09 年度以降	総合ドイツ語Ⅶ	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<未習クラス>ネイティブ教員のための授業（週 2 コマ）により、特にコミュニケーション能力の向上や異文化理解の促進に重点を置き、ドイツ語の総合的な運用能力をさらに高めます。 外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。 <既習クラス>別メニュー、別テキストで授業が行われます。詳細については、初回授業時に指示を受けてください。 ＊注意！ >09 年度カリキュラム以降、「総合ドイツ語Ⅶ」は選択必修（1 学期に 2 単位×週 2 回＝4 単位）となります。 >未習の学生用には、A クラス（総合ドイツ語Ⅵの成績が A 以上の学生用）と B クラス（同、B 以下の学生用）の 2 クラスが開設されます。 >ただし既習の学生は、必ず「総合ドイツ語Ⅶ」（既習クラス用）を受講してください。 >詳しくは、時間割表を確認してください。		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <未習クラス> テキストの 1～4 課 各教員が追加教材を適宜準備する <既習クラス> 初回授業時に指示	
テキスト、参考文献		評価方法	
<未習クラス>『Ziel B1+ (Kursbuch + Arbeitsbuch) 』（Hueber） >初回授業時まで購入。（総合ドイツ語Ⅷも同テキストを使用） <既習クラス>初回授業時に指示		出席状況や試験の結果等を総合して評価します。なお、総合ドイツ語Ⅶの単位が取れないと、次の総合ドイツ語Ⅷへ進めません。	

09 年度以降	総合ドイツ語Ⅷ	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<未習クラス>ネイティブ教員のための授業（週 2 コマ）により、特にコミュニケーション能力の向上や異文化理解の促進に重点を置き、ドイツ語の総合的な運用能力をさらに高めます。 外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。 <既習クラス>別メニュー、別テキストで授業が行われます。詳細については、初回授業時に指示を受けてください。 ＊注意！ >09 年度カリキュラム以降、「総合ドイツ語Ⅷ」は選択必修（1 学期に 2 単位×週 2 回＝4 単位）となります。 >未習の学生用には、A クラス（総合ドイツ語Ⅶの成績が A 以上の学生用）と B クラス（同、B 以下の学生用）の 2 クラスが開設されます。 >ただし既習の学生は、必ず「総合ドイツ語Ⅷ」（既習クラス用）を受講してください。 >詳しくは、時間割表を確認してください。		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <未習クラス> テキストの 5～8 課 各教員が追加教材を適宜準備する <既習クラス> 初回授業時に指示	
テキスト、参考文献		評価方法	
<未習クラス>『Ziel B1+ (Kursbuch + Arbeitsbuch) 』（Hueber） >総合ドイツ語ⅧⅧでは同一のテキストを 1 年間使用します。販売は春のみです。<既習クラス>初回授業時に指示		出席状況や試験の結果等を総合して評価します。	

09 年度以降 08 年度以前	上級ドイツ語リーディング a 上級ドイツ語（時事）	担当者	K. O. バイスヴェンガー
講義目的、講義概要		授業計画	
Es gibt unterschiedliche Formen des Leseverstehens: globales, selektives und detailliertes Leseverstehen. Im Kurs sollen nach vorbereitenden Wortschatzarbeiten die verschiedenen Formen anhand von verschiedenen Themenfeldern geübt werden. Die Übungen zielen darauf, dass Aufgaben zum Leseverstehen in Testformen wie Start 2 oder Zertifikat Deutsch gelöst werden können. Testbeispiele werden im Unterricht vorgestellt und erarbeitet. Der Unterrichtsplan ist als Beispiel zu verstehen, Änderungen, auch auf Wunsch der Teilnehmer, sind möglich.		1: Einführung 2-4: Essen und Trinken 5-7: Tiere 8-10: Eine deutsche Stadt: Köln 11-13: Feste 14-15: Deutsche Geschichte um Film	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Regelmäßige, aktive Teilnahme, Hausarbeit	

09 年度以降 08 年度以前	上級ドイツ語リーディング b 上級ドイツ語（時事）	担当者	K. O. バイスヴェンガー
講義目的、講義概要		授業計画	
Es gibt unterschiedliche Formen des Leseverstehens: globales, selektives und detailliertes Leseverstehen. Im Kurs sollen nach vorbereitenden Wortschatzarbeiten die verschiedenen Formen anhand von verschiedenen Themenfeldern geübt werden. Die Übungen zielen darauf, dass Aufgaben zum Leseverstehen in Testformen wie Start 2 oder Zertifikat Deutsch gelöst werden können. Testbeispiele werden im Unterricht vorgestellt und erarbeitet. Der Unterrichtsplan ist als Beispiel zu verstehen, Änderungen, auch auf Wunsch der Teilnehmer, sind möglich.		1: Einführung: 2-4: Sprache und Ausbildung 5-7: Alltagsprobleme 8-10: Gemeinsam leben 11-13: Miteinander umgehen, oder: die Kunst, keine Fehler zu machen 14-15: Studium in Deutschland	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Regelmäßige, aktive Teilnahme, Hausarbeit	

09 年度以降 08 年度以前	上級ドイツ語リーディング a 上級ドイツ語 (時事)	担当者	R. メッツィング
講義目的、講義概要		授業計画	
Im Sommersemester 2012 In diesem Kurs soll das Leseverstehen geschult werden. Das Buch „Lesetraining“ konzentriert sich auf systematische Übungen zur Fertigkeit „Leseverstehen“. Erster Teil: Heranführung der Lerner an den Umgang von Texten und Lesestrategien (Niveau A1/A2). Zweiter Teil: Wortschatzerweiterung und etwas längere Texte mit Übungsaufgaben (Niveau A2). Es gibt kein Buch, sondern Kopien. Am Ende des Semesters wird ein Test geschrieben.		1.-15. Unterrichtseinheit Es wird jeweils ein Kurztext gelesen und Aufgaben dazu bearbeitet. Danach werden Fragen beantwortet. Ein Diktat des Textes rundet den Unterricht ab.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Es gibt kein Buch, sondern Kopien.		Am Ende des Semesters wird ein Test geschrieben.	

09 年度以降 08 年度以前	上級ドイツ語リーディング b 上級ドイツ語 (時事)	担当者	R. メッツィング
講義目的、講義概要		授業計画	
Im Wintersemester 2012/13 In diesem Kurs soll das Leseverstehen geschult werden. Aus dem Internet, eine Sage, aus Magazinen z.B. „Deutsch perfekt“ werden aktuelle Kurzbeiträge genommen und gelesen. Außerdem gibt es zu dem Text Fragen. Die Bearbeitung der Texte wird variieren. Mal werden Textteile zusammengefügt, mal Lücken mit Worten gefüllt oder Überschriften zu den Artikeln gefunden werden. Danach soll über das Thema diskutiert werden. Es gibt kein Buch, sondern Kopien. Am Ende des Semesters wird ein Test geschrieben. Anwesenheit wird als sehr positiv gewertet.		1.-15. Unterrichtseinheit Es wird jeweils ein Kurztext gelesen bez. nach Aufgabenstellung bearbeitet. Danach werden Fragen beantwortet und selbst Fragen erstellt. Es folgt eine Diskussion über das Thema.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Es gibt kein Buch, sondern Kopien.		Am Ende des Semesters wird ein Test geschrieben. Anwesenheit wird als sehr positiv gewertet.	

09 年度以降 08 年度以前	上級ドイツ語ライティング a 上級ドイツ語 (作文)	担当者	H. J. トロル
講義目的、講義概要		授業計画	
Wir werden uns verschiedenen Formen des Schreibens widmen, von einfachen persönlichen Mitteilungen über E-Mails bis hin zu offiziellen und geschäftlichen Briefen. Dabei werden wir auch den grammatischen Gebrauch der Sprache vertiefen. Hausaufgaben sind zu machen, um den Fortschritt zu sichern. Wir orientieren uns an einem Lehrbuch, aber auch Fragen oder Wünsche der Studenten sind willkommen. Schreiben soll Spaß machen...		Der Ablauf des Semesters wird zu Beginn besprochen. Dabei orientiere ich mich auch am Gesamtlevel der Teilnehmer. 1. Einführung 2. Kurzes schriftliches Vorstellen 3. Buch Lektion 1 und 2 4. Persönliches Schreiben 5. Buch Lektion 3-5 6. E-Mails 7. Buch Lektion 6-8 8. Kleiner Text und Lektion 9-10 9. Berichte im Präteritum 10. Lektion 11-14 11. Offizieller Brief 12. Lektion 15-17 13. Lektion 18-20 14. Gesamtzusammenfassung (1) 15. Gesamtzusammenfassung (2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
Y. Fukuda/H. Troll 『表現と作文』(Verlag 白水社) ISBN978-4-560-00458-6		Hausaufgaben und End-Semestertests, regelmäßige Teilnahme	

09 年度以降 08 年度以前	上級ドイツ語ライティング b 上級ドイツ語 (作文)	担当者	H. J. トロル
講義目的、講義概要		授業計画	
Das Herbstsemester ist eigentlich die Fortsetzung des Frühlingsemesters; neue Studenten sind dennoch erwünscht, sofern sie das Buch mitbringen und die Bereitschaft, sich aktiv zu beteiligen. Wir beginnen wiederholend, aber dann fortschreitend im Aufbau.		Ich orientiere mich wieder am Durchschnittsniveau der Teilnehmer. 1. Einführung und Wiederholung 2. Wiederholungen aus dem Buch 3. Persönliche Mitteilungen 4. Bucharbeit, Lektion 21-23 5. Freies Schreiben im Perfekt 6. Buch Lektion 24-26 7. Kleiner Test und Lektion 28-29 8. E-Mails und Lektion 30-31 9. Lebensläufe 10. Aus Notizen einen Bericht machen 11. Buch Lektion 32-34 12. Auf Anzeigen antworten, Lektion 35-38 13. Lektion 39-40 und freies Material 14. Gesamtzusammenfassung (1) 15. Gesamtzusammenfassung (2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
Y. Fukuda/H. Troll 『表現と作文』(Verlag 白水社) ISBN978-4-560-00458-6		Hausaufgaben und End-Semestertests, regelmäßige Teilnahme	

09 年度以降 08 年度以前	上級ドイツ語ライティング a 上級ドイツ語（作文）	担当者	T. マイヤー
講義目的、講義概要		授業計画	
Der Kurs richtet sich an Studenten des 3. und 4. Studienjahrs. Vorgesehen ist das Erarbeiten und Einüben von strukturellen und stilistischen Merkmalen verschiedener Textsorten. Dabei stehen besonders Textaufbau und Textgliederung im Vordergrund. Falls Interesse von Seiten der Teilnehmer besteht, kann auch Zeit für kreatives Schreiben eingeräumt werden. Außerdem sind Übungen zum Aufgabenteil „Schriftlicher Ausdruck“ der ZD-Prüfung geplant.		第 1 回目の授業で説明します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien werden ausgeteilt.		Die Note wird sich aus der regelmäßigen Teilnahme, Unterrichtsbeiträgen sowie gelegentlich eingesammelten Schreibaufgaben zusammensetzen.	

09 年度以降 08 年度以前	上級ドイツ語ライティング b 上級ドイツ語（作文）	担当者	T. マイヤー
講義目的、講義概要		授業計画	
Der Kurs richtet sich an Studenten des 3. und 4. Studienjahrs. Vorgesehen ist das Erarbeiten und Einüben von strukturellen und stilistischen Merkmalen verschiedener Textsorten. Dabei stehen besonders Textaufbau und Textgliederung im Vordergrund. Falls Interesse von Seiten der Teilnehmer besteht, kann auch Zeit für kreatives Schreiben eingeräumt werden. Außerdem sind Übungen zum Aufgabenteil „Schriftlicher Ausdruck“ der ZD-Prüfung geplant.		第 1 回目の授業で説明します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien werden ausgeteilt.		Die Note wird sich aus der regelmäßigen Teilnahme, Unterrichtsbeiträgen sowie gelegentlich eingesammelten Schreibaufgaben zusammensetzen.	

09 年度以降 08 年度以前	上級ドイツ語ライティング a 上級ドイツ語（作文）	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
In diesem Unterricht werden Texttypen wie Motivationsschreiben, Dankschreiben, Bewerbungen usw. gemeinsam geübt und als Hausaufgaben produziert. Am Ende des Semesters sind die Teilnehmer in der Lage, dem Texttyp bzw. der Textsorte (Brief, E-Mail, Gespräch...) entsprechend die passende Stilebene zu wählen und logisch aufgebaute Texte zu produzieren.		Der genaue Ablauf der Lehrveranstaltung wird nach Absprache mit den Teilnehmern festgelegt!	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		regelmäßige, aktive Teilnahme Hausaufgaben Schlusstest	

09 年度以降 08 年度以前	上級ドイツ語ライティング b 上級ドイツ語（作文）	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
In diesem Unterricht werden Texttypen wie Motivationsschreiben, Dankschreiben, Bewerbungen usw. gemeinsam geübt und als Hausaufgaben produziert. Am Ende des Semesters sind die Teilnehmer in der Lage, dem Texttyp bzw. der Textsorte (Brief, E-Mail, Gespräch...) entsprechend die passende Stilebene zu wählen und logisch aufgebaute Texte zu produzieren.		Der genaue Ablauf der Lehrveranstaltung wird nach Absprache mit den Teilnehmern festgelegt!	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		regelmäßige, aktive Teilnahme Hausaufgaben Schlusstest	

09 年度以降 08 年度以前	上級ドイツ語スピーキング a 上級ドイツ語（会話）	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
Der Kurs richtet sich an Studierende im dritten und vierten Studienjahr. Die Themen werden in der ersten Stunde nach den Wünschen und Interessen der TeilnehmerInnen festgelegt. Die Übungen können u.a. mit der Vorbereitung auf mündliche Prüfungen (ZD, TestDaF) abgestimmt werden.		Der Ablauf wird in der 1. Stunde gemeinsam geplant.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Regelmäßige, aktive Teilnahme am Unterricht, Referate, Hausaufgaben, ein Test am Semesterende	

09 年度以降 08 年度以前	上級ドイツ語スピーキング b 上級ドイツ語（会話）	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
Der Kurs richtet sich an Studierende im dritten und vierten Studienjahr. Die Themen werden in der ersten Stunde nach den Wünschen und Interessen der TeilnehmerInnen festgelegt. Die Übungen können u.a. mit der Vorbereitung auf mündliche Prüfungen (ZD, TestDaF) abgestimmt werden.		Der Ablauf wird in der 1. Stunde gemeinsam geplant.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Regelmäßige, aktive Teilnahme am Unterricht, Referate, Hausaufgaben, ein Test am Semesterende	

09 年度以降 08 年度以前	上級ドイツ語スピーキング a 上級ドイツ語（会話）	担当者	J. シャルロート
講義目的、講義概要		授業計画	
In diesem Kurs lernen Sie ausgehend von mündlichen Text- und Gesprächssorten wie Diskussion, Interview oder Vortrag die für diese Gesprächssorten typischen Redemittel. Ihre Anwendung üben wir in Rollenspielen und Simulationen ein. Zudem machen wir Übungen, die Sie auf die Aufgaben vorbereiten sollen, die in der ZD-, ZMP- oder TestDaF-Prüfung auf Sie warten. Themen: Diskutieren, Streiten, Flirten, Witzeln, Beraten Die Unterrichtssprache ist ausschließlich Deutsch.		1. Überblick 2. Übung 1 3. Übung 2 4. Übung 3 5. Übung 4 6. Übung 5 7. Übung 6 8. Übung 7 9. Übung 8 10. Übung 9 11. Übung 10 12. Übung 11 13. Übung 12 14. Übung 13 15. Zusammenfassung	
テキスト、参考文献		評価方法	
Texte und Übungen werden in Kopien vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.		Mitarbeit während des Unterrichts (50 %) und Abschlusstest (50 %)	

09 年度以降 08 年度以前	上級ドイツ語スピーキング b 上級ドイツ語（会話）	担当者	J. シャルロート
講義目的、講義概要		授業計画	
In diesem Kurs lernen Sie ausgehend von mündlichen Text- und Gesprächssorten wie Diskussion, Interview oder Vortrag die für diese Gesprächssorten typischen Redemittel. Ihre Anwendung üben wir in Rollenspielen und Simulationen ein. Zudem machen wir Übungen, die Sie auf die Aufgaben vorbereiten sollen, die in der ZD-, ZMP- oder TestDaF-Prüfung auf Sie warten. Themen: Smalltalk, Interview, Verkaufsgespräche, Schimpfen und Beschwerden Die Unterrichtssprache ist ausschließlich Deutsch.		1. Überblick 2. Übung 1 3. Übung 2 4. Übung 3 5. Übung 4 6. Übung 5 7. Übung 6 8. Übung 7 9. Übung 8 10. Übung 9 11. Übung 10 12. Übung 11 13. Übung 12 14. Übung 13 15. Zusammenfassung	
テキスト、参考文献		評価方法	
Texte und Übungen werden in Kopien vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.		Mitarbeit während des Unterrichts (50 %) und Abschlusstest (50 %)	

09 年度以降 08 年度以前	上級ドイツ語スピーキング a 上級ドイツ語（会話）	担当者	R. ヘニング
講義目的、講義概要		授業計画	
Der Kurs richtet sich an Studierende des 3. und 4. Studienjahrs. Anhand verschiedener Kontexte bzw. Redeanlässe sollen unterschiedliche spezifische Redemittel und Gesprächsstrategien eingeübt werden. Nach einer -lexikalische und pragmatische Aspekte berücksichtigenden -Einführung werden die Themen in kleineren Gruppen erarbeitet und abschließend im Plenum in Form von kleinen Vorträgen, offenen Diskussionen oder Rollenspielen vorgetragen. Ein Themenschwerpunkt sollen Aspekte deutscher und japanischer Kultur sein. Auf Wunsch können auch Übungen einfließen, die auf den mündlichen Teil der ZD-, ZMP- oder TestDaF-Prüfung vorbereiten.		1. Woche: Gegenseitiges Vorstellen 2.-14. Woche: 第一回目の授業で説明します 15. Woche: Abschlusstest	
テキスト、参考文献		評価方法	
Unterrichtsmaterialien werden im Unterricht ausgeteilt		Die Note setzt sich aus der regelmäßigen und <u>aktiven</u> Teilnahme (45%), den Präsentationen (45%) und dem Abschlusstest (10%) zusammen	

09 年度以降 08 年度以前	上級ドイツ語スピーキング b 上級ドイツ語（会話）	担当者	R. ヘニング
講義目的、講義概要		授業計画	
Der Kurs richtet sich an Studierende des 3. und 4. Studienjahrs. Anhand verschiedener Kontexte bzw. Redeanlässe sollen unterschiedliche spezifische Redemittel und Gesprächsstrategien eingeübt werden. Nach einer -lexikalische und pragmatische Aspekte berücksichtigenden -Einführung werden die Themen in kleineren Gruppen erarbeitet und abschließend im Plenum in Form von kleinen Vorträgen, offenen Diskussionen oder Rollenspielen vorgetragen. Ein Themenschwerpunkt sollen Aspekte deutscher und japanischer Kultur sein. Auf Wunsch können auch Übungen einfließen, die auf den mündlichen Teil der ZD-, ZMP- oder TestDaF-Prüfung vorbereiten.		1. Woche: Gegenseitiges Vorstellen 2.-14. Woche: 第一回目の授業で説明します 15. Woche: Abschlusstest	
テキスト、参考文献		評価方法	
Unterrichtsmaterialien werden im Unterricht ausgeteilt		Die Note setzt sich aus der regelmäßigen und <u>aktiven</u> Teilnahme (45%), den Präsentationen (45%) und dem Abschlusstest (10%) zusammen	

09 年度以降	上級ドイツ語リスニング (CAL) a	担当者	R. ヘニング
講義目的、講義概要		授業計画	
Der Kurs richtet sich an Studierende des 3. und 4. Studienjahrs. Anhand von didaktisierten Vorträgen, Sketchen und Musikvideos sollen das Hörverstehen auf der Makro- wie auf der Mikroebene trainiert werden. Die Texte werden allein oder in Kleingruppen erarbeitet. Das Textverständnis auf beiden Ebenen wird durch Lückentexte, Verständnisfragen wie auch durch kleine mündliche Vorträge überprüft.		1. Woche: Gegenseitiges Vorstellen 2.-14. Woche: 第一回目の授業で説明します 15. Woche: Abschlusstest	
テキスト、参考文献		評価方法	
Unterrichtsmaterialien werden im Unterricht ausgeteilt		Die Note setzt sich aus der regelmäßigen und <u>aktiven</u> Teilnahme, den Kurzbeiträgen und dem Diktat zusammen	

09 年度以降	上級ドイツ語リスニング (CAL) b	担当者	R. ヘニング
講義目的、講義概要		授業計画	
Der Kurs richtet sich an Studierende des 3. und 4. Studienjahrs. Anhand von didaktisierten Vorträgen, Sketchen und Musikvideos sollen das Hörverstehen auf der Makro- wie auf der Mikroebene trainiert werden. Die Texte werden allein oder in Kleingruppen erarbeitet. Das Textverständnis auf beiden Ebenen wird durch Lückentexte, Verständnisfragen wie auch durch kleine mündliche Vorträge überprüft.		1. Woche: Gegenseitiges Vorstellen 2.-14. Woche: 第一回目の授業で説明します 15. Woche: Abschlusstest	
テキスト、参考文献		評価方法	
Unterrichtsmaterialien werden im Unterricht ausgeteilt		Die Note setzt sich aus der regelmäßigen und <u>aktiven</u> Teilnahme, den Kurzbeiträgen und dem Diktat zusammen	

09 年度以降	上級ドイツ語リスニング (CAL) a	担当者	T. マイヤー
講義目的、講義概要		授業計画	
Der Kurs richtet sich an Studenten des dritten und vierten Studienjahres. Anhand von Videoausschnitten sowie Radiobeiträgen sollen Aufnahme- und Verständnisfähigkeit gezielt trainiert werden, was sowohl das Verständnis größerer Zusammenhänge als auch präziser Details betrifft. Hörübungen in Partnerarbeit oder Kleingruppen sowie Diktat-Training gehören ebenfalls zum Kursprogramm. Nach Möglichkeit wird versucht, aktuelle gesellschaftliche Themen aus dem deutschsprachigen Raum zu behandeln.		第 1 回目の授業で説明します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
Aufgabenblätter und Kopien werden jeweils im Unterricht ausgeteilt.		Die Note wird sich aus der regelmäßigen Teilnahme am Unterricht und den Unterrichtsbeiträgen zusammensetzen.	

09 年度以降	上級ドイツ語リスニング (CAL) b	担当者	T. マイヤー
講義目的、講義概要		授業計画	
Der Kurs richtet sich an Studenten des 3. und 4. Studienjahres. Anhand von Videoausschnitten sowie Radiobeiträgen sollen Aufnahme- und Verständnisfähigkeit gezielt trainiert werden, was sowohl das Verständnis größerer Zusammenhänge als auch präziser Details betrifft. Hörübungen in Partnerarbeit oder Kleingruppen sowie Diktat-Training gehören ebenfalls zum Kursprogramm.		第 1 回目の授業で説明します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
Unterrichtsmaterialien werden jeweils im Unterricht ausgeteilt.		Die Note wird sich aus der regelmäßigen Teilnahme am Unterricht und den Unterrichtsbeiträgen zusammensetzen.	

09 年度以降 08 年度以前	中世ドイツ語 a 中世ドイツ語 I	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>ACHTUNG !</u> <u>N I C H T M I T 中級ドイツ語 VERWECHSELN!!!!</u> Der Unterricht richtet sich an Studenten mit guten Deutschkenntnissen (zumindest ZD-Niveau). An Textbeispielen vom 12. Jahrhundert bis zum Frühneuhochdeutschen soll ein Überblick über die Entwicklung der deutschen Sprache und Literatur erarbeitet werden. Alte Texte im Original zu lesen ist reizvoll und durchaus nicht so schwierig. Wir werden auch historische und kulturgeschichtliche Hintergrundinformationen zu den Texten suchen und gegebenenfalls Ausschnitte aus Verfilmungen der Stoffe ansehen.		1. Was ist MHD? 2. Wie unterscheidet sich MHD von der Gegenwartssprache? 3.-15. Textlektüre (Die Auswahl der Texte und die Schwerpunktsetzung bei den Themen erfolgt nach Rücksprache mit den Teilnehmern.)	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Regelmäßige Teilnahme, aktive Mitarbeit. Kurze schriftliche Arbeit am Ende des Semesters.	

09 年度以降 08 年度以前	中世ドイツ語 b 中世ドイツ語 II	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
<u>ACHTUNG !</u> <u>N I C H T M I T 中級ドイツ語 VERWECHSELN!!!!</u> Der Unterricht richtet sich an Studenten mit guten Deutschkenntnissen (zumindest ZD-Niveau). An Textbeispielen vom 12. Jahrhundert bis zum Frühneuhochdeutschen soll ein Überblick über die Entwicklung der deutschen Sprache und Literatur erarbeitet werden. Alte Texte im Original zu lesen ist reizvoll und durchaus nicht so schwierig. Wir werden auch historische und kulturgeschichtliche Hintergrundinformationen zu den Texten suchen und gegebenenfalls Ausschnitte aus Verfilmungen der Stoffe ansehen.		Im 2. Semester werden andere Texte als im 1. Semester gelesen. Vorkenntnisse in MHD sind aber nicht erforderlich! Die Auswahl der Texte und die Schwerpunktsetzung bei den Themen erfolgt nach Rücksprache mit den Teilnehmern.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Regelmäßige Teilnahme, aktive Mitarbeit. Kurze schriftliche Arbeit am Ende des Semesters.	

09 年度以降	ビジネスドイツ語 a	担当者	H. H. ゲートケ
講義目的、講義概要		授業計画	
Berufs- und Handelsdeutsch Anhand von Beispiel- oder Musterbriefen soll die Abfassung von Briefen im Geschäftsverkehr geübt werden. Der Schwerpunkt liegt dabei auf dem Ablauf eines Geschäftsvorgangs zwischen Kunden und Lieferanten bzw. zwischen Importeur und Exporteur. Da im Zuge der Globalisierung gerade auch im Handel die Geschäftskorrespondenz meist auf Englisch geführt wird, werden bei der Behandlung von handelsüblichen Begriffen und Fachwörtern gleichzeitig ihre englischen Entsprechungen eingeführt.		Einführung 1. 2. Lebenslauf 3. 4. Bewerbungsschreiben 5. 6. Firmennachweis 7. 8. Anfrage 9. 10. Angebot 11. 12. Gegenangebot 13. 14. Bestellung (Auftrag) 15. Zusammenfassung, Evaluierung	
テキスト、参考文献		評価方法	
Die Form des deutschen Briefes - Handbuch ドイツ語 手紙のハンドブック 出版社:同学社		Regelmäßige Teilnahme und aktive Mitarbeit im Unterricht, als Hausaufgabe Geschäftsbriefe selbst verfassen	

09 年度以降	ビジネスドイツ語 b	担当者	H. H. ゲートケ
講義目的、講義概要		授業計画	
Berufs- und Handelsdeutsch Anhand von Beispiel- oder Musterbriefen soll die Abfassung von Briefen im Geschäftsverkehr geübt werden. Der Schwerpunkt liegt dabei auf dem Ablauf eines Geschäftsvorgangs zwischen Kunden und Lieferanten bzw. zwischen Importeur und Exporteur. Da im Zuge der Globalisierung gerade auch im Handel die Geschäftskorrespondenz meist auf Englisch geführt wird, werden bei der Behandlung von handelsüblichen Begriffen und Fachwörtern gleichzeitig ihre englischen Entsprechungen eingeführt.		Einführung 1. 2. Bestellung (Auftrag) 3. 4. Auftragsbestätigung 5. 6. Proformarechnung 7. 8. Akkreditiveröffnung 9. 10. Versandanzeige 11. 12. Wareneingangsbestätigung 13. 14. Beschwerde 15. Mängelrüge Zusammenfassung/Evaluierung	
テキスト、参考文献		評価方法	
Die Form des deutschen Briefes - Handbuch ドイツ語 手紙のハンドブック 出版社:同学社		Regelmäßige Teilnahme und aktive Mitarbeit im Unterricht, als Hausaufgabe Geschäftsbriefe selbst verfassen	

09 年度以降	上級英語	担当者	辻田 麻里
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語学科の 3 年次以上の学生を対象とする外国語科目です。半期完結ですが、春学期と秋学期の両方を履修することも可能です。 Academic Reading/ Listening Strategies で培った学術的な英語力を、専門的な論文・発表に応用し、さらにリサーチスキルを身に付けることを目的とします。図書館やインターネットで文献を探し、新聞・雑誌・オンライン記事の内容を理解し、批判的に考え、自分の意見を表現できるようにします。 セミナー形式の授業で、全て英語で行います。ドイツ語圏について学び、各自が興味のあるトピックを選んでリサーチペーパー（1000-2000 語）を書き、最終授業で発表します。春学期は、環境問題をテーマとしますが、文化、芸術、歴史、政治、メディアなど、各自の専門分野やゼミの内容と関連付けることも可能です。 ・履修者は TOEIC 500 点を目安とする。 ・ German Studies in English I または Academic Writing I, II を履修していることが望ましい。 ・リサーチペーパーは、初稿から最終稿まで全ての過程を評価の対象とする。		1 回目 コースガイダンス（シラバス配布） ※履修希望者は必ず出席すること。 2～14 回目 詳細は初回に配布するクラスシラバス参照。 15 回目 授業のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回の授業で指示する。 春学期のテーマは、「環境問題」		出席・授業参加 20% 課題 10% 発表 30% リサーチペーパー 40% ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。	

09 年度以降	上級英語	担当者	辻田 麻里
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語学科の 3 年次以上の学生を対象とする外国語科目です。半期完結ですが、春学期と秋学期の両方を履修することも可能です。 Academic Reading/ Listening Strategies で培った学術的な英語力を、専門的な論文・発表に応用し、さらにリサーチスキルを身に付けることを目的とします。図書館やインターネットで文献を探し、新聞・雑誌・オンライン記事の内容を理解し、批判的に考え、自分の意見を表現できるようにします。 セミナー形式の授業で、全て英語で行います。ドイツ語圏について学び、各自が興味のあるトピックを選んでリサーチペーパー（1000-2000 語）を書き、最終授業で発表します。秋学期は、ドイツ映画をテーマとしますが、文化、芸術、歴史、政治、メディアなど、各自の専門分野やゼミの内容と関連付けることも可能です。 ・履修者は TOEIC 500 点を目安とする。 ・ German Studies in English I または Academic Writing I, II を履修していることが望ましい。 ・リサーチペーパーは、初稿から最終稿まで全ての過程を評価の対象とする。		1 回目 コースガイダンス（シラバス配布） ※履修希望者は必ず出席すること。 2～14 回目 詳細は初回に配布するクラスシラバス参照。 15 回目 授業のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回の授業で指示する。 秋学期のテーマは、「ドイツ映画」		出席・授業参加 20% 課題 10% 発表 30% リサーチペーパー 40% ※原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。	

05 年度以降	ドイツ語圏入門Ⅰ	担当者	岡村 りら (コーディネータ)
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語学科に入学した皆さんが、これから大学で学んでいくテーマを発見し、また、それを深めるために必要な知的技術を養成することを目標とします。特に以下のことに重点をおきます。 1) ドイツ語学科の学生として知っておくべき、ドイツ語圏に関する基礎的な知識を修得する。 2) 同じく第1学期から履修できる「ドイツ語概論」「ドイツ語圏文学・思想概論」「ドイツ語圏芸術・文化概論」「ドイツ語圏現代社会概論」「ドイツ語圏歴史概論」と並行して学ぶことによって、これからドイツ語学科で学ぶことの全体像（いわば見取り図）を把握し、将来の専攻・テーマを選ぶ手がかりをつかむ。 3) 論文の読み方・レポートの書き方：文献検索の方法や、論文の一般的な形式や構造を学び、論文・レポート作成のための基礎的な技術を習得する。		毎週異なる教員が、それぞれの専門分野と関連して、ドイツ語圏の歴史、社会、文化、文学、音楽、美術などのテーマで基本的な講義をします。論文の読み方やレポートの書き方についてお話しする回も設ける予定です。 初回の授業時に、本学期的講義計画表を配布します。また、試験方法等、履修上の注意事項を説明しますので、必ず出席してください。（必修授業ですので、第1週から出席をとります。） ＊連絡事項を教務課のドイツ語学科掲示板にてお知らせすることがありますので、掲示板を定期的に確認してください。	
テキスト、参考文献		評価方法	
原則として、毎回担当者が授業レジュメ（プリント）を配布します。		出席状況、レポート、および学期末試験の結果に基づいて評価します。	

05 年度以降	ドイツ語圏入門Ⅱ	担当者	岡村 りら (コーディネータ)
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語学科に入学した皆さんが、これから大学で学んでいくテーマを発見し、また、それを深めるために必要な知的技術を養成することを目標とします。特に以下のことに重点をおきます。 1) ドイツ語学科の学生として知っておくべき、ドイツ語圏に関する基礎的な知識を修得する。 2) 同じく第1学期から履修できる「ドイツ語概論」「ドイツ語圏文学・思想概論」「ドイツ語圏芸術・文化概論」「ドイツ語圏現代社会概論」「ドイツ語圏歴史概論」と並行して学ぶことによって、これからドイツ語学科で学ぶことの全体像（いわば見取り図）を把握し、将来の専攻・テーマを選ぶ手がかりをつかむ。 3) 論文の読み方・レポートの書き方：文献検索の方法や、論文の一般的な形式や構造を学び、論文・レポート作成のための基礎的な技術を習得する。		毎週異なる教員が、それぞれの専門分野と関連して、ドイツ語圏の歴史、社会、文化、文学、音楽、美術などのテーマで基本的な講義をします。論文の読み方やレポートの書き方についてお話しする回も設ける予定です。 初回の授業時に、本学期的講義計画表を配布します。また、試験方法等、履修上の注意事項を説明しますので、必ず出席してください。（必修授業ですので、第1週から出席をとります。） ＊連絡事項を教務課のドイツ語学科掲示板にてお知らせすることがありますので、掲示板を定期的に確認してください。	
テキスト、参考文献		評価方法	
原則として、毎回担当者が授業レジュメ（プリント）を配布します。		出席状況、レポート、および学期末試験の結果に基づいて評価します。	

05 年度以降	基礎演習 I	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
1 年次の「ドイツ語圏入門」では、おもにドイツ語圏に関する基礎知識の習得を目標にしました。2 年次の「基礎演習」では、「知のスキル」を高め、3 年次以降の専門研究に向けて準備することを目指します。「知のスキル」とは、具体的には以下のとおりです。 ① テキストを正確に理解する力 ② 論理的に思考する力 ③ 発表する力（プレゼンテーション） ④ 議論する力（ディスカッションやディベート） ⑤ 書く力（レポート執筆） ⑥ 調べる技術（文献・情報検索術） ⑦ 議論をまとめる力（議事録作成） 春学期は、共通テキストの輪読をもとにディスカッションやディベートを行います。また、テキストのテーマに基づき、2 回レポートを提出してもらいます。 なお、3 年次以降の「専門演習」の履修は、08 年度までの入学者については「ドイツ語圏入門Ⅰ・Ⅱおよび基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、09 年度以降入学者については「ドイツ語圏入門Ⅰ・Ⅱおよび基礎演習ⅠまたはⅡ」を修得済みであることが条件となります。		- オリエンテーション - テーマⅠ：テキスト輪読とディスカッション① - 同② - 同③ - 同④、中間レポート課題提示 - 同⑤ - 同⑥ - テーマⅡ：テキスト輪読とディスカッション① 中間レポート提出 - 同② - 同③ - 中間レポートの返却と講評、期末レポート課題提示 - テーマⅡ：テキスト輪読とディスカッション④ - 同⑤ - 同⑥ - 秋学期の準備（グループ分け、テーマ決定等） *さらに詳しい授業計画は、第 1 回オリエンテーションで配布・説明します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員による指示。		出席、授業参加（発表・討論）、レポートから総合的に判断します。なお、レポートを 1 回でも出さなかったり、欠席回数が全授業回数の 1/3 を超えると単位は認めません。	

05 年度以降	基礎演習 II	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期前半は 4～5 人ひと組でのグループ発表、後半は各個人による個人発表を行い、適宜ディスカッションやディベートなども取り入れながら、「知のスキル」を高めることを目的とします。 前半は、教員と学生が相談の上で決めたドイツ語圏に係るテーマについて、グループごとに調査し発表します。後半は、できればグループ発表で扱ったテーマを、各個人がさらに深めるような形で、個人発表をします。また、グループ発表、個人発表をまとめるような形でのレポートを 2 回提出してもらいます。3 年次からの専門演習で扱うテーマを意識しながら、自分のテーマを絞っていきます。 なお、3 年次以降の「専門演習」の履修は、08 年度までの入学者については「ドイツ語圏入門Ⅰ・Ⅱおよび基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、09 年度以降入学者については「ドイツ語圏入門Ⅰ・Ⅱおよび基礎演習ⅠまたはⅡ」を修得済みであることが条件となります。		- オリエンテーション、春学期末レポート返却・講評 - グループ発表① - 同② - 同③、中間レポート課題提示 - 個人発表① - 同② - 同③ - 同④、中間レポート提出 - 同⑤ - 同⑥ - 同⑦ - 同⑧、中間レポートの返却と講評、期末レポート課題提示 - 同⑨ - 同⑩ - まとめ *さらに詳しい授業計画は、第 1 回オリエンテーションで配布・説明します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員による指示。		出席、授業参加（発表・討論）、レポートから総合的に判断します。なお、レポートを 1 回でも出さなかったり、欠席回数が全授業回数の 1/3 を超えると単位は認めません。	

09年度以降 08年度以前	通訳特殊演習 通訳特殊演習Ⅰ	担当者	中山 純
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では職業として日独の通訳に携わることを目指す学生、またはそれと同等のレベルまでドイツ語力を向上させたいと考えている学生を対象として、通訳業務に必要な語学力と一般的な知識を習得する方法や練習について演習形式で学びます。 春学期は主に通訳に必要なドイツ語運用力の強化を図ります。授業時間内の練習だけでは進歩は望めないので、授業外でも積極的に練習する姿勢が必要になります。 今年度の授業定員は20名です。定員を超える履修希望があった場合は教務課による抽選で履修者を決定しますので掲示等に注意してください。		1. 通訳とは何かー授業の対象と特徴について 2. 通訳スキルとは何かースキル習得のための練習方法 3. 自分のドイツ語運用力を把握する 4. 通訳のための基礎語彙について 5. 基礎トレーニングスラッシュ・リーディング等の基本練習 6. レスポンス(反応能力)の改善と強化 7. 語彙力の強化ーどのように語彙力を増強するか 8. クイックレスポンスー語彙トレーニング 9. メモリー・レッスンー記憶力トレーニング 10. ミッシング・ワードー展開を読む 11. 要約(サマライズ)ー内容理解力の強化 12. 要約(サマライズ)練習 13. パラフレイズー内容理解力の強化 14. パラフレイズ練習 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で使用する教材はプリントで配布します。参考文献等については授業の中で紹介していきます。		出席状況と授業への参加度、課題等の出来具合によって総合的に判断します。	

09年度以降 08年度以前	通訳特殊演習 通訳特殊演習Ⅱ	担当者	中山 純
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じく、職業として日独の通訳に携わることを目指す学生、またはそれと同等のレベルまでドイツ語力を向上させたいと考えている学生を対象として通訳業務に必要な語学力の習得を目指します。履修者の大半が春学期と同じ場合は、授業計画に挙げているように、主に理解力を深めるための実践的な練習を中心に授業を進めていきます。 履修者の大半が新規の場合は、春学期で取り上げた通訳練習の基礎を、材料を変えて繰り返します。ただし、基礎的な練習以外は、実践的な通訳練習の中に組み込む形で紹介をしていきます。 履修条件については春学期と同様の扱いになります。		1. 授業の進度計画 2. 語彙の収集と整理 3. スピーチ分析 4. スピーチ分析 5. スピーチ分析 6. 大意要約ードイツ語から日本語へ 7. 大意要約ードイツ語から日本語へ 8. 逐次通訳ードイツ語から日本語へ 9. 逐次通訳ードイツ語から日本語へ 10. 特定分野の通訳準備 11. 特定分野の通訳準備 12. 通訳体験 13. 通訳体験 14. 通訳体験 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で使用する教材はプリントで配布します。参考文献等については授業の中で紹介していきます。		出席状況と授業への参加度、課題等の出来具合によって総合的に判断します。	

09 年度以降	翻訳特殊演習	担当者	上田 浩二
講義目的、講義概要		授業計画	
いちおう日本語になっているけれどよく分からない、分かるけれど読むにたえない訳に、しばしば出会います。取り分け授業中に訳してもらおうと、こうしたケースが多いようです。このような「訳読」とは違い、ドイツ語を知らない人でも理解できて納得の行くような翻訳を練習します。このためには、正確にドイツ語のテキストを理解すること、そして日本語での表現能力を磨くことが必要です。また、翻訳することを通じて、日独のテキストの構成や表現の仕方の差違についても学んでもらいたいと考えています。 毎回の課題の量は多くありませんが、かならず訳して書いたものを準備して授業に出てください。		1. 翻訳とはどういうことか 2. 日本に関するテーマ（１） 3. 日本に関するテーマ（２） 4. 日本に関するテーマ（３） 5. ドイツの社会に関するテーマ（１） 6. ドイツの社会に関するテーマ（２） 7. ドイツの社会に関するテーマ（３） 8. ドイツの社会に関するテーマ（４） 9. 国際的なテーマ（１） 10. 国際的なテーマ（２） 11. 国際的なテーマ（３） 12. その他のテーマ（１） 13. その他のテーマ（２） 14. その他のテーマ（３） 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
ドイツの新聞記事などを配布する。		毎回の授業、最後の試験（辞書持ち込み可）で、評価する。	

09 年度以降	インターンシップ特殊演習	担当者	古田 善文
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 本演習の目的は、ドイツ語圏でインターンシップ（企業研修）を体験したいと考えている学生を対象とし、(1)インターンシップの意義、(2)参加に際しての心構え、(3)インターンシップ先の町や企業・機関での生活や活動、(4)経済ドイツ語への理解等のテーマを演習形式で実践的に学びながら、参加学生のインターンシップへの事前準備を行うことである。 講義概要： (1)本年度の定員は35 名とする。定員を超える数の学生が受講を希望する場合には、教務課による抽選により受講者を決定する。 (2)授業は原則として、小グループによるテーマ別報告を想定している（報告担当者にはそのつど発表レジュメの作成が義務づけられる）。ただし、現代ドイツ全般にかかわる基礎的事項の確認が中心となる第4 回目までは講師が用意するレジュメに基づく講義形式の授業と討論が中心となる。		第1回： 演習の目的、授業計画、分担の決定について 第2回： インターンシップとは何か？ 第3回： 現代ドイツに関する基礎知識(1) 第4回： 現代ドイツに関する基礎知識(2) 第5回： ノルトライン=ヴェストファーレン州の主要都市研究(1) 第6回： ノルトライン=ヴェストファーレン州の主要都市研究(2) 第7回： ドイツ企業研究(1) 第8回： ドイツ企業研究(2) 第9回： ドイツ企業研究(3) 第10回：ドイツ語による履歴書の書き方 第11回：経済ドイツ語研究(1) 第12回：経済ドイツ語研究(2) 第13回：経済ドイツ語研究(3) 第14回：経済ドイツ語研究(4) 第15回：春学期のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
原則として、毎回関連資料のコピーを参加者に配布する。		(1)グループ報告に対する評価、(2)演習への貢献度、(3)出席状況、(4)学期末に提出する課題（レポート）に対する評価、等に基づき総合的に決定する。	

09 年度以降	留学準備特殊演習	担当者	柿沼 義孝
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語圏の大学で学ぶにはどのような準備が必要でしょうか。またドイツ語力はどの程度必要とされるのでしょうか。また、住居はどうしたら見つけられるか。 そんな具体的なことから、留学で何が変わるか、何を学ぶかまで、ドイツ語圏への長期留学を目指している皆さんを対象に、その意義、心構え、事前準備、留学先の町や大学での生活等について、演習形式でインターネット(DAAD: Studieren in Deutschland: http://www.study-in.de/de/leben/student-life-videos/)を通じて実践的に学びます。 また、できればドイツ語圏から獨協に留学している皆さんのお話も聞きながら、寸劇で仮想ドイツ留学体験もしてみましよう。 また、留学生活で必ず聞かれるのは日本のこと、日本の文化です。いろいろな面から質問に答えることができるよう、知識を深めておきましょう。 皆さんの積極的な参加を楽しみにしています。		1. ドイツで何を学ぶか 2. テーマ別発表 3. テーマ別発表 4. テーマ別発表 5. テーマ別発表 6. DAAD Studium in Deutschland 7. ドイツの学生生活 8. ドイツの住まい 9. ドイツで困ったら 10. ドイツ諸事情 11. ドイツからの留学生はどうしてる？ 12. 日本を知らない私(1) 日本事情 13. 日本を知らない私(2) 日本文化 14. さあ、ドイツ行き(寸劇版『仮想留学体験』) 15. ドイツ留学総まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
犬養道子『ラインの河辺』中公文庫 1973 築島謙三『「日本人論」の中の日本人(上・下)』講談社学術文庫 1449 講談社 2000 年 阿部謹也『物語 ドイツの歴史 ドイツ的とは何か』他		出席(出欠・遅刻)、授業参加(発音練習)、レポート。また、5 回以上欠席の場合は履修中止とみなします。	

09 年度以降	外国語教育特殊演習	担当者	上田 浩二
講義目的、講義概要		授業計画	
外国語教育に関するいろいろな側面を取り上げて、ドイツ語教育の問題に関する理解を深めるのが目的です。狭い意味の「外国語教育法」を学ぶものではありません。 具体的には、外国語を学ぶことの意味や目的、外国語教育の方法に関するさまざまな議論、どうすれば外国語の能力を高められるかなどを、文献を探したり、テキストを読んだり、また各自の外国語学習のプロセスを振り返ったりしながら、意見交換をしていきます。 また、関心があるようなら、参加者のドイツ語力を高めるための具体的な練習（通訳練習などから学べる学習法）などにも、取り組みたいと考えています。 積極的に参加してください。		1. 導入 2. 外国語を学ぶとは（１） 3. 外国語を学ぶとは（２） 4. 外国語教育で必要とされるもの（１） 5. 外国語教育で必要とされるもの（２） 6. 外国語教育で必要とされるもの（３） 7. 外国語教育で必要とされるもの（４） 8. ドイツ語の学習（１） 9. ドイツ語の学習（２） 10. 実際の練習（１） 11. 実際の練習（２） 12. 実際の練習（３） 13. 実際の練習（４） 14. 実際の練習（５） 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて配布する。		参加者数は多くないと思われるので、ふだんの授業での評価と学期末のレポートに半々の重きをおいて評価する。	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語概論 a ドイツ語学概論 I	担当者	柿沼 義孝
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義はドイツ語を始めて学習する皆さんが、あるいはこれまで学習してきた皆さんが、文法の授業とは違った視点からドイツ語を観察し、体験してもらおうとするものです。 子供は言語を学ぶとき、文字や文法から学ぶものではありません。そうではなく、まず音を聞いて、それを繰り返すことで学んでいきます。もともと言語は、音を通して互いに意思を伝達することからはじまったのです。 そこで、春学期は、主としてドイツ語の音（音韻）とその発音（音声）に重点を置いて、日本語や英語、フランス語などと比べながら、その音の違いや特徴、ヨーロッパ言語の言語の歴史的関係などを概観しながら、ドイツ語そのものを改めて見つめてみようとするものです。 皆さんには積極的に発音をしてもらい、互いに発音を聞き合いながら、そして意見交換をしながら、講義を進めていこうと考えています。皆さんの積極的に参加をする授業をしたいと考えています。		1. ドイツ語の世界 2. ドイツ語の発音（イントネーション） 3. ドイツ語の発音（アクセント） 4. ドイツ語の音と文字（母音） 5. ドイツ語の音と文字（母音） 6. ドイツ語の音と文字（子音） 7. ドイツ語の音と文字（子音） 8. ドイツ語の発音（日本語とドイツ語） 9. ドイツ語の発音（英語とドイツ語） 10. ヨーロッパの中のドイツ語 11. ラテン語、フランス語とドイツ語 12. 英語、オランダ語とドイツ語 13. ルターのドイツ語 14. ドイツ語の歴史概観 15. 復習とまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
1. I. Albrecht, U. Hirschfeld, Y. Kakinuma: <i>Deutsche Phonetik für japanische Studenten</i> (獨協大学外国語教育研究所) 2. ヴィルヘルム・シュミット『ドイツ語の歴史』(朝日出版社) 他		毎回の質問シートなどの提出と確認テストおよび総合テストによる。	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語概論 b ドイツ語学概論 II	担当者	柿沼 義孝
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期は少し専門的にドイツ語を見ていくことにしましょう。ドイツ語という言語の歴史的流れ、ドイツ語を勉強していて、わからない事柄に出会ったとき、疑問がわいたときに、これを自分で解決するにはどうしたらよいでしょうか。 その手段には何があるのか。ドイツには方言がたくさんあるというが、それはなぜか、またどのように分布しているのか。ドイツ語を言語学的に研究する方法は、また何が研究対象となりうるのか。また、日本語との違いはどんな点に見られるのか。 このように、ドイツ語をめぐる疑問、不思議はいろいろな分野に及んでいます。この学期では皆さんから積極的に疑問や質問を提示していただき、皆でこれを考えながら、ドイツ語にもっと近づいていきたいと考えています。 どうぞ積極的な参加をお願いします。楽しい講義にしましょう。		1. ドイツ語とはどういう言語か。 2. ドイツ語の文字の成立と発展 3. 疑問に答える（1）辞書について 4. 疑問に答える（2）文法について 5. 標準ドイツ語の成立と正書法 6. ドイツ語の標準発音と方言 7. ドイツ語の標準発音と方言 8. 外国語とドイツ語 9. ドイツ語の地名 10. ドイツ語の人名 11. 探求するところ（1）ドイツ語の調査・研究 12. 探求するところ（2）ドイツ語の調査・研究 13. 日本語とドイツ語の言語表現 14. 日本語とドイツ語の言語表現 15. 復習とまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
1. ヴィルヘルム・シュミット『ドイツ語の歴史』(朝日出版社) 2. 風間喜代蔵『言語学の誕生』(岩波書店)		毎回の質問シートなどの提出と確認テストおよび総合テストによる。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏文学・思想概論 a ドイツ文学概論 I	担当者	矢羽々 崇
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期では、「文学」って何？という問題から授業を始めます。 「読書感想文」を書かされて辟易（へきえき）しませんでしたか？ 「国語」の入試で解釈の問題に正解が 1 つしかないことに疑問を感じませんでしたか？ 「文学」はなぜ「ブン学」で、「音楽」のように「ブン楽」ではないのでしょうか？ こんな疑問や不信感(?)を出発点にしながら、最初に「文学」（そして文学研究）という問題を考えます。 また、メルヒェン・昔話という「単純な語りの形式」や、児童青少年文学を中心に据えて、文学のさまざまな面白さ、問題点を考えていきます。また、詩・劇・散文という主要なジャンルについても、考えてみましょう。 また、文学と思想（哲学・宗教など）のつながりも、必要に応じて考えていきます。		詳しくは第 1 回授業で説明します。 1. 導入 2. 文学ははじめの一步（グリム「白雪姫」）1 3. 同 2 4. 同 3 5. 「文学」とは何か？ 6. 文学の基本ジャンル 7. 文学研究の意味 読めばわかるのになぜ？ 8. 文学と思想 9. 作者とは？ 作者の死？ 10. 読者とは？ 「読む」だけ？ 11. 本とは？ 本はなくなる？ 12. 翻訳の諸問題 13. 明治期の翻訳 14. 春学期のまとめ 15. 授業内試験	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献例：手塚富雄『ドイツ文学案内』岩波文庫 生野幸吉・檜山哲彦編『ドイツ名詩選』岩波文庫 テキストはコピーで、文献は授業でその都度紹介します。		出席 20%（4 回以上の欠席は評価の対象としません）、6 月中旬に提出する小レポート 20%および最終回に実施する試験 60%によります。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏文学・思想概論 b ドイツ文学概論 II	担当者	矢羽々 崇
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期では、主にドイツ文学と思想のアウトライン（歴史）を知ること为目标とします。 皆さんはドイツ語圏の文学を知っていますか？ 18 世紀後半に書かれたゲーテの『若きウェルテルの悩み』を出発点にして、現代のシュリンク『朗読者』までのドイツ文学の歩みを辿っていきます。また、文学と思想（哲学・宗教など）が、それぞれの時代でどう関連したのかを考えます。 授業では、扱う作品を知らなくてもわかるように話しますが、作品を読んでから聞くと、作品および講義内容をよりよく理解でき、より興味を持つことができます。できるだけ、扱う予定の作品を読むようにしてください。		詳しくは第 1 回の授業で説明します。 1. 導入 2. 近代的な恋愛のはじまり（ゲーテ『ウェルテル』） 3. 感情の実験詩、シラー「歓喜に寄せて」 4. 苦悩する近代人？ ゲーテ『ファウスト』 5. 1770 年 ベートーベン、ヘーゲル、ヘルダーリン 6. ロマン派というアヴァンギャルド（前衛派） 7. シャミッソー『影をなくした男』を読む 8. 文学が文学だった頃（19 世紀リアリズムの時代）（ビュヒナー『ヴォイツェク』） 9. 19 世紀後半からの児童青少年文学（『もじゃもじゃペーター』『ハイディ』など） 10. イタリアへのあこがれ（T・マン『ヴェニスに死す』） 11. 見えない世界との出会い（20 世紀前半）（カフカ『変身』） 12. 明るく楽しくナチス批判？（ケストナー『エーミールと探偵たち』） 13. 過去の克服？ 現代ドイツ文学（シュリンク『朗読者』） 14. 秋学期のまとめ 15. 期末試験	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献例：H・シュラッファー『ドイツ文学の短い歴史』和泉，安川訳，同学社，2008 年 テキストはコピーを配布し、文献はその都度紹介します。		出席 20%（4 回以上の欠席は評価の対象としません）、12 月はじめに提出の小レポート 20%および最終回に実施する試験 60%によります。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏の言語 a ドイツ語学各論 I	担当者	木内 基実
講義目的、講義概要		授業計画	
外国語の習得に特に大事なものは、細切れの文法知識ではなく作文能力です。それも与えられた日本語をドイツ語に訳すとか、全て与えられた単語を使ってドイツ語に書き換えるというような練習では、自分の考えや言いたいことを即座に表現する事は出来ません。与えられたものは大抵は自分の言いたいことではありません。 もう一つ大事なものはどれだけ多くの単語を知っているか、ということです。この2つのことを念頭に置いてドイツ語を習得して欲しいと思います。 従って授業は練習本位の実践的なものです。ドイツ語に興味のない人には向かない授業ですから、そして単位も取れないでしょうから、履修しない方が無難ではないでしょうか。 基礎的な単語を完全に自分のものにし、自由に使いこなせるようになって下さい。同時にドイツ語文の特徴も身につけて下さい。 毎回授業の最後に小テストを行います。		1. 導入 2. 練習 1 と小テスト 3. 練習 2 と小テスト 4. 練習 3 と小テスト 5. 練習 4 と小テスト 6. 練習 5 と小テスト 7. 練習 6 と小テスト 8. 練習 7 と小テスト 9. 練習 8 と小テスト 10. 練習 9 と小テスト 11. 練習 10 と小テスト 12. 練習 11 と小テスト 13. 練習 12 と小テスト 14. 練習 13 と小テスト 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
資料をコピーし、配布します。		全ての小テストの結果を集計し、出席点を加味して学期の成績とします。定期試験は行いません。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏の言語 b ドイツ語学各論 II	担当者	木内 基実
講義目的、講義概要		授業計画	
外国語の習得に特に大事なものは、細切れの文法知識ではなく作文能力です。それも与えられた日本語をドイツ語に訳すとか、全て与えられた単語を使ってドイツ語に書き換えるというような練習では、自分の考えや言いたいことを即座に表現する事は出来ません。与えられたものは大抵は自分の言いたいことではありません。 もう一つ大事なものはどれだけ多くの単語を知っているか、ということです。この2つのことを念頭に置いてドイツ語を習得して欲しいと思います。 従って授業は練習本位の実践的なものです。ドイツ語に興味のない人には向かない授業ですから、そして単位も取れないでしょうから、履修しない方が無難ではないでしょうか。 基礎的な単語を完全に自分のものにし、自由に使いこなせるようになって下さい。同時にドイツ語文の特徴も身につけて下さい。 毎回授業の最後に小テストを行います。		1. 導入 2. 練習 1 と小テスト 3. 練習 2 と小テスト 4. 練習 3 と小テスト 5. 練習 4 と小テスト 6. 練習 5 と小テスト 7. 練習 6 と小テスト 8. 練習 7 と小テスト 9. 練習 8 と小テスト 10. 練習 9 と小テスト 11. 練習 10 と小テスト 12. 練習 11 と小テスト 13. 練習 12 と小テスト 14. 練習 13 と小テスト 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
資料をコピーし、配布します。		全ての小テストの結果を集計し、出席点を加味して学期の成績とします。定期試験は行いません。	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏の文学 a ドイツ文学各論 I	担当者	石丸 昭二
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 1 読書の楽しさを知ること。 2 日頃読む機会が少ないと思われるドイツの文学作品に親しむきっかけづくり。 3 ドイツ文学を代表する詩人・作家の作品を通してドイツの民族性、精神性を理解すること。 講義概要 ドイツ文学の黄金期を画するゲーテ、シラー、クライストとロマン派の詩人たちを対象を絞り、彼らの生涯の文学活動をたどる。主要作品の思想、内容を紹介、解説すると同時に、少なくとも一作品を全員で読み、その解釈を通して、時代、各作家の特質を把握する。		第1週 授業の内容と方法の説明及び受講の諸注意。 第2週 以下順次講義を進める。 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 通年講義を念頭においているので、テーマは秋学期にも継続される。したがって、なるべく春・秋通して受講することが望ましい。とくに秋学期からの受講は勧められない。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは特に使用しない。必要に応じてプリントを配布 参考文献：岩波文庫「ドイツ文学史」		平常点（出席）に、レポートの結果を加味して総合的に判断する。	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏の文学 b ドイツ文学各論 II	担当者	石丸 昭二
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 春学期に準ずる。 講義概要 春学期に準ずるが、進捗状況によっては、ドイツ文学の名作（カフカ、ムージル、T.マン）を読み、解説をする。テキストは邦訳を用いる。		第1週 授業の内容と方法の説明及び受講の諸注意。 第2週 以下順次講義を進める 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
事前にプリントを配布。		春学期に準ずる。	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏の思想 a ドイツの思想 I	担当者	工藤 達也
講義目的、講義概要		授業計画	
主としてドイツ語圏の思想家を通史的に取り上げて、解説する。特に重要となる哲学や思想のキーワードについては具体的に説明していくつもりです。 具体的にどこの書店でも手に入る古典的な哲学書を独力で読める理解能力をトレーニングするのが教師の意図です。 またドイツ語圏に限定せず、背景にあるヨーロッパの思想などにも言及する。特に難解な講義ではないので興味のある学生は聴講してみてください。 時代を追っていくのにじっくり急がない、できればカタツムリみたいにゆっくりとするつもりですが、しかし今学期はせめてカントまでは触れます。		1. はじめに 2. 古典について 3. 古典について 4. キリスト教：ローマ・カトリックとプロテスタント 5. ルネッサンス 6. デカルトの思想 7. カントの思想(1) 8. カントの思想(2) 9. カントの思想(3) 10. カントの思想(4) 11. ドイツ観念論(1) 12. ドイツ観念論(2) 13. ドイツ観念論(3) 14. ドイツ観念論のまとめ 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		期末テスト、出席も平常点として付加	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏の思想 b ドイツの思想 I	担当者	工藤 達也
講義目的、講義概要		授業計画	
主としてドイツ語圏の思想家を通史的に取り上げて、解説する。特に重要となる哲学や思想のキーワードについては具体的に説明していくつもり、という春学期の講義の続きではありますが、別個に受講してもいいです。 具体的な目標として、どこの書店でも手に入る古典的な哲学書を独力で読める理解能力をトレーニングするのが教師の意図です。今学期の講義に出ればたぶん、ニーチェの『道徳の系譜』は読めるくらいにはなれるはずですよ（といますか、それくらい大学生なら「読め」という意味）。 ↑を繰り返すと、話はドイツ語圏に限定されず、背景にあるヨーロッパの思想などにも言及します。特に難解な講義ではないので興味のある学生は聴講してみてください。 時代を追っていくのに急がないですが、今学期こそはハイデガーの思想にまで触れられたら満足です。 秋の方が春より過激に展開しますが、怖がらないでください。 お待ちしております。		1. はじめに 2. ロマン派 3. ヘーゲルとマルクス 4. 若いマルクスと『資本論』のマルクス 5. 『資本論』と宗教批判 6. マルクス主義と現代思想(1) 7. マルクス主義と現代思想 (2) 8. ニーチェ(1) 9. ニーチェ(2) 10. ニーチェ(3) 11. ハイデガー(1) 12. ハイデガー(2) 13. ハイデガー(3) 14. 現代思想のまとめ 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		期末テスト、出席も平常点として付加	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）a ドイツ語講読（語学）	担当者	能登 慶和
講義目的、講義概要		授業計画	
言葉を「習得」するのと「学ぶ」ことは異なる事象としてとらえられます。前者の言葉とは通常「第一言語＝母語」を指し、後者は「外国語」を指します。しかし、ヨーロッパではしばしば母語以外の「第二言語」の習得についても言及されます。 この授業では上記のような言葉の習得と学習に関する入門書を読みながら、基本的な概念や、第一言語習得、第二言語習得、外国語学習およびマルチリンガルについて考えていきたいと思います。 その際、単にテキストを読むだけではなく、授業中のディスカッションや学期中の発表も取り入れたいと思います。なるべく毎回出席してください。		1. Einleitung 2~6. Erstspracherwerb • monolingualer Erstspracherwerb • Sprachangebot • bi- oder multilingualer Erstspracherwerb 7~14. Zweitspracherwerb • Kognition • Interaktion • Sprachangebot im Zweitspracherwerb • Hypothesen zum Zusammenhang von Erst- und Zweitspracherwerb bzw. -lernen 15. Test	
テキスト、参考文献		評価方法	
Klaus-Börge Boeckmann: <i>Grundlagen des Erst- und Fremdspracherwerbs Ergänzungsheft</i> . Langenscheidt (コピーを配布します)		出席、発表、テスト	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）b ドイツ語講読（語学）	担当者	能登 慶和
講義目的、講義概要		授業計画	
言葉を「習得」するのと「学ぶ」ことは異なる事象としてとらえられます。前者の言葉とは通常「第一言語＝母語」を指し、後者は「外国語」を指します。しかし、ヨーロッパではしばしば母語以外の「第二言語」の習得についても言及されます。 この授業では上記のような言葉の習得と学習に関する入門書を読みながら、基本的な概念や、第一言語習得、第二言語習得、外国語学習およびマルチリンガルについて考えていきたいと思います。 その際、単にテキストを読むだけではなく、授業中のディスカッションや学期中の発表も取り入れたいと思います。なるべく毎回出席してください。		1. Einleitung 2~8. Fremdsprachenlernen • Sprachangebot beim Fremdsprachenlernen • Fremdsprachenlerntheorien und -hypothesen • Kognitions- und Lerntheorien 9~13. Modelle von Zwei-, Drei- und Mehrsprachigkeit • Bilingualismus • Drittsprach- und Mehrsprachigkeit 14. Zusammenfassung 15. Test	
テキスト、参考文献		評価方法	
Klaus-Börge Boeckmann: <i>Grundlagen des Erst- und Fremdspracherwerbs Ergänzungsheft</i> . Langenscheidt (コピーを配布します)		出席、発表、テスト	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）a ドイツ語講読（思想）	担当者	工藤 達也
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語で書かれた思想的で難解とされる文章を原文で読みます。具体的には、20 世紀ドイツ語圏を代表する哲学者マルティン・ハイデガーのテキストです。原文はそんなに難しくないと思うのですが、案外ハイデガーの文章というのは日本語の訳語が特殊で分からないという、奇妙な翻訳状況なのですが、もちろん翻訳を参考にしてもらってもいいです。なるだけ授業では平易な訳文を目指します。 ハイデガーの講演の日本語解説付きの教科書を採用します。ハイデガーの思想について紹介もしますので、哲学や思想などについてまるっきり知らない人でもたぶん、大丈夫だと思います。 テキストをコツコツと読んでいくつもりなので、楽しく根気よくつきあってくれる学生の参加を希望します。		1. テキスト配布と発表者の担当決め 2～15.テキスト講読及び検討	
テキスト、参考文献		評価方法	
Martin Heidegger: Gelassenheit (zum Atomzeitalter)『おちつき（原子力時代にのぞんで）』（ブフナー・柏原編）同学社		発表と期末テスト、平常点を付加	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）b ドイツ語講読（思想）	担当者	工藤 達也
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語で書かれた思想的で難解とされる文章を原文で読みます。後期も 20 世紀ドイツ語圏を代表する哲学者マルティン・ハイデガーのテキストを読みます。なるだけ授業では平易な訳文を目指します。たとえばハイデガーの主著はもちろん『存在と時間』ですが、短期間でこんなものを読むのは不可能なので読みません（残念ですが）。 ハイデガーのテキストを今学期はコピーして読んでみたいと思います。短めのエッセイを選ぶ予定です。↑を繰り返して言えば、ハイデガーの思想について紹介もしますので、哲学や思想などについてまるっきり知らない人でもたぶん、大丈夫だと思います。 テキストをコツコツと読んでいくつもりなので、楽しくつきあってくれる学生の参加を希望します。あと、謙虚に努力する姿勢の学生は十分に歓迎です。お待ちしております。		1.テキスト配布と発表者の担当決め 2～15.テキスト講読及び検討	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		発表と期末テスト、平常点を付加	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）a ドイツ語講読（語学）	担当者	P. ハインリヒ
講義目的、講義概要		授業計画	
In dieser Veranstaltung lesen und besprechen wir Texte zum sozialen Alltag in deutschsprachigen Ländern. Thematische Schwerpunkte sind Familie, Schule, Nachbarschaft und Sprache. Ziel der Veranstaltung ist es, durch die Lektüre deutschsprachiger Texte, Wissen zu erwerben und eigene Standpunkte zum sozialen Alltagsleben in Deutschland zu entwickeln.		1. Sozialer Alltag 2. Familie 1 3. Familie 2 4. Familie 3 5. Schulalltag 1 6. Schulalltag 2 7. Schulalltag 3 8. Schulalltag 4 9. Nachbarschaft 1 10. Nachbarschaft 2 11. Nachbarschaft 3 12. Sprachleben 1 13. Sprachleben 2 14. Sprachleben 3 15. Zusammenfassung und Abschlussdiskussion	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Aktive Mitarbeit und Test	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）b ドイツ語講読（語学）	担当者	P. ハインリヒ
講義目的、講義概要		授業計画	
In dieser Veranstaltung lesen und besprechen wir Texte zum sozialen Alltag in deutschsprachigen Ländern. Thematische Schwerpunkte sind Studium und Universität, soziale Konflikte, Zuwanderung, deutsche Auswanderer. Ziel der Veranstaltung ist es, durch die Lektüre deutschsprachiger Texte, Wissen zu erwerben und eigene Standpunkte zum sozialen Alltagsleben in Deutschland zu entwickeln.		1. Sozialer Alltag 2. Studium und Universität 1 3. Studium und Universität 2 4. Studium und Universität 3 5. Soziale Konflikte 1 6. Soziale Konflikte 2 7. Soziale Konflikte 3 8. Soziale Konflikte 4 9. Zuwanderung 1 10. Zuwanderung 2 11. Zuwanderung 3 12. Deutsche Auswanderer 1 13. Deutsche Auswanderer 2 14. Deutsche Auswanderer 3 15. Zusammenfassung und Abschlussdiskussion	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Aktive Mitarbeit und Test	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）a ドイツ語講読（文学）	担当者	石丸 昭二
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 1 十分なドイツ語文章の読解力を身につける。 2 論理的思考力、想像力を鍛える。 3 関連知識を広げる 4 辞書に慣れる（電子辞書の使用不可） 講義概要 Franz Kafka: Die Verwandlung 「変身」 本文を読み進めると同時に、関連する文献資料を読み、内容の理解をより深める。		各自分担を決めて発表してもらおうが、そのばあいだけに表面的な訳読にとどまるのではなくて、自ら辞書を丹念に調べ、語義、文法構造を明確にしたうえで、記述内容の精確な把握に努める。 第1週 授業方針の説明。 第2週 第I章 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第II章 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回にプリントを配布する予定。		平常点（出席＋発表）に、レポート、テストの結果を加味して総合的に判断する。	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）b ドイツ語講読（文学）	担当者	石丸 昭二
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 春学期に準ずる。 講義概要 春学期に続いて Franz Kafka : Die Verwandlung を読み進める。 それが終了したあとは Vladimir Navokov: Die Kunst des Lesens. Meisterwerke der europäischen Literatur から Franz Kafka: Die Verwandlung を取り上げる予定。 著者ナボコフは世界的に有名な小説『ロリータ』の作者。1899年にロシアの貴族の家に生まれたが、のち亡命、英国のケンブリッジ大学で学んだあと、ドイツ、フランスを経て、1940年以後1977年に亡くなるまでアメリカで作家・学者生活を送り、大学で世界文学を講じた。本編もその講義の一つ。		春学期に準ずる。 第1週 授業方針の説明。 第2週 F. Kafka Die Verwandlung 第III章 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 Vladimir Navokov: F. Kafka Die Verwandlung 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布		春学期に準ずる。	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）a ドイツ語講読（文学）	担当者	上田 浩二
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、19世紀後半から20世紀中頃までのドイツの小説の代表的な流れを理解し、同時にドイツ語の文学表現の一端に触れることを目標にしています。 この時期は歴史が大きく動き、社会が急速に変化した時期で、文学作品を書く人も読む人の層も大きく変わりました。 こうした中で、文学はどのような方向を模索し、登場人物の心理や自然の描き方がどう変わったかを中心に、テキストを読みながら学んでいきます。 かなりの量のテキストを原文で読んで訳してもらいますから、必ず予習をしてください。		1. 小説というジャンルの歴史と特徴 2. 日本の作家とドイツ文学 3. 自然主義の小説（1） 4. 自然主義の小説（2） 5. 自然主義の小説（3） 6. 自然主義の小説（4） 7. 現代小説への道（1） 8. 現代小説への道（2） 9. 現代小説への道（3） 10. 現代小説への道（4） 11. 戦後作家（1） 12. 戦後作家（2） 13. 戦後作家（3） 14. 戦後作家（4） 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを準備する		（1）テキストを訳す、（2）およびテーマに関する課題を課すので、その二つをレポートの形で提出してもらい、評価する。	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）b ドイツ語講読（文学）	担当者	上田 浩二
講義目的、講義概要		授業計画	
現代のドイツでは、30代の若い女性作家の活躍が目立つ。また、ドイツの文学の特徴として、作家自身による朗読会がしばしば開かれる。こうした文脈の中で、どのような小説が書かれているかを、ドイツの社会と文学の関わりという観点から見ていく。 具体的には昨年秋に来日して、自分の作品の一部を朗読した女性作家を取り上げ、それぞれの傾向と背景について作品を通じて見ていきたい。彼女たちの朗読した部分を読み、また朗読そのものも聞いて、活字で読むのと本人たちの肉声から伝わるものとの差も考えていきたい。 毎回、かなりの量のテキストを読んで訳してもらいますから、必ず予習してきてください。		1. ドイツの小説の概説 2. A. ブロンスキー（1） 3. A. ブロンスキー（2） 4. A. ブロンスキー（3） 5. A. ブロンスキー（4） 6. A. ブロンスキー（5） 7. J. ツァンダー（1） 8. J. ツァンダー（2） 9. J. ツァンダー（3） 10. L. フリッケ（1） 11. L. フリッケ（2） 12. L. コッテン（1） 13. A. コッテン（2） 14. A. コッテン（3） 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
作家自身が選んだ箇所をプリントして配布する。		（1）テキストを訳す、（2）およびテーマに関する課題を課すので、その二つをレポートの形で提出してもらい、評価する。	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）a ドイツ語講読（文学）	担当者	本橋 右京
講義目的、講義概要		授業計画	
目的 読解力の涵養を目指します。また皆さんが、ドイツ語力を磨く機会にしてみられればと思います。 概要 „Die Kinder- und Hausmärchen der Brüder Grimm“ を読みます。様々な版を比較対照し、編纂過程で被った変化をたどります。古い正書法にも慣れましょう。 まずは比較的有名な作品を取り上げます。		1. ガイダンス 2. ～15. 順次読み進めます。 16. 定期試験	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはコピーで配布します。 参考文献は、必要に応じて指示します。		定期試験60%、通常授業における発表や貢献度を40%とし評価します。	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）b ドイツ語講読（文学）	担当者	本橋 右京
講義目的、講義概要		授業計画	
目的 読解力の涵養を目指します。また皆さんが、ドイツ語力を磨く機会にしてみられればと思います。 概要 „Die Kinder- und Hausmärchen der Brüder Grimm“ を読みます。様々な版を比較対照し、編纂過程で被った変化をたどります。古い正書法にも慣れましょう。 秋期は比較的無名な作品に取り組みます。		1. ガイダンス 2. ～15. 順次読み進めます。 16. 定期試験	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはコピーで配布します。 参考文献は、必要に応じて指示します。		定期試験60%、通常授業における発表や貢献度を40%とし評価します。	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）a ドイツ語講読（思想）	担当者	渡部 重美
講義目的、講義概要		授業計画	
注釈が豊富に付いていて、かつ平易なドイツ語で書かれた下記テキストを講読しながら、 （１）２年次までに習得した文法の知識を確認し、より完全なものにすること、 （２）ドイツに限らず、ヨーロッパの文化を理解するときに不可欠なギリシャ神話に関する基礎的な知識を身に付けること、 を目的として授業を進めて行きます。 講義概要としては、テキストの訳読が中心となりますが、テキストの内容と関係のある人物・事柄等について私の方で補足の講義をしたり、また参加者のみなさんに発表をお願いすることも考えています。		1. オリエンテーション 2. Prometheus 3. Die Menschenalter 4. Pentheus 5. Niobe 6. Dädalos und Ikaros 7. Theseus 8. Die Sage von Ödipus 9. Aus der Heraklessage 10. 同上 11. 同上 12. Die Sagen Trojas 13. 同上 14. 同上 15. 同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
Linda Brand, Jutta Kresin, Jutta Renkel 著（前田敬作編注）：Erzählungen aus der griechischen Mythologie.（邦題：やさしいギリシャ神話）朝日出版社		学期末の筆記試験（70％）と、出席・授業への参加度等を基にした平常点（30％）で評価します。なお、欠席が5回以上になると、その時点で単位は認めません。	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）b ドイツ語講読（思想）	担当者	渡部 重美
講義目的、講義概要		授業計画	
下記テキストの講読を通して、文法の知識をより完全なものにするとともに、テキストの中でエンデが提起している問題について考察しながら考える態度を身に付けることを目的として授業を進めて行きます。 講義概要としては、テキストの訳読が中心となりますが、テキストの内容と関係のあるテーマについて私の方で補足的な講義をしたり、あるいは、テキストで提起された問題について参加者のみなさんと意見交換などしたいと考えています。		1. オリエンテーション 2. Fremdsüchtig 3. No-Theater 4. Der dritte Weltkrieg 5. Einfach 6. Die Welt verändern? 7. Verwandlungen 8. Kreativität 9. Ein Bühnenbild 10. Stilistische Mätzchen 11. Nie wieder 12. Optimal 13. Dumme Fragen? 14. U und E 15. Traum von der Sphärenmusik	
テキスト、参考文献		評価方法	
子安美智子編：Michael Endes Zettelkasten.（邦題：エンデのメモ箱）朝日出版社		学期末の筆記試験（70％）と、出席・授業への参加度等を基にした平常点（30％）で評価します。なお、欠席が6回以上になると、その時点で単位は認めません。	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）a ドイツ語講読（語学）	担当者	中山 純
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は「読むためのドイツ語文法」をテーマにして、ドイツ語で書かれたさまざまな文献の読み解き方を考えていきます。 初歩的な学習を終えた後に、語学力を強化していくためには「読む」ことは不可欠な練習のひとつです。しかしながら、実際に各種の文献を読むためには、習得した基礎文法知識の応用面からの見直しと、専門用語の構造や新語などの作り方を理解するための造語方法などの勉強が必要になります。これまであまり体系的に教えられることがなかった中級の文法知識の習得を目指します。 授業では、短いテキストを材料にして、授業計画に挙げてある項目を取り上げていきます。「読む」という行為は、決して受動的なものではなく、また読解法などのスキルだけで出来るものではありません。授業を通して、積極的な読解方法が身に付くように努力することを望みます。		1. 春学期の予定テキストと進め方について 2. 読解に必要な整理とは 3. 一歩前進するための文法基礎項目の確認 4. Strukturzeichen の種類と識別方法 5. 動詞を見きわめる 6. 主語の構造 7. いわゆる「枠構造」について 8. Komplexe Prädikate の構造 9. 名詞句の構造 10. 文の接続 11. 複合語の構造 12. 名詞化の方法 13. 形容詞の拡張方法 14. Polyfunktionale Strukturwörter について 15. 春学期のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業用のテキストはプリントで配布します。参考文献等については授業の中で随時紹介していきます。		出席を含めた通常授業への参加度、委託された担当部分の出来具合、課題などの提出をもとにして総合的に成績を判断します。	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（語学・文学・思想）b ドイツ語講読（語学）	担当者	中山 純
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は「読むためのドイツ語文法」をテーマにして、ドイツ語で書かれたさまざまな文献の読み解き方を考えていきます。 秋学期には、春学期で学習したことを踏まえて、より実践的なテキストの読解を練習していきます。個別の項目は春学期と同じですが、造語論的な側面や語彙の選択など、文体分析に必要な知識の深化に重点を置きます。春学期と秋学期を継続して履修することによって、読むための文法知識をよりしっかりと定着することができるように配慮しますが、秋学期だけを履修しても全体的なことが把握できるように進めていきます。 秋学期では、それぞれのテキストの種類に応じたアプローチの方法と読後の情報や語彙の整理についても考えていきます。それによって、テキストを読むプロセスだけではなく、事前の整理から読解、読後の整理という、「読む」という行為をドイツ語力の強化のために役立てるための知識を習得できるようにします。		1. 秋学期の予定テキストと進め方について 2. 読解に必要な整理とは 3. 一歩前進するための文法基礎項目の確認 4. 春学期に学習したこと 5. 動詞を見きわめる 6. 主語の構造 7. いわゆる「枠構造」について 8. Komplexe Prädikate の構造 9. 名詞句の構造 10. 文の接続 11. 造語論入門 12. 名詞化の方法 13. 形容詞の拡張方法 14. テキストの構造について 15. 秋学期のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業用のテキストはプリントで配布します。参考文献等については授業の中で随時紹介していきます。		出席を含めた通常授業への参加度、委託された担当部分の出来具合、課題などの提出をもとにして総合的に成績を判断します。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏芸術・文化概論 a ドイツ文化史概論 I	担当者	山本 淳
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 これからドイツ語圏の芸術・文化を学んでいこうと考えている学生諸君のために、芸術・文化史上の基本概念や、重要な文化事象についての情報を提供し、学生諸君自身がそれをもとに、自らのテーマを決めたり、深めたりするための「きっかけ」をつくる。 その際、芸術・文化に「ドイツ語圏」という冠をつけることの意味も同時に考える。 講義概要 ドイツ語圏の芸術・文化の歴史的展開を、社会史と関わらせながら通時的に概観すると同時に、それぞれの時代に見られる文化現象のアクチュアリティについて共時的に考える。事典のように事柄を網羅的に並べるのではなく、それぞれの時代の文化現象の特徴を端的に示すようなトピックスをゆるやかにつないでいきながら、ドイツ語圏芸術・文化の歴史的な流れをたどり、その特質を明らかにしたい。映像・音声資料もできるだけ多く利用する予定である。 春学期は、ルネサンス・宗教改革期からロマン主義時代までを扱う。 春学期・秋学期を通しての履修が望ましい。		1 オリエンテーション：講義のねらい、講義の進め方、評価方法等について 2 ルネサンス・宗教改革期 3 同上 4 同上 5 三十年戦争・バロック期 6 同上 7 同上 8 啓蒙主義時代 9 同上 10 同上 11 ロマン主義時代 12 同上 13 同上 14 グリムのメルヒェン 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。 参考文献：必要に応じその都度指示する。		講義で扱ったテーマに関するレポートおよび出席状況により評価。詳細は授業中に指示する。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏芸術・文化概論 b ドイツ文化史概論 II	担当者	山本 淳
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 これからドイツ語圏の芸術・文化を学んでいこうと考えている学生諸君のために、芸術・文化史上の基本概念や、重要な文化事象についての情報を提供し、学生諸君自身がそれをもとに、自らのテーマを決めたり、深めたりするための「きっかけ」をつくる。 その際、芸術・文化に「ドイツ語圏」という冠をつけることの意味も同時に考える。 講義概要 ドイツ語圏の芸術・文化の歴史的展開を、社会史と関わらせながら通時的に概観すると同時に、それぞれの時代に見られる文化現象のアクチュアリティについて共時的に考える。事典のように事柄を網羅的に並べるのではなく、それぞれの時代の文化現象の特徴を端的に示すようなトピックスをゆるやかにつないでいきながら、ドイツ語圏芸術・文化の歴史的な流れをたどり、その特質を明らかにしたい。映像・音声資料もできるだけ多く利用する予定である。 秋学期は、19 世紀後半から現代までを扱う。 春学期・秋学期を通しての履修が望ましい。		1 オリエンテーション：講義のねらい、講義の進め方、評価方法等について 2 19 世紀後半 3 同上 4 世紀転換期 5 同上 6 モダニズム 7 同上 8 ヴァイマル文化 9 同上 10 同上 11 ナチズムと芸術 12 同上 13 現代へ：新たな芸術の展開 14 同上 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。 参考文献：必要に応じその都度指示する。		講義で扱ったテーマに関するレポートおよび出席状況により評価。詳細は授業中に指示する。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏の美術 a ドイツの美術 I	担当者	青山 愛香
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義はドイツ語圏の美術を中心に、幅広く西洋美術について知ることを目的としています。春学期は「メランコリー」という主題で古代美術から現代美術まで幅広く作品を取り上げたいと思います。 「メランコリー」とは、日本語に訳すと憂鬱質という意味が一般的です。現代では一時的に沈んだ、減入の気分といった意味が定着していますが、実はこの「メランコリー」とはギリシャ以来、西洋では長い歴史を持つ科学、哲学、芸術全般に影響を及ぼした重要な概念でした。この講義では、この「メランコリー」の造形美術における図像の変遷を追い、この主題を扱った傑作、1514年のアルブレヒト・デューラーの銅版画『メレンコリア I』の解釈に挑みます。		1 オリエンテーション 2 メランコリーの概念と歴史的発展・導入 3 四体液の理論 4 文学的伝統における土星 (Saturn) 5 中世文学における土星 6 古代美術におけるサトウルヌス 7 写本の挿絵と東方からの影響 8 人文主義におけるサトウルヌス 9 中世以後のメランコリー 10 マルシリオ・フィチーノとメランコリー 11 デューラーの銅版画『メレンコリア I』 12 個別のモチーフの意味 (1) 13 個別のモチーフの検証 (2) 14 『メレンコリア I』の解釈への道 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
『土星とメランコリー 自然哲学、宗教、芸術の歴史における研究』レイモンド・クリバンスキー、アーウィン・パノフスキー、フリッツ・ザクスル著、田中英道監訳 晶文社 1991 年		出席ならびに学期末のレポートで判断します。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏の美術 b ドイツの美術 II	担当者	青山 愛香
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義は前期と同様に、ドイツ語圏の美術を中心に幅広く西洋美術について知ることを目的としています。秋学期は「人体」をテーマにします。 特に 2012 年度秋学期は 15 世紀の美術を中心に、芸術家たちがどのような意図で人体をかたち作り、作品にしたのかという点に焦点を絞りながら、北方美術のみならず、イタリア・ルネサンスの芸術も取り上げたいと思います。		1 オリエンテーション 2~14 個別作品の検証 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に適宜指示します。		出席ならびに学期末のレポートで判断します。	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏の音楽 a ドイツの音楽 I	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語圏の国々の音楽（いわゆるクラシック音楽）をたくさんの録音資料（主に CD）で聴き、親しんでいただく授業です。そのなかで、各時代の音楽様式や書法上の特徴等についても理解を深めていただきたいと思います。 春学期には、中世から 18 世紀までに書かれた多様な音楽作品を取りあげます。普段耳にする機会の少ない作品も多いと思いますが、関心をもって耳を傾けていただければと思います。 注意事項：音楽を聴く授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。 楽譜を用いて解説することがありますので、予め了解しておいてください。		1 回ずつテーマを定めてお話しします。以下のようなテーマでお話しすることを予定していますが、みなさんの関心や進度等に応じて変更する場合があります。 1. 導入、概観 2. 中世の音楽 3. 15～16 世紀の声楽作品 4. シュッツとブクステフーデの声楽作品 5. 15～17 世紀のオルガン音楽 6. 南ドイツのバロック音楽 7. J. S. バッハの生涯と器楽作品 8. J. S. バッハの声楽作品 9. ヘンデルの音楽 10. テレマンとベルリン楽派 11. 前古典派の音楽 12. J. ハイドンの音楽 13. W. A. モーツァルトの生涯と器楽作品 14. W. A. モーツァルトの声楽作品 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業中に適宜紹介します。		出席状況（10 回以上の出席が必要）および学期末試験の結果をもとに評価します。また、各回の授業の終わりに感想などを書いてもらいます。	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏の音楽 b ドイツの音楽 II	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語圏の国々の音楽をたくさんの録音資料で聴き、親しんでいただく授業です。 秋学期には、18 世紀終わり頃から現在までに書かれた音楽を、主に作曲家とその作品という観点からとりあげます。そのなかで、作曲の背景、書法上の特徴、音楽様式の変遷等についても理解を深めていただきたいと思います。 秋学期の終わり頃には、ドイツ語圏の国歌や民謡等も扱う予定です。 秋学期は、春学期の授業内容（18 世紀までのドイツ語圏の音楽史および音楽用語等）を知っていることを前提に講義を行いますので、なるべく春学期から通年で履修してください。 注意事項：音楽を聴く授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。 楽譜を用いて解説することがありますので、予め了解しておいてください。		1 回ずつテーマを定めてお話しします。以下のような作曲家等の作品を取りあげることが予定していますが、みなさんの関心や進度等に応じて変更する場合があります。 1. ベートーヴェン（1） 2. ベートーヴェン（2） 3. シューベルト 4. メンデルスゾーン 5. シューマン 6. リスト 7. ヴァーグナー 8. ブラームス 9. J. シュトラウス II 世と R. シュトラウス 10. ブルックナー、マーラー、新ウィーン楽派 11. 20 世紀中葉以降のドイツ語圏の音楽 12. ドイツ語圏の国歌 13. ドイツ語圏のクリスマスの音楽 14. ドイツ語圏の民謡、ポップス 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業中に適宜紹介します。		出席状況（10 回以上の出席が必要）および学期末試験の結果をもとに評価します。また、各回の授業の終わりに感想などを書いてもらいます。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏の演劇 a ドイツの演劇 I	担当者	上田 浩二
講義目的、講義概要		授業計画	
新たな演劇の形態を模索していた20世紀前半のドイツ語圏の演劇を中心に上げて、その特徴と楽しさを理解していこうと思います。 春学期に取り上げる劇作家は、この時期を代表するブレヒト、ならびにオーストリア・ハンガリー帝国で独自の戯曲を書いたホルヴァートの二人です。彼らの戯曲を読みながらこの時期に発達した舞台表現についてもできるだけ理解できるようにするつもりです。毎回、ある程度のまとまった量を読みますから、必ず準備してください。 また、映像が手に入る作品にあっては、それも参照します。		1. 20 世紀ドイツ語圏の演劇 2. ブレヒトの初期作品 (1) 3. ブレヒトの初期作品 (2) 4. ブレヒトの初期作品 (3) 5. 亡命時代のブレヒト (1) 6. 亡命時代のブレヒト (2) 7. 亡命時代のブレヒト (3) 8. 戦後のブレヒト (1) 9. 戦後のブレヒト (2) 10. 戦後のブレヒト (3) 11. ホルヴァート (1) 12. ホルヴァート (2) 13. ホルヴァート (3) 14. ホルヴァート (4) 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
いくつもの長い作品から、その一部を読むので、必要な部分だけをコピーして配布します。		与えられた課題をレポートにして提出。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏の演劇 b ドイツの演劇 II	担当者	上田 浩二
講義目的、講義概要		授業計画	
今学期は、ドイツ語圏の演劇の大事なジャンルである音楽劇を取り上げます。音楽劇は、モーツァルトの「魔笛」のような民衆劇の系譜もあれば、J.シュトラウスのオペレッタ、あるいは「薔薇の騎士」を初めとする R.シュトラウスのオペラなど、さまざまなジャンルがあります。 こうした中から、いくつかの代表的な作品を取り上げて、そのテキストを読み、実際の上演の様子を CD やビデオ見たいこうと考えています。 毎回の授業では、かなり多くのテキストを読みますから、かならず準備をしておいてください。		1. ドイツ語圏の音楽劇 2. 「魔笛」(1) 3. 「魔笛」(2) 4. 「魔笛」(3) 5. 「魔笛」(4) 6. 「魔笛」(5) 7. オペレッタ (1) 8. オペレッタ (2) 9. オペレッタ (3) 10. オペレッタ (4) 11. 「薔薇の騎士」(1) 12. 「薔薇の騎士」(2) 13. 「薔薇の騎士」(3) 14. 「薔薇の騎士」(4) 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはコピーしてお渡しします。		音楽劇に共通する課題を課すので、それについてレポートを書いてもらいます。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏のメディア文化 a ドイツ思想・芸術各論 I	担当者	下川 浩
講義目的、講義概要		授業計画	
科学・技術の発展にともない、文化のありようも急速に変化してきました。文化（ものの見方・考え方・感じ方と行動・生活の仕方およびその道具ないし記録）は世代を通じ伝えられるもので、最初は道具のような実物でしか伝えられませんでした。言語・文字そして印刷術の発達でまず広く伝えられるようになり、交通および通信手段の発達により広く・早く伝えられるようになりました。 新聞・テレビとインターネットが発達した今日では、むしろ通信のメディアが文化の様式を逆に規定し、インターネット上にしか存在しえない（下位）文化というものも現れています。 記録媒体（本来のメディア）も紙・板などから磁気媒体、これも磁気テープから各種ディスク・USBメモリまで、日々発達し、文字または静止画だけではなく、最近は個人作成の動画までインターネット上にはんらんしています。 それゆえ、「メディア文化」と聞くと、インターネット空間の文化しか思いつかない人もいますが、本講義では文化・メディア・それらの相互関係を歴史も含めて論じ、可能なかぎりドイツ語圏の文化・芸術作品・映画などを紹介したいと考えております。		- 文化とは何か？（１） - 文化とは何か？（２） - コミュニケーションとその手段（１） - コミュニケーションとその手段（２） - 科学・技術の発達と文化への影響（１） - 科学・技術の発達と文化への影響（２） 「実物」文化 - 記録文化と記録・通信メディア - 絵画から映画へ - 音楽の宗教・芸術から大衆文化への変遷 - 漫画からアニメーションへ - LDからDVDへ - インターネットの普及 「ネット動画」など、狭義のメディア文化 - まとめ 以上は、講義ノートを作成する前に考えたものですから、若干内容の変更があるかもしれません。	
テキスト、参考文献		評価方法	
特にテキストはありません。パワーポイントを用いますから、そのテキスト部分を講義のホームページに公開します。		毎回授業レポートを提出してもらい、最後にまとめのレポートをしてもらい、それにもとづき評価します。（参考のため、最後のレポートに自己評価を書いてもらいます。）	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏のメディア文化 b ドイツ思想・芸術各論 II	担当者	下川 浩
講義目的、講義概要		授業計画	
科学・技術の発展にともない、文化のありようも急速に変化してきました。文化（ものの見方・考え方・感じ方と行動・生活の仕方およびその道具ないし記録）は世代を通じ伝えられるもので、最初は道具のような実物でしか伝えられませんでした。言語・文字そして印刷術の発達でまず広く伝えられるようになり、交通および通信手段の発達により広く・早く伝えられるようになりました。 新聞・テレビとインターネットが発達した今日では、むしろ通信のメディアが文化の様式を逆に規定し、インターネット上にしか存在しえない（下位）文化というものも現れています。 記録媒体（本来のメディア）も紙・板などから磁気媒体、これも磁気テープから各種ディスク・USBメモリまで、日々発達し、文字または静止画だけではなく、最近は個人作成の動画までインターネット上にはんらんしています。 それゆえ、「メディア文化」と聞くと、インターネット空間の文化しか思いつかない人もいますが、本講義では文化・メディア・それらの相互関係を歴史も含めて論じ、可能なかぎりドイツ語圏の文化・芸術作品・映画などを紹介したいと考えております。		- 文化とは何か？ - コミュニケーションとその手段 - 科学・技術の発達と文化への影響 - 実物文化と記録文化 - 記録・通信手段のメディアの発達 - 音楽の大衆化 - 静止画から動画へ - 演劇からラジオドラマへ - 歌劇・楽劇からミュージカルへ - 無声映画からトーキーへ - 映画からアニメーションへ - ドイツ映画 - ドイツ語のアニメーション - ドイツ語のアニメーション(続き) - まとめ 以上は、講義ノートを作成する前に考えたものですから、若干内容の変更があるかもしれません。	
テキスト、参考文献		評価方法	
特にテキストはありません。パワーポイントを用いますから、そのテキスト部分を講義のホームページに公開します。		毎回授業レポートを提出してもらい、最後にまとめのレポートをしてもらい、それにもとづき評価します。（参考のため、最後のレポートに自己評価を書いてもらいます。）	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（芸術・文化）a ドイツ語講読（芸術）	担当者	山本 淳
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 1) Bertolt Brecht (1898-1956) が構想した「教育劇」のひとつ „Der Jasager. Der Neinsager.“ (1930-31) の台本を読み、併せて Brecht の演劇論について学びながら、この作品の意義とアクチュアリティについて考える。 2) authentisch なテキストを正確に読む訓練をする。また、それを自然な日本語に置き換えるためのコツを体得する。 講義概要 テキストを読むのに先立ち、背景となる 1920 年代ドイツの政治的・社会的・文化的状況、および Brecht および彼の演劇論について概略的に学ぶ。 テキストの訳読は、分担を決めないでアットランダムにあてていく。必ず全員が当事者意識を持って予習してくること。 できれば最後に映像化されたものを鑑賞し、テキストとの比較検討を試みる。		1. ガイダンス：テキスト、授業方針、評価方法等について 2. Brecht および彼の演劇論に関する講義 3. 台本の講読＋解説 (1) 4. 台本の講読＋解説 (2) 5. 台本の講読＋解説 (3) 6. 台本の講読＋解説 (4) 7. 台本の講読＋解説 (5) 8. 台本の講読＋解説 (6) 9. 台本の講読＋解説 (7) 10. 台本の講読＋解説 (8) 11. 台本の講読＋解説 (9) 12. 台本の講読＋解説 (10) 13. 台本の講読＋解説 (11) 14. 映像鑑賞 15. まとめ＋討論	
テキスト、参考文献		評価方法	
Brecht, Bertolt: Werke. Große kommentierte Berliner und Frankfurter Ausgabe. (Suhrkamp) Bd. 3, 1988, S. 58-72. (プリントを配布)		学期末に行う筆記試験、および授業への出席状況・参加度に基づいて評価を決定する。	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（芸術・文化）b ドイツ語講読（芸術）	担当者	山本 淳
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 1) Bertolt Brecht (および作曲家 Kurt Weill) の名を世界的なものにした社会風刺的音楽劇 „Die Dreigroschenoper“ (1928 初演) の台本 (の一部) を読み (+聴き、観て)、合わせて作品成立の諸背景やブレヒトの演劇論について考えることで、この作品のアクチュアリティを探る。 2) authentisch なテキストを正確に読む訓練をする。また、それを自然な日本語に置き換えるためのコツを体得する。 講義概要 テキストは、全体的な流れがわかるようにカヴァーしながら、興味深い場面やソングをピックアップして読み進んでいく (授業で扱う箇所は、あらかじめ指示する)。ソングについては、実際に唄われているものを同時に聴いていく。 分担は決めない。アットランダムにあてていくので、全員当事者意識を持って、毎回必ず予習してくること。 最後に、映画化された „Die Dreigroschenoper“ (G. W. Pabst 監督/1931) を観て、原作との比較を試みる。		1. ガイダンス：テキスト、授業方針、評価方法等について 2. Brecht および彼の演劇論に関する講義 3. 台本の講読＋解説 (1) 4. 台本の講読＋解説 (2) 5. 台本の講読＋解説 (3) 6. 台本の講読＋解説 (4) 7. 台本の講読＋解説 (5) 8. 台本の講読＋解説 (6) 9. 台本の講読＋解説 (7) 10. 台本の講読＋解説 (8) 11. 台本の講読＋解説 (9) 12. 台本の講読＋解説 (10) 13. 映画 „Die Dreigroschenoper“ 鑑賞(1) 14. 映画 „Die Dreigroschenoper“ 鑑賞(2) 15. まとめ＋討論	
テキスト、参考文献		評価方法	
Brecht, Bertolt: Werke. Große kommentierte Berliner und Frankfurter Ausgabe. (Suhrkamp) Bd. 2, 1988, S. 229-322. (プリントを配布)		学期末に行う筆記試験、および授業への出席状況・参加度に基づいて評価を決定する。	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（芸術・文化）a ドイツ語講読（芸術）	担当者	工藤 達也
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語の芸術・文化に関するエッセイを原文で読んでいきたいと思います。具体的には、リルケ（Rainer Maria Rilke）のロダン論を読む予定です。 ドイツ語のテキストをきちんと読めることを目指す授業です。原文は少し難しいのですが、翻訳を参考にしてもらっても結構ですし、そのうちに慣れます。しかし、慣れるまでが結構つらいかもしれないので、根気強くついてくようにしてください。 もしかしたら関連でハイデガーの芸術論に言及するかもしれません。 テキストをコツコツと読んでいく授業形式で、努力する学生には報いてあげるつもりですので、自信のあるなしに関係なく受講してください。楽しくつきあってくれる学生の参加を希望します。		1. テキスト配布と発表者の担当決め 2～15.テキスト講読及び検討	
テキスト、参考文献		評価方法	
コピーを配布		平常点（出席・授業態度・発表）と期末テスト	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（芸術・文化）b ドイツ語講読（芸術）	担当者	工藤 達也
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語の芸術・文化に関するエッセイを原文で読んでいきたいと思います。前の学期に続いて、リルケ（Rainer Maria Rilke）のロダン論を読む予定です。 ↑を繰り返すと、ドイツ語のテキストをきちんと読めること、それをとにかく目指す授業です。翻訳を参考にしてもらっても結構ですが、自分の力で読んでみる努力をした方が断然、力がつきます。仕事やスポーツと一緒で、自分で反復すれば語学も伸びるのです。 それでまた↑の繰り返しですが、もしかしたら関連でハイデガーの芸術論に言及するかもしれません。ロダンやゴッホなど西欧美術に関して興味のある人はどうぞ。 しつこく書いておくと、テキストをコツコツと読んでいくつもりなので、様子を見て努力する学生には報いてあげるつもりです。ドイツ語力の自信のあるなしに関係なく受講してください。楽しくつきあってくれる学生の参加を歓迎します。		1. テキスト配布と発表者の担当決め 2～15.テキスト講読及び検討	
テキスト、参考文献		評価方法	
コピーを配布		平常点（出席・授業態度・発表）と期末テスト	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（芸術・文化）a ドイツ語講読（芸術）	担当者	K. O. バイスヴェンガー
講義目的、講義概要		授業計画	
Fragen und Texte zur Musik Ist Deutschland das Land der Musik? Wieso darf man im Konzert nicht klatschen wann man will? Solche Fragen an die Musik und verschiedene Texte zur Musik sind die Grundlage der Lektüre in diesem Kurs. Anhand von unterschiedlichen Textformen wie Anekdoten, Werkbeschreibungen, Komponisten- und Komponistinnenporträts, Musikmärchen sollen verschiedene Facetten der deutschen, aber auch europäischen Musik und Musikgeschichte beleuchtet werden. Außerdem sollen von den Komponisten und Komponistinnen, die in den Texten behandelt werden, wichtige Werke (CD oder DVD) vorgestellt werden. Die angegebenen Texte verstehen sich als Beispiele. Änderungen sind auf Wunsch der Teilnehmer möglich.		1-2: Frage an die Musik: Ist Deutschland das Land der Musik? 3: Anekdote: Chopin 4-5: Komponistenporträt: Franz Schubert, Die Schubertiade 6-7: Frage an die Musik: Wieso darf man im Konzert nicht klatschen wann man will? 8-9: Werkbeschreibung: J. S. Bach, die vier Ouvertüren 10-11: Märchen: Die Erschaffung der Geige 12-13: Komponistinnenporträt: Clara Wieck-Schumann, Parisreisen 14-15: Frage an die Musik: Wurde Mozart in einem Armengrab verscharrt, und wo liegt eigentlich Bach?	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Regelmäßige, aktive Teilnahme, Hausarbeit	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（芸術・文化）b ドイツ語講読（芸術）	担当者	K. O. バイスヴェンガー
講義目的、講義概要		授業計画	
Fragen und Texte zur Musik Warum ist die Sprache der Musik Italienisch? Warum sitzen im Orchester die Geigen immer vorne? Solche Fragen an die Musik und verschiedene Texte zur Musik sind die Grundlage der Lektüre in diesem Kurs. Anhand von unterschiedlichen Textformen wie Anekdoten, Werkbeschreibungen, Komponisten- und Komponistinnenporträts, Musikmärchen sollen verschiedene Facetten der deutschen, aber auch europäischen Musik und Musikgeschichte beleuchtet werden. Außerdem sollen von den Komponisten und Komponistinnen, die in den Texten behandelt werden, wichtige Werke (CD oder DVD) vorgestellt werden. Die angegebenen Texte verstehen sich als Beispiele. Änderungen sind auf Wunsch der Teilnehmer möglich.		1-2: Frage an die Musik: Warum ist die Sprache der Musik Italienisch? 3: Anekdoten: Bach-Tschaikowsky 4-5: Werkbeschreibung: L. van Beethoven, Die Mondscheinsonate 6-7: Frage an die Musik: Warum sitzen im Orchester die Geigen immer vorne? 8-9: Komponistenporträt: Franz Schubert, Schuberts Ausbildung 10-11: Musikmärchen: Der Prinz mit der Flöte 12-13: Komponistinnenporträt: Fanny Mendelssohn-Hensel, Ein fiktives Interview 14-15: Frage an die Musik: Warum sind alle Söhne Bachs Musiker geworden?	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien		Regelmäßige, aktive Teilnahme, Hausarbeit	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（芸術・文化）a ドイツ語講読（芸術）	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
音楽関連のドイツ語文献を読み、読解力の向上を目指すと同時に、音楽についての理解も深めていただきたいと思います。和訳するにあたっては、日本語としてなめらかな文章にすることを、みなさんと一緒に考えたいと思います。 2012 年度は、W. A. モーツァルト（1756～1791）に焦点をあてます。春学期には、神童期から 1780 年頃までのモーツァルトの生涯と作品、モーツァルトの訪れた都市等を扱いたいと思います。登録人数にもよりますが、受講者には研究発表をしてもらう予定です。文献には、音楽の専門用語や、現代ドイツ語とは異なる 18 世紀特有の言い回しなどが出てくる場合もあります。予め了解しておいてください。 なお、文中で扱われる音楽に関連した CD 等を授業中にお聴かせします。鑑賞中は特に静粛にしてください。 注意事項：毎週必ず予習し、あてられても答えられないことがないように、充分準備して授業に臨んでください。ドイツ語の書籍から生の文章をとりだしてきて読みますので、じっくり時間をかけて予習に取り組み、内容に関心をもって積極的に授業に参加することのできる学生の受講を希望します。		春学期には、Rudolf Nykrin, <i>Wolfgang Amadeus Mozart: Spuren zu Leben und Musik</i>, 2005 の 6～69 ページを毎回 5～6 ページずつ読みます。それに加えて、別の書籍や HP 等からの文章も読んでいきたいと思います。 1. オリエンテーション、導入 2. Wolfgang 3. Der Vater 4. Die Mutter 5. Die Schwester 6. Frühe Reisen 7. Frühe Reisen 8. Italien 9. In Salzburg 10. Paris 11. Paris 12. Das Bäsle 13. Aloisia Weber 14. Endlich frei für die Kunst 15. まとめ 上記の予定は、みなさんの関心や進度等に応じて変更することもあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
教材はコピーで配布します。 参考文献は授業中に適宜紹介します。 辞書は、小学館の『独和大辞典』を使ってください。		筆記試験の結果に平常点を加えた総合評価。 出席および授業中の発言を重視します。（10 回以上の出席が必要）	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（芸術・文化）b ドイツ語講読（芸術）	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
音楽関連のドイツ語文献を読み、読解力の向上を目指すと同時に、音楽についての理解も深めていただきたいと思います。和訳するにあたっては、日本語としてなめらかな文章にすることを、皆さんと一緒に考えたいと思います。 2012 年度は、W. A. モーツァルト（1756～1791）に焦点をあてます。秋学期は、1781 年にウィーンを本拠地としてのモーツァルトの生涯と作品、後世に与えた影響などを扱いたいと思います。登録人数にもよりますが、受講者には研究発表をしてもらう予定です。文献には、音楽の専門用語や、現代ドイツ語とは異なる 18 世紀特有の言い回しなどが出てくる場合もあります。予め了解しておいてください。 なお、文中で扱われる音楽に関連した CD 等を授業中にお聴かせします。鑑賞中は特に静粛にしてください。 注意事項：①毎週必ず予習し、あてられても答えられないことがないように、充分準備して授業に臨んでください。ドイツ語の書籍から生の文章をとりだしてきて読みますので、じっくり時間をかけて予習に取り組み、内容に関心をもって積極的に授業に参加することのできる学生の受講を希望します。②春学期と連続した内容の文章を読みます。春学期に学習したモーツァルトの生涯や作品等についての基礎知識をもっていることを前提として授業を進めますので、なるべく通年で受講してください。		秋学期には、Rudolf Nykrin, <i>Wolfgang Amadeus Mozart: Spuren zu Leben und Musik</i>, 2005 の 70～127 ページを毎回 5～6 ページ程度読みます。それに加えて、別の書籍や HP 等からの文章も読んでいきたいと思います。 1. オリエンテーション、春学期の内容の復習 2. Das Leben in Wien 3. Das Leben in Wien 4. Bewegte Jahre 5. Arbeit, Not, Erschöpfung 6. Arbeit, Not, Erschöpfung 7. Die letzte Lebensperiode 8. Die letzte Lebensperiode 9. Requiem, Gift und Armengrab 10. Das musikalische Genie 11. Die Musik 12. Die Musik 13. Kleiner Leitfaden zum Zuhören 14. Mozarts großes Werk 15. まとめ 上記の予定は、みなさんの関心や進度等に応じて変更することもあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
教材はコピーで配布します。 参考文献は授業中に適宜紹介します。 辞書は、小学館の『独和大辞典』を使ってください。		筆記試験の結果に平常点を加えた総合評価。 出席および授業中の発言を重視します。（10 回以上の出席が必要）	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（芸術・文化）a ドイツ語講読（芸術）	担当者	上田 浩二
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツの個別の芸術の歴史や現状については、他の先生方がそれぞれの専門を生かして担当されているので、この授業では、さまざまな角度から芸術・文化の「場」を見ていきます。つまり、劇場や美術館や博物館など、芸術や文化的な催しと、それを楽しむ人々とが会う場を取り上げます。 19世紀前半までの芸術や文化のほとんどは、王侯貴族や教養ある富裕市民層の専有物でした。それが徐々に社会階層を降りてきて、一般大衆にも開かれるようになったのです。こうした歴史を背景に抱えた「芸術・文化」の場を見ていくことで、近現代の芸術観や文化観を考えていきましょう。 実際の文化施設の映像も紹介しますが、やはり中心はドイツ語のテキストですから、必ず読んできてください。		1. 授業の概要 2. 美術館（1） 3. 美術館（2） 4. 美術館（3） 5. 美術館（4） 6. 博物館（1） 7. 博物館（2） 8. 動物園 9. 植物園 10. 劇場（1） 11. 劇場（2） 12. 劇場（3） 13. その他の文化施設（1） 14. その他の文化施設（2） 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
各回ごとに適切なプリントを配布。		テキストの訳、ならびに学期末に発表するテーマについてレポートを提出してもらう。	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（芸術・文化）b ドイツ語講読（芸術）	担当者	上田 浩二
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期は、日本の大学ではあまり取り上げられないドイツの映画をテーマにします。ドイツの映画の歴史は長く、世界の映画の先端を行っていた時代もあります。 映画に関するテキスト、映画台本などを読み、また可能な場合には読んだテキストを映像で確認しながら進めていきます。 オリジナルな映画作品も数多くありますが、小説や戯曲などの文学作品を映画化したものも多く、そうした例も取り上げて、映画の特性についても考えていきます。 さらに、トーキーが始まってからは、文学にとどまらず、音楽などの他の分野とも関係を深めていくので、そうした方面も考慮していきたいと思います。		1. ドイツ映画について 2. ドイツ映画の歴史 3. 表現主義の映画（1）「カリガリ博士」 4. 表現主義の映画（2）「カリガリ博士」 5. 表現主義の映画（3）「朝から夜中まで」 6. 表現主義の映画（4）「朝から夜中まで」 7. ブレヒトの「三文オペラ」（1） 8. ブレヒトの「三文オペラ」（2） 9. 小説の映画化（1） 10. 小説の映画化（2） 11. 近年のドイツ映画（1） 12. 近年のドイツ映画（2） 13. 近年のドイツ映画（3） 14. 近年のドイツ映画（4） 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要なテキストを配布する		テキストの訳、ならびに学期末に発表するテーマについてレポートを提出してもらう。	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（芸術・文化）a ドイツ語講読（芸術）	担当者	飯沼 隆一
講義目的、講義概要		授業計画	
前学期に引き続きゲオルク・ビューヒナーの喜劇『レオンスとレーナ』を講読します。ビューヒナーはドイツ文学史上特異な存在で、19世紀はじめの文学者、自然科学者で、わずか23歳で夭折しました。しかしその数少ない作品はベルクのオペラ『ヴォツェック』の台本などの形で今の時代にも強烈な存在感を持っています。 講義で扱うのはかれの作品中では珍しい喜劇です。ただその話の筋の運びに面白さがあるというよりは、台詞の中にあるイロニー、純な真情吐露、野放図な冗談の横溢などが読むべき点です。前学期はこのような華麗なレトリックに詳しく立ち入りすぎたきらいもあるので今度は話の展開を分かりやすく追うことも考えています。 講義の目的は語彙および文法の知識の深化と応用です。解釈はあくまでも正しい本文読解にもとづきます。		1.～2. オリエンテーション。作者、作品等の解説（前学期継続でも新たに行う）。作品前半部分の説明。 3.～14. 作品後半部。 毎回テキスト部 2 ページをめどに講読。常に文法上の復習も織り交ぜます。 15. まとめ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。参考文献は授業中に指示します。		平常点（出席、回答回数）と定期試験で決めます。	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（芸術・文化）b ドイツ語講読（芸術）	担当者	飯沼 隆一
講義目的、講義概要		授業計画	
引き続き戯曲を読んでいきたい。『レオンスとレーナ』が一通り終わった場合は、表現主義の戯曲などを考えています。		1. オリエンテーション。作者、作品等の解説。 2.～14. 毎回テキスト部 2 ページをめどに講読。常に文法上の復習も織り交ぜます。 15. まとめ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。参考文献は授業中に指示します。		平常点（出席、回答回数）と定期試験で決めます。	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（芸術・文化）a ドイツ語講読（芸術）	担当者	前田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 1) ドイツ映画「菩提樹」（1956年）を観る。 2) 映画とテキストを通して文化的・歴史的背景を探る。 3) 映画とテキストを通して生きたドイツ語及び構文解析を習得する。 講義概要 「菩提樹」及びその続編「続菩提樹」（1958年）は、その後アメリカでも映画化された「サウンド・オブ・ミュージック」（1965年）の前身にあたるものです。「修道女になることを望んでいた歌の好きなオーストリア人の女性がふとしたきっかけから子供が7人いるトラップ氏と結婚し、ナチス台頭後アメリカに亡命し、困難な状況にもめげず、一家で合唱団をつくり各地をまわったというこの話は、実際にあったことです。」主人公マリア自身の体験をもとに書かれたテキストと映画を通して「生きる意味」を皆さんと考えてみたいと思います。 （講義中の無断退出、飲食は厳禁）		1. ガイダンス（講義の概要、評価方法等について） 2. ドイツ映画「菩提樹」（1956年）観賞（1） 3. ドイツ映画「菩提樹」（1956年）観賞（2） 4. テキスト研究（1） 5. テキスト研究（2） 6. テキスト研究（3） 7. テキスト研究（4） 8. テキスト研究（5） 9. テキスト研究（6） 10. テキスト研究（7） 11. テキスト研究（8） 12. テキスト研究（9） 13. テキスト研究（10） 14. テキスト研究（11） 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
<テキスト> Hans Wilhelm: Ein Herz und eine Seele Das aufregende Leben der Trapp-Familie Otto Maier Verlag Ravensburger 1982 『トラップ家物語』三修社 1984（<u>三修社版</u>テキストは各自必ず購入のこと）		担当者の発表、期末定期試験に基づく総合評価。ただし良好な出席を前提とする。	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（芸術・文化）b ドイツ語講読（芸術）	担当者	前田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 1) ドイツ映画「ベルンの奇蹟」（2003年）を観る。 2) 映画とテキストを通して文化的・歴史的背景を探る。 3) 映画とテキストを通して生きたドイツ語及び構文解析を習得する。 講義概要 「ベルンの奇蹟」は1954年スイスで開催された第5回サッカーワールドカップで当時西ドイツ代表チームが予想を覆して優勝を果たしたことを扱った映画です。それは、敗戦の影響が尚残るドイツ国民に勇気と希望を与えるきっかけにもなりました。しかし、当時の戦争捕虜の帰還、父親不在の妻と家族、そして戦後の新しい世代も映画のストーリーを支える大きな縦軸になっています。「家族とは何か」、「人と人との絆とは何か」そして「豊かさとは何か」というテーマも扱った映画でもあります。映画及びテキストを通して皆さんといろいろと考えてみたいと思います。 （講義中の無断退出、飲食は厳禁）		1. ガイダンス（講義の概要、評価方法等について） 2. ドイツ映画「ベルンの奇蹟」（2003年）観賞（1） 3. ドイツ映画「ベルンの奇蹟」（2003年）観賞（2） 4. テキスト研究（1） 5. テキスト研究（2） 6. テキスト研究（3） 7. テキスト研究（4） 8. テキスト研究（5） 9. テキスト研究（6） 10. テキスト研究（7） 11. テキスト研究（8） 12. テキスト研究（9） 13. テキスト研究（10） 14. テキスト研究（11） 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
<テキスト> Philipp Bühler: Das Wunder von Bern Bundeszentrale für politische Bildung 2003（<u>コビーを配布</u>） <参考文献> 講義時に紹介。		担当者の発表、期末定期試験に基づく総合評価。ただし良好な出席を前提とする。	

09 年度以降	ドイツ語圏現代社会概論 a	担当者	岡村 りら
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 現代のドイツ語圏における現代社会の実情と文化に関する基礎的な知識を養い、この地域に対する関心を深めることを目的としています。 講義概要 政治・経済だけではなく、様々な角度からドイツ、そしてオーストリア、スイスを概観し、時事問題、現代事情への理解を深めていきます。 また現在この地域で実際に何が起きているのか、何が問題となっているのかを知るために、毎週ドイツ語圏の最新ニュースも取り上げます。 講義の順番や内容は、多少変更する可能性があります、その場合は事前にお知らせします。		1 ガイダンス 2 ドイツの地形と自然 3 オーストリア、スイスの地形と自然 4 ドイツの政党/ 政治体制 5 オーストリア、スイスの政党/ 政治体制 6 ドイツと EU の関係 7 オーストリア、スイスの EU との関係 8 ドイツの産業構造 9 オーストリア、スイスの産業構造 10 マスメディア 11 人と文化 ① 芸術 12 人と文化 ② スポーツ 13 人と文化 ③ 宗教 14 人と文化 ④ 食文化 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
資料は適宜プリントを配布します。 参考文献は必要に応じて指示します。		学期末試験、出席状況、授業への参加度に基づいて評価します。詳細は第 1 回の授業（ガイダンス）に説明をします。	

09 年度以降	ドイツ語圏現代社会概論 b	担当者	岡村 りら
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 春学期に学んだことをベースに、ドイツ語圏における現代事情に関する知識をさらに深めることを目的としています。 講義概要 春学期とは異なった角度から現代事情を考察し、理解を深めます。 また春学期に引き続き、現在この地域で実際に何が起きているのか、何が問題となっているのかを知るために、毎週ドイツ語圏の最新ニュースも取り上げます。 講義の順番や内容は、多少変更する可能性があります、その場合は事前にお知らせします。		1 ガイダンス 2 若者① 教育制度全般 3 若者② 教育/学術/研究 4 若者③ 若者文化 5 家族① 家族形態 6 家族② 余暇/ ライフスタイル 7 福祉/ 医療 8 福祉/ 医療 9 移民・外国人 10 移民・外国人 11 環境① 環境問題 12 環境② 環境ビジネス 13 環境③ 気候変動問題におけるドイツの役割 14 まとめ 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
資料は適宜プリントを配布します。 参考文献は必要に応じて指示します。		学期末試験、出席状況、授業への参加度に基づいて評価します。詳細は第 1 回の授業（ガイダンス）に説明をします。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏歴史概論 a ドイツ史概論 I	担当者	古田 善文
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 講義の目標は、近代以降のドイツ語圏（ドイツ以外にオーストリアも含む）の歴史の流れを受講生にわかりやすく解説することである。受講生は、主にフランス革命以降、この地域で発生した主要な歴史的事象についての基礎知識を深め、さらに歴史的な“ものの見方”の習得をめざす。 講義概要： 春学期は、フランス革命期から第一次世界大戦の勃発までを対象に、近代ドイツ国家成立のプロセスとその問題点を整理していく。授業では毎回レジュメを配布するほか、DVD やビデオ教材を使用し、解りやすい解説を心がける。		第1回：年間授業計画、評価方法、参考文献等について 第2回：歴史とは何か？（主要な歴史方法論の解説） 第3回：「記憶」をめぐる論争(1)ドイツ 第4回：「記憶」をめぐる論争(2)オーストリア／日本 第5回：ビデオ上映と解説：映画『ショア』関連 第6回：ハプスブルク帝国史(1)：マリア・テレジア以前 第7回：ハプスブルク帝国史(2)：マリア・テレジアの時代 第8回：19 世紀史(1)：ナポレオンとドイツ・オーストリア 第9回：19 世紀史(2)：1848 年革命 第10 回：19 世紀史(3)：若きヒトラーと世紀末ウィーン 第11 回：現代の開幕(1)：ドイツ統一と世界帝国への夢 第12 回：現代の開幕(2)：第一次世界大戦（原因） 第13 回：映像で見る第一次世界大戦 第14 回：現代の開幕(3)：第一次世界大戦（経過と帰結） 第15 回：春学期のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
石田勇治編著『図説ドイツの歴史』河出書房新社、2007 増谷英樹/古田善文著『図説オーストリアの歴史』河出書房新社、2011 原則として毎回講義レジュメを配布する。		学期末に実施する筆記試験、および出席状況に基づいて決定する。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏歴史概論 b ドイツ史概論 II	担当者	古田 善文
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 講義の目標は、ドイツ語圏（ドイツ以外にオーストリアも含む）における現代史（第一次世界大戦以降）の流れを受講生にわかりやすく解説することである。受講生は、20 世紀および21世紀にこの地域で発生した主要な歴史的事象についての基礎知識を深め、さらに歴史的な“ものの見方”の習得をめざす。 講義概要： 秋学期は、（1）ドイツ革命とワイマール共和国、（2）ヒトラーの独裁、（3）第二次世界大戦、（4）戦後ドイツの歩みを主要なテーマとし、20 世紀および21世紀のドイツ語圏の歴史を検討する。春学期と同様、授業では毎回レジュメを配布するほか、DVD やビデオ教材を使用し、解りやすい解説を心がける。		第1回：革命の時代：ドイツ革命とオーストリア革命 第2回：ヴェルサイユ条約、サン・ジェルマン条約 第3回：ファシズムの誕生(1)：イタリア・ファシズムを中心とする欧州ファシズム運動の比較検討 第4回：ファシズムの誕生(2)：ナチス運動の誕生 第5回：ファシズム論の変遷(全体主義論、権威主義体制論、近代化論) 第6回：危機の30年代(1)：民主政治システムの崩壊 第7回：危機の30年代(2)：戦間期の国際政治 第8回：ビデオ上映と解説：「ナチズム」関連 第9回：受容と抵抗(1)：ナチスによる民衆統轄 第10回：受容と抵抗(2)：反ナチス抵抗運動の諸相 第11 回：第二次世界大戦(1)：大戦の経過と帰結 第12 回：第二次世界大戦(2)：ホロコーストと戦後補償 第13 回：占領改革と戦後復興：ドイツ占領から東西ドイツの成立まで 第14 回：ドイツ統一とEU 新時代 第15 回：秋学期のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
石田勇治編著『図説ドイツの歴史』河出書房新社、2007 増谷英樹/古田善文著『図説オーストリアの歴史』河出書房新社、2011 原則として毎回講義レジュメを配布する。		学期末に実施する筆記試験、および出席状況に基づいて決定する。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏の政治・経済 a ドイツの経済 I	担当者	大重 光太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目標 本講義では、ドイツ語圏の国のうち EU で最大の経済大国として大きな影響力をもつドイツを対象を絞り、その政治や経済のしくみを、制度と歴史の二つの面から概観します。その上で、現代ドイツの政治・経済が抱えている問題と課題を考えます。 同じ敗戦から出発し、経済成長を遂げた国として日本と共通するところがあり、しばしば比較されるところです。現在、グローバル化の圧力のなか従来のあり方に変化が問われている点でも共通です。日独両国の対応の比較も考えながら進めていきます。 授業の概要 最初に、政治ドイツの政治や社会の基本的仕組みを押さえます。その上で、戦後のドイツ政治・経済史を概観していきます。その際、日本の状況との比較を意識しながら進めます。参加者には時事問題に関するアンテナを張っておくことを期待します。		1. ガイダンス——講義の概要、文献紹介 2. 憲法 3. 政治システム（1）——立法機関、行政機関 4. 政治システム（2）——司法機関、ドイツ連邦銀行 5. 政党と選挙制度 6. 社会団体 労働組合と経営者団体 7. 戦後政治経済史：敗戦、占領期（1945～1949 年） 8. アデナウアー、エアハルト期（1949～1966 年） 9. 大連立政権から社会民主党政権へ（1966～1982 年） 10. コール政権「ベルリンの壁」崩壊まで（1982～1989 年） 11. 社会主義国家としての東ドイツ（1949～1989 年） 12. 東西ドイツ統一後のドイツ政治 メルケル大連立政権（2005～2009 年） 13. EU とドイツ、ユーロ危機 14. ドイツの政治・経済を取り巻く現状と課題 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回担当者が授業レジュメ（プリント）を配布します。 参考文献：H.K.ルップ『現代ドイツ政治史』（深谷満雄、山本淳訳）彩流社、2002 年		出席状況および学期末試験の結果に基づいて評価します。詳細は第 1 回の授業（ガイダンス）の際に説明します。	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏の政治・経済 b ドイツの経済 II	担当者	大重 光太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の到達目標及びテーマ 一般にドイツは高度な福祉国家として知られています。一般に福祉国家を表すドイツ語としては Sozialstaat (社会国家) という表現が用いられています。 ところがドイツにおいても、グローバル化の進展と国際競争の激化の中、雇用の不安定、貧困率の増大、社会的格差の拡大が大きな経済的・社会的問題となっており、伝統的な社会国家が揺らいできています。 秋学期は、社会国家の根幹をなしている社会政策・労働政策に目を向け、これを個別領域ごとに具体的に引き上げ検討していきます。日本との比較や国際比較を意識しながら問題の背景や展望について考えていきます。 授業の概要 具体的には、教育分野（職業教育、大学教育）、雇用分野（労使関係、雇用関係、非正規雇用、失業問題）、貧困、ワークライフバランス、年金制度などを取り上げます。それぞれ、日本でも大きな課題となっている分野ですので、参加者には時事問題に関するアンテナを張っておくことを期待します。		1. ガイダンス——講義の概要、文献紹介 2. 教育制度（1）教育制度全般 3. 教育制度（2）職業教育訓練 4. 教育制度（3）大学における教育機会均等 5. 労使関係（1）労働協約自治 6. 労使関係（2）共同決定 7. 雇用関係（1）正規雇用 8. 雇用関係（2）非正規雇用 9. 失業 10. 貧困 11. ワークライフバランス（1） 12. ワークライフバランス（2） 13. 年金制度 14. ドイツ社会国家の未来——雇用と生活の保障 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回担当者が授業レジュメ（プリント）を配布します。 参考文献：近藤正基『現代ドイツ福祉国家の政治経済学』ミネルヴァ書房、2009 年。		出席状況、レポート、および学期末試験の結果に基づいて評価します。	

08 年度以前	ドイツの法律 I	担当者	市川 須美子
講義目的、講義概要		授業計画	
「ドイツの法律 I」では、ドイツ法の基礎知識として、ドイツ法資料へのアクセスのしかたを学びながら、基本法の構成・特徴を学びます。その後、ドイツと日本で共通の問題点を抱えている各法領域を、それぞれの解決方向の共通性と相違点を比較しながら、分析してみたいと考えています。基本的には公法領域が中心となりますが、教育法や社会保障法・福祉法など社会法領域も視野に入れていきたいと思っています。		1 講義の進め方とスケジュール 2 ドイツ基本法を手に入れよう 3 ドイツ基本法の特徴 4 ドイツ基本法の構造（1） 5 ドイツ基本法の構造（2） 6 ドイツ行政法と日本行政法 7 ドイツの地方自治（1）3 層構造と 4 類型 8 ドイツの地方自治（2）直接請求 9 ドイツの裁判制度 10 ドイツ教育制度と教育改革 11 ドイツ教育裁判 12 ドイツの児童福祉法 13 ドイツの介護保険制度 14 ドイツの成年後見制度 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
指定しませんが、ドイツ語辞書は必要です。		試験またはレポート	

08 年度以前	ドイツの法律 II	担当者	宗田 貴行
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ法は、日本の法制度が範としたものである。英米法の影響が今日において強まっているとはいえ、現在でもなお、ドイツ法を学ぶ意義は大いにあるといつてよい。 そこで、本講義では、ドイツの法律のうち、消費者法について、基本的事項を理解することを目的とする。 上記目的の達成のために、ドイツにおける消費者法の基本的事項をできるかぎり、図、表、グラフなどを用いて分かり易く解説する。 ドイツの裁判制度についての理解も必要となるので、ドイツの裁判についてのビデオ教材も使用して解説する。		1 イントロ ドイツ法を学ぶわけ 大陸法と英米法 2 小売店の営業時間の制限：閉店法① 3 小売店の営業時間の制限：閉店法② 4 景品規制 5 割引規制 6 書籍再販制度 7 書籍再販制度 8 不招請勧誘規制①～電話勧誘・DM～ 9 不招請勧誘規制②～訪問販売～ 10 不招請勧誘規制③～FAX 広告・電子メール広告～ 11 消費者団体訴訟制度① 12 消費者団体訴訟制度② 13 消費者団体訴訟制度③ 14 PL 法 15 裁判制度	
テキスト、参考文献		評価方法	
とくになし		レポート	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏の歴史 a ドイツの歴史 I	担当者	増谷 英樹
講義目的、講義概要		授業計画	
本年度はドイツ語圏における代表的な都市としてのウィーンとベルリンの歴史をたどり、その相違について学ぶ。春学期にはウィーン、秋学期にはベルリンを取り上げるが、それぞれ単独でも理解できるようにする。		1) ドイツ語圏の都市 2) ローマ時代のウィーン 3) バーベンベルク朝時代のウィーン 4) 諸侯の争奪の中でのウィーン 5) ハプスブルク家の登場 6) 7) 神聖ローマ帝国の首都へ 8) オスマン帝国との争いと交流 9) マリア＝テレジア時代 10) フランス革命とウィーン会議 11) 1848年革命 12) 都市改造と世紀末文化の時代 13) オーストリア共和国の首都へ 14) ナチ支配下のウィーン 15) 永世中立と都市ウィーン	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に紹介		テストないしレポート	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏の歴史 b ドイツの歴史 II	担当者	増谷 英樹
講義目的、講義概要		授業計画	
本年度はドイツ語圏における代表的な都市としてのウィーンとベルリンの歴史をたどり、その相違について学ぶ。春学期にはウィーン、秋学期にはベルリンを取り上げるが、それぞれ単独でも理解できるようにする。		1) ベルリンの発祥 2) ー4) プロイセンの台頭とベルリン首都化 5) フリードリヒ大王とベルリン 6) フランス革命時代のベルリン 7) ー8) ナショナリズム時代のベルリンの変化 9) 帝都としてのベルリン 10) 戦争と敗戦下のベルリン 11) ワイマル文化とベルリン 12) ナチの台頭 13) 東西ドイツの成立下のベルリン 14) ベルリンの壁とドイツ統一 15) 現代のベルリン	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に紹介		テストないしレポート	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏の地域・環境問題 a ドイツの地誌・民俗 I	担当者	飯嶋 曜子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、ドイツ語圏の地誌を把握することを目的とし、対象地域をライン川流域地域とする。ライン川は、スイス・アルプスに源を発し、リヒテンシュタイン、オーストリア、ドイツ、フランスを経てオランダで北海に注ぐヨーロッパを代表する国際河川である。古くからライン川はヨーロッパの南北交通の大動脈として機能しており、その流域には多くの都市が発展した。本講義では、ドイツ人が「父なるライン」と呼ぶライン川の流れに沿って、流域の各都市の特性を明らかにしながら受講者とともに旅をしていく。		1. 導入 2. ライン川の地理 3. Alpenrhein：アルプスの土地利用 4. Hochrhein(1)：ボーデン湖 5. Hochrhein(2)：原子力発電—スイスのエネルギー政策 6. Hochrhein(3)：スイスの連邦制 7. Oberrhein(1)：バーゼルー国境を越える都市圏 8. Oberrhein(2)：アルザスの地政学 9. Oberrhein(3)：オーバーライン地溝帯、黒い森 10. Mittlerrhein：ライン峡谷 11. Niederrhein(1)：ボン—ドイツの都市システム 12. Niederrhein(2)：ケルン—景観論争 13. Rheindelta：オランダ—ポルダー・モデル 14. ライン川流域圏 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
地図帳を毎回持参すること テキストは指定しない		レポートもしくは試験により評価	

09 年度以降 08 年度以前	ドイツ語圏の地域・環境問題 b ドイツの地誌・民俗 II	担当者	岡村 りら
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 ドイツの環境問題・環境政策についての概観を学ぶこと。 講義概要 ドイツは「環境先進国」と言われていますが、どのようにして環境分野での成功を収めてきたのでしょうか。そして、実際ドイツは本当に「環境先進国」なのでしょうか。 様々な環境問題をテーマとして取り上げ、各分野でのドイツの取り組みを概観することにより「ドイツにおける環境問題と環境政策」についての理解を深めます。テレビやメディアで接する環境問題は、ほんの一部の情報でしかないので、この授業では環境問題を総体的に捉えることに重きをおきます。 また日本との比較なども織り交ぜながら、環境問題を事象としてだけ捉えるのではなく、原因や解決方法を見出す知識を養うことも目標としています。 講義の順番や内容は、多少変更する可能性があります、その場合は事前にお知らせします。		1. ガイダンス 2. 環境問題・環境政策の概要 3. ドイツ環境行政の歴史としくみ 4. 各主体（緑の党を始めとする政党・企業・NGO・市民など）の役割 5. 廃棄物・リサイクル（1） 6. 廃棄物・リサイクル（2） 7. エネルギー問題 8. 水・土壌 9. 森林・自然保護 10. 大気汚染・交通政策 11. 地球環境問題（1）（オゾン層破壊・生物多様性など） 12. 地球環境問題（2）（気候変動・温暖化問題） 13. 地域、自治体の試み・環境教育 14. ドイツ人の環境意識 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
資料は適宜プリントを配布します。 参考文献は必要に応じて指示します。		学期末試験、出席状況、授業への参加度に基づいて評価します。詳細は第1回の授業（ガイダンス）に説明をします。	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏と EU a ドイツの政治・対外関係 I	担当者	飯嶋 曜子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、統合が進展するヨーロッパにおける各地域の現状を把握することを目的とする。まず、ヨーロッパ地誌や EU の制度や歴史に関する基礎的な知識を習得する。そのうえで、特に EU の共通農業政策と、地域政策（構造政策）に焦点を当て、統合がヨーロッパの地域に与える影響や、EU と各地域との関係について考察していく。 ＊注意 本講義は、ドイツ語学科の専門講義科目と、全学共通カリキュラムの全学総合科目との合併科目です。そのため、ドイツ語による資料を利用する場合があります。		1. 導入 2. EU と地域 3. EU の制度 4. EU の機能 5. EU の政策 6. EU の形成・発展過程(1) 7. EU の形成・発展過程(2) 8. EU の形成・発展過程(3) 9. EU の東方拡大(1) 10. EU の東方拡大(2) 11. EU の農業政策(1) 12. EU の農業政策(2) 13. EU の構造政策(1) 14. EU の構造政策(2) 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
地図帳を毎回持参すること テキストは指定しない		レポートもしくは試験により評価	

09年度以降 08年度以前	ドイツ語圏と EU b ドイツの政治・対外関係 II	担当者	飯嶋 曜子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、ドイツの地域や都市の構造とそその変容を把握することを目的とする。特に、ドイツ再統一、ヨーロッパ統合の深化と拡大、地方分権型国家、という三つの側面に光を当てて具体的な事例をもとに明らかにしていく。 ＊注意 本講義は、ドイツ語学科の専門講義科目と、全学共通カリキュラムの全学総合科目との合併科目です。そのため、ドイツ語による資料を利用する場合があります。		1. 導入：ドイツの地域・都市 2. ドイツ再統一（１）：ベルリンの地政学 3. ドイツ再統一（２）：社会主義的都市の構造 4. ドイツ再統一（３）：東ドイツの地方都市 5. ドイツ再統一（４）：冷戦後の旧東ドイツ都市 6. ドイツ再統一（５）：プレントラウアー・ベルク 7. ドイツ再統一（６）：ポツダム広場 8. ヨーロッパ統合（１）：EU とドイツ 9. ヨーロッパ統合（２）：統合と地域間格差 10. ヨーロッパ統合（３）：EU の構造政策、都市政策 11. ヨーロッパ統合（４）：ユーロリージョン 12. 地方分権（１）：多極分散型国家 13. 地方分権（２）：空間整備政策 14. 地方分権（３）：都市計画 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
地図帳を毎回持参すること テキストは指定しない		レポートもしくは試験により評価	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（現代社会・歴史） a ドイツ語講読（社会）	担当者	大重 光太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
このシラバスを執筆している1月末段階、ヨーロッパの政治・経済は「ユーロ危機」を軸として大きく揺らいでいます。4月の段階でどう展開しているか、予測がつかない状況ですが、ただEU最大の経済大国であるドイツが、当面の間、注目されるとともに、大国としての責任に対しても厳しい目が向けられることは間違いないでしょう。 春学期の授業では、「ユーロ危機」をテーマとし、これに関わるEU各国の政治・経済の動向についてドイツ語の文献・資料を読みながら、ユーロ危機とEUの問題を考えていきます。 ドイツ語の文献・資料としては、主としてDeutsche WelleのWeb記事を考えています。毎回一つの記事を読んでいき、ユーロ危機の問題を考えていきます。Deutsche Welleはドイツの国外向け公共放送ですので、国内向けの記事よりもわかりやすく書かれています。現在進行形のテーマになりますので、必要に応じてその他の資料も取り上げたいと思います。		第1回 オリエンテーション 第2回 「ユーロ危機」とは何か？ 第3回～ テキスト講読と討論 第13回 第14回 全体討論 第15回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
主として Deutsche Welle の記事。適宜、他のメディアや雑誌記事。		授業への出席、授業での参加度、期末テストの総合評価	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（現代社会・歴史） b ドイツ語講読（社会）	担当者	大重 光太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
近年のドイツ国内の大きな問題の一つに、派遣や有期雇用などの非正規雇用の問題、貧困の問題を挙げることができます。働いていてもまともな生活ができないワーキングプアも増えてきています。これはドイツに限らず、他のヨーロッパ諸国にも見られる傾向です。 ドイツにはヨーロッパのなかでは珍しく、最低賃金法がありません。従来は労働組合の力が強く、法律がなくても労働組合の力で賃金水準を維持していましたが、労働組合の力が弱まるとともに、低賃金状況が広がってきています。 秋学期の授業では、雇用の不安定化、貧困、若年層の雇用といったドイツ国内の雇用や社会保障のテーマを設定し、ドイツ語の文献・資料を読みながらドイツおよび EU 諸国の状況や取り組みや政策などを考えていきます。日本との比較も授業の中で考えていきたいと思います。 ドイツ語の文献・資料としては、主としてDeutsche WelleのWeb記事を考えています。毎回一つの記事を読んでいきます。 それ以外にも、他のメディアや雑誌記事、研究報告なども取りあげていきます。		第1回 オリエンテーション 第2回 ドイツの雇用と社会保障についての概観 第3回～ テキスト講読 第13回 第14回 全体討論 第15回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
主として Deutsche Welle の記事。適宜、他のメディアや雑誌記事、研究報告。		授業への出席、授業での参加度、期末テストの総合評価	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（現代社会・歴史）a ドイツ語講読（歴史）	担当者	黒田 多美子
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツの学校ではどのような教科書で歴史を学んでいるのでしょうか。またどのような学習目標とコンセプトのもとに教科書が編集されているのでしょうか。この授業では、実際にドイツの中学校で使われている教科書を皆さんとともに読んでみたいと思います。 ドイツの中学校の歴史教育では、現代に近づけば近づくほど詳しく、資料も多くなってきます。日本の中学校や高等学校で、事項の説明や年号の暗記を中心に歴史を学んできた学生にとっては、歴史教育への新しい視点が提供されることでしょう。 ドイツの歴史教科書は、種類も多く構成もさまざまです。できるだけいろいろな教科書を通読したいと思います。一方、一つの教科書を読むことによってその教科書の特徴を把握することが出来るという観点から、一年で一つの教科書（の一部）を解説していきたいです。（毎年違う教科書を使用します）。 必ず予習をして、わからない部分を確認してから授業に臨んでください。 授業の進め方などについては、第1回目の授業で詳しく説明しますので、参加者は必ず第1回目の授業に出てください。		1. ガイダンス 2. ドイツの教育制度と授業についての概説 3. ドイツの歴史教科書と学習に関する概説 4～15 講読と解説、教科書の課題に関する討論など	
テキスト、参考文献		評価方法	
ドイツの教科書から抜粋してプリントで配布。		授業での参加度と、期末試験の成績による。 期末試験は、学習した部分と実力試験を合わせて行います。	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（現代社会・歴史）b ドイツ語講読（歴史）	担当者	黒田 多美子
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツの学校ではどのような教科書で歴史を学んでいるのでしょうか。またどのような学習目標とコンセプトのもとに教科書が編集されているのでしょうか。この授業では、実際にドイツの中学校で使われている教科書を皆さんとともに読んでみたいと思います。 ドイツの中学校の歴史教育では、現代に近づけば近づくほど詳しく、資料も多くなってきます。日本の中学校や高等学校で、事項の説明や年号の暗記を中心に歴史を学んできた学生にとっては、歴史教育への新しい視点が提供されることでしょう。 ドイツの歴史教科書は、種類も多く構成もさまざまです。できるだけいろいろな教科書を通読したいと思います。一方、一つの教科書を読むことによってその教科書の特徴を把握することが出来るという観点から、一年で一つの教科書（の一部）を解説していきたいです。（毎年違う教科書を使用します）。 必ず予習をして、わからない部分を確認してから授業に臨んでください。 授業の進め方などについては、第1回目の授業で詳しく説明しますので、参加者は必ず第1回目の授業に出てください。		1. ガイダンス 2. ドイツの教科書と学習に関する概説（受講生が重複する場合は省略） 3～15 講読と解説、教科書の課題に関する討論など	
テキスト、参考文献		評価方法	
ドイツの教科書から抜粋してプリントで配布。		授業での参加度と、定期試験の成績による。 定期試験は、学習した部分と実力試験を合わせて行います。	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（現代社会・歴史）a ドイツ語講読（社会）	担当者	J. シャルロート
講義目的、講義概要		授業計画	
Thema: Deutsche Sozialgeschichte in der Populärkultur der Bundesrepublik Deutschland In diesem Kurs werden wir uns mit der Frage beschäftigen, wie die Populärkultur auf soziale Entwicklungen in der Bundesrepublik reagiert hat. Im ersten Semester suchen wir nach den sozialen Bedingungen für die Entstehung der Populärkultur in Deutschland. Im Kurs lesen und sprechen wir ausschließlich Deutsch. Es sollten sich daher nur Studierende mit guten Deutschkenntnissen anmelden.		1. Einführung 2. Was heißt “populäre Kultur”? 3. Zum Begriff “Pop” 4. Historische Bedingungen: Wirtschaftswunder und Konsumgesellschaft 5. Wirtschaftswunder und Konsumgesellschaft 6. Jugendkulturen 7. Jugendkulturen 8. Amerikanisierung 9. Amerikanisierung 10. Pop und Protest 11. Pop und Protest 12. Punk 13. Punk 14. Kritik an der Kulturindustrie 15. Kritik an der Kulturindustrie	
テキスト、参考文献		評価方法	
Die Texte werden vom Kursleiter in Kopien zur Verfügung gestellt.		Die Studierenden müssen einen Report schreiben.	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（現代社会・歴史）b ドイツ語講読（社会）	担当者	J. シャルロート
講義目的、講義概要		授業計画	
Thema: Deutsche Sozialgeschichte in der Populärkultur der Bundesrepublik Deutschland In diesem Kurs werden wir uns mit der Frage beschäftigen, wie die Populärkultur auf soziale Entwicklungen in der Bundesrepublik reagiert hat. Im zweiten Semester untersuchen wir, wie ausgewählte Bereiche der Populärkultur den Gesellschaftswandel gedeutet haben. Im Kurs lesen und sprechen wir ausschließlich Deutsch. Es sollten sich daher nur Studierende mit guten Deutschkenntnissen anmelden.		1. Einführung 2. Gesellschaftsgeschichte im Schlager I 3. Gesellschaftsgeschichte im Schlager II 4. Gesellschaftsgeschichte im Schlager III 5. Gesellschaftsgeschichte im Schlager IV 6. Gesellschaftsgeschichte im Schlager V 7. Jugendzeitschriften I: Bravo 8. Jugendzeitschriften II: Pardon 9. Jugendzeitschriften II: linkeck 10. Geschichte der Mode I 11. Geschichte der Mode II 12. Geschichte der Mode III 13. Geschichte der Mode IV 14. Geschichte der Mode V 15. Abschlussdiskussion	
テキスト、参考文献		評価方法	
Die Texte werden vom Kursleiter in Kopien zur Verfügung gestellt.		Die Studierenden müssen einen Report schreiben.	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（現代社会・歴史） a ドイツ語講読（社会）	担当者	飯嶋 曜子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、ドイツのナショナルアトラスを読み、各地域や各都市の特性とそれが抱える諸問題について把握することを目的とする。 ナショナルアトラス（国勢地図）とは、一国の自然、経済、政治、社会、文化などを、主題図によって空間的かつ体系的に把握するものである。 ドイツ再統一を契機にして、ドイツ地理学会連合がライプニッツ地誌学研究所に依頼して作成されたナショナルアトラスは、1999 年から 2007 年にわたり全 12 巻が出版され、600 人以上の地理学者がその作成に携わった一大プロジェクトである。同アトラスは、一般的な地図とは異なり、テーマごとに詳細な論説文や統計データが記載されている。本講義では、論説文の読解に加えて、ドイツ語で作成された地図や統計を読みとく力をつけることも求められる。 注意事項 - 必ず予習をしてくること。 - 出席と発表を重視する授業形式をとるので、積極的な参加を求めます。		- ガイダンス - Gesellschaft und Staat(1) - Gesellschaft und Staat(2) - Gesellschaft und Staat(3) - Natur und Umwelt: Relief, Boden und Wasser - Natur und Umwelt: Klima, Pflanzen- und Tierwelt - Bevölkerung(1) - Bevölkerung(2) - Bevölkerung(3) - Dörfer und Städte(1) - Dörfer und Städte(2) - Dörfer und Städte(3) - Bildung und Kultur(1) - Bildung und Kultur(2) - Bildung und Kultur(3)	
テキスト、参考文献		評価方法	
Leibniz-Instituts für Länderkunde (Hrsg.) <i>Nationalatlas Bundesrepublik Deutschland</i> , Spektrum Akademischer Verlag, Heidelberg の 1～6 巻を扱う。該当箇所のコピーを配布するので毎回必ず出席すること。		定期試験の他に、随時、小テストを実施する。出席および発表を重視する。4 回以上欠席した場合には F 評価となる。第一回目の授業に必ず参加すること。	

09 年度以降 08 年度以前	テキスト研究（現代社会・歴史） b ドイツ語講読（社会）	担当者	飯嶋 曜子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に引き続き、ドイツのナショナルアトラスを読み、各地域や各都市の特性とそれが抱える諸問題について、把握することを目的とする。 ナショナルアトラス（国勢地図）とは、一国の自然、経済、政治、社会、文化などを、主題図によって空間的かつ体系的に把握するものである。 ドイツ再統一を契機にして、ドイツ地理学会連合がライプニッツ地誌学研究所に依頼して作成されたナショナルアトラスは、1999 年から 2007 年にわたり全 12 巻が出版され、600 人以上の地理学者がその作成に携わった一大プロジェクトである。同アトラスは、一般的な地図とは異なり、テーマごとに詳細な論説文や統計データが記載されている。本講義では、論説文の読解に加えて、ドイツ語で作成された地図や統計を読みとく力をつけることも求められる。 注意事項 - 必ず予習をしてくること。 - 出席と発表を重視する授業形式をとるので、積極的な参加を求めます。		- ガイダンス - Arbeit und Lebensstandard(1) - Arbeit und Lebensstandard(2) - Arbeit und Lebensstandard(3) - Unternehmen und Märkte(1) - Unternehmen und Märkte(2) - Unternehmen und Märkte(3) - Verkehr und Kommunikation(1) - Verkehr und Kommunikation(2) - Verkehr und Kommunikation(3) - Freizeit und Erholung(1) - Freizeit und Erholung(2) - Deutschland in der Welt(1) - Deutschland in der Welt(2) - Leben in Deutschland	
テキスト、参考文献		評価方法	
Leibniz-Instituts für Länderkunde (Hrsg.) <i>Nationalatlas Bundesrepublik Deutschland</i> , Spektrum Akademischer Verlag, Heidelberg の 7～12 巻を扱う。該当箇所のコピーを配布するので毎回必ず出席すること。		定期試験の他に、随時、小テストを実施する。出席および発表を重視する。4 回以上欠席した場合には F 評価となる。第一回目の授業に必ず参加すること。	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（現代社会・歴史）a ドイツ語講読（歴史）	担当者	増谷 英樹
講義目的、講義概要		授業計画	
歴史に関するドイツ語のテキストを読んでいくが、ドイツ語を読むというよりも、ドイツ語で歴史を勉強していくことに重点をおく。それ故、その内容を十分に理解することができるように参考文献も使用していく。		1) 授業のやり方を説明、テキスト配布 2) ～7) テキストの講読 8) テスト 9) ～14) テキストの講読 15) テスト	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントによって配布		出席、発表、テストによる。	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（現代社会・歴史）b ドイツ語講読（歴史）	担当者	増谷 英樹
講義目的、講義概要		授業計画	
歴史に関するドイツ語のテキストを読んでいくが、ドイツ語を読むというよりも、ドイツ語で歴史を勉強していくことに重点をおく。それ故、その内容を十分に理解することができるように参考文献も使用していく。		1) 授業のやり方を説明、テキスト配布 2) ～7) テキストの講読 8) テスト 9) ～14) テキストの講読 15) テスト	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントによって配布		出席、発表、テストによる。	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（現代社会・歴史）a ドイツ語講読（歴史）	担当者	前田 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
移民をテーマとした文献、ないし資料を読み進めます。春学期は、「移民受入国」ドイツの現状を知るとともに、そこに至る歴史的背景を探っていきます。具体的には、人口統計資料や国勢調査結果、およびその分析資料などをもとに、移民という視点からドイツの姿を読み解きます。そこから、移民たちの国籍や出身、背景、または移民先の地域などが見えてくることでしょう。それらをもとに、人が国境を越えて移動／移民するということについて、さらに掘り下げて考えていきたいと思います。また、日本との類似性や比較可能性についても考えていきます。		1. オリエンテーション 2～14. 順次テキストを読み進めます。 15. まとめ 履修者のみなさんには、訳を分担してもらうほか、要約や問題点の整理など内容理解にも努めてもらいます。また、議論や発表の機会も設けたいと思います。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：プリントを配布します。		筆記試験およびレポートにより評価します。授業の出席や参加度、課題提出の状況も加味します。	

09年度以降 08年度以前	テキスト研究（現代社会・歴史）b ドイツ語講読（歴史）	担当者	前田 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
移民をテーマとした文献、ないし資料を読み進めます。秋学期は、春学期の内容を踏まえて、「移民受入国」ドイツの今後の行方について考えます。具体的には、かつて受け入れた移民たちをドイツ社会に統合するために、国や州、地方自治体が現在行っている取り組みと、新たに移民を受け入れるために近年政府が打ち出した政策を取り上げます。そこから、ドイツが目指す国の形を探っていきます。ここでは、昨年末に外国人の受け入れ策として「ポイント制」の導入を発表した日本との比較がより具体的に可能となることでしょう。		1. オリエンテーション 2～14. 順次テキストを読み進めます。 15. まとめ 履修者のみなさんには、訳を分担してもらうほか、要約や問題点の整理など内容理解にも努めてもらいます。また、議論や発表の機会も設けたいと思います。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：プリントを配布します。		筆記試験およびレポートにより評価します。授業の出席や参加度、課題提出の状況も加味します。	

交 流 文 化 論

(09年度以降入学者)

09 年度以降	交流文化論（サステイナブル・ツーリズム論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期の「市民参加のまちづくり論」との継続性を念頭におきつつ、「サステイナブル・ツーリズム論」の講義を行います。 近年、成長の持続化の追求から、持続可能な社会を形成しようとするパラダイムシフトの兆しがみられます。環境や健康に配慮した持続可能（sustainable）なライフスタイルの一部として、グリーンツーリズムなど自然を楽しみ、学び、地域の人々と交流する新しいツーリズムの形態が注目されるようになってきました。この流れは、ドイツ、フランス、イギリスなど西欧に始まり、アメリカ、そして日本へと展開してきました。 本講義は、「サステイナブル・ツーリズム論」として、欧米、日本のグリーンツーリズム、アグリツーリズム、エコミュージアムなどの歴史、事例、課題を知ることより、ポスト産業化社会における多様な価値実現の手法としてのツーリズムの意義を学びます。グローバルな視点から、ツーリズムを通して、地球環境や地域づくりの問題を考えたいきます。 なお、サステイナブル・ツーリズムには、途上国におけるエコツーリズム、エスノツーリズムなども含まれますが、本講義では、主として、先進国におけるサステイナブル・ツーリズムを取り上げます（他の講義との重複をさけるため）。		1. 講義の概要 2. マスツーリズムとサステイナブル・ツーリズム 3. 開発と持続可能性概念 4. 開発と持続可能性概念（続き） 5. 地球環境問題 6. 自然・環境思想（国立公園・ナショナルトラスト・世界遺産） 7. エコツーリズム（歴史と概説） 8. エコツーリズムと野生動物保護（マレーシアの事例） 9. エコミュージアム（歴史と概説） 10. LOHAS（ロハス）と観光 11. 欧米のグリーンツーリズム 12. 日本のグリーンツーリズム（歴史・背景・展開） 13. グリーンツーリズムの二面性と矛盾 14. アクセシブル観光（ユニバーサル交流） 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはなし。 参考文献は適宜紹介。		期末試験（70%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（30%）。	

09 年度以降	交流文化論（旅行・宿泊産業論）	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 ツーリズム産業の重要な役割を果たしている旅行業と宿泊業について、その歴史、組織と機能、経営の実態、社会的意義と役割について学習する。 講義概要 旅行会社の業務を通して、旅行ビジネスの概略を学習する。 旅行業の発展経緯と機能役割、商品形態等について重点的に触れ、又、IT時代における旅行ビジネスの今日的課題及び将来像についても考察する。 宿泊産業では、殊に、外資の進出が著しいホテルビジネスについて、その運営方法、マネジメント等を学び、併せて、ホテル業のサービスの実態についても学習する。 講義では、流動的な航空業界や旅行業界の動き等々観光関連報道記事も適宜取上げ、学習の参考にしたい。		1. 講義の概要・旅行市場の現状 2. 旅行業の機能・役割 3. 旅行業の歩み① 4. 旅行業の歩み② 5. 旅行業の商品と形態 6. 旅行業法と消費者保護 7. 旅行業界の現状と課題 8. 旅行業の今後 9. ホテル業とは・ホテル業の分類 10. 欧米におけるホテル業の歴史 11. 日本におけるホテル業の歴史 12. ホテル業の動向 13. ホテルの組織と経営特性 14. ホテル業界のホスピタリティー 15. ホテル業の今後・講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：適宜指示する。		試験結果に基づいて判断する。	

09 年度以降	交流文化論（メディア・ライティング論）	担当者	横村 出
講義目的、講義概要		授業計画	
メディアの記事の特質は、より多くの事実を、より正確に、より多くの人に伝えることである。そのためには、深い取材、情報の真偽の峻別、さらに実践に裏打ちされた確かな文章力が必要である。 文章の難しさは、単に経験や訓練を積み上げれば上達するものではないということだ。書くことの根底には、個人としての確たる「ものの見方」が不可欠である。そこには、書き手の全人格が投影されると言ってもいい。いかなる力にも影響されない独立心はあるか、その心は外へ向かって開かれているか、バランス感覚を失っていないか。これらの心構えを理解し、書くための基礎的な力をつけてもらう。 新聞業界の現状についても言及する。新聞が紙からデジタル化されても、文字情報の重要性は変わらない。刻々と発信される記事の事実と背景を読み解き、正しく把握するための力を養ってほしい。 講義では、文章力を高めるために実践的に参加をしてもらう。各人がルポルタージュのテーマを決めて意欲的に取材し、授業で発表してもらいたい。独創的なものの見方を文章で表現し、より広く伝えることの喜びを分かち合いたいと思う。 受講にあたって新聞は日々必読。将来、メディアや広報分野での仕事を選択肢に入れる学生の参加を希望します。		1. オリエンテーション 2. 新聞報道の歴史と変遷 3. ジャーナリズムと「ものの見方」 4. ジャーナリスト列伝 5. 新聞記事（１）構成と執筆手法概論 6. 新聞記事（２）取材とインタビュー法 7. 新聞記事（３）事実と真実の表現法 8. 新聞記事（４）論説・社説とは 9. 新聞記事（５）編集のプロセス 10. 新聞記事（６）国際取材の方法 11. ルポルタージュ（１）題材 12. ルポルタージュ（２）取材 13. ルポルタージュ（３）発表 14. ルポルタージュ（４）評価 15. メディアの未来を考える	
テキスト、参考文献		評価方法	
すぐれたルポルタージュ作品などを随時推薦する。		課題ルポルタージュなどの成果（７０％）と出席・質疑応答など授業中の実績（３０％）で評価する。	

09 年度以降	交流文化論（航空産業論）	担当者	山路 顕
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 人やモノ、文化の移動、交流を担う航空産業における世界的な規制緩和の潮流を検証しながら、日本の空、アジアの空のこれからを考察する。又、航空を通して見えるホスピタリティ、国籍を超える人間活動、地球環境への取り組みを広い視野から考える。 講義概要 ・ 経済のグローバル、ボーダレス化を支え、牽引する航空産業の構造を検証し、これからの空の仕組み、動向を考える基礎を学ぶ。 ・ 米のオープンスカイ戦略、EUの単一航空市場を検証し、規制緩和の世界的な動きを捉える。 ・ 国籍規制の壁を超えるグローバル・アライアンスの動向、戦略を学ぶ。 ・ 航空のサービスを通して見えてくるホスピタリティを捉え、これからのサービスのあり方、対抗するLCCの低運賃、その先を考察する。		1. オリエンテーション；講義内容、進め方、成績評価について 2. 日本の空で起きていること、航空産業の枠組み 3. 民間航空の史的考察と、シカゴ・バミューダ体制 4. 米のオープンスカイ戦略とLCC、CRS、H&S 5. EUの戦略；単一航空市場、“Community Air Carrier” 6. ディスカッション；「LCCとLegacy Carrierの今後」 7. グローバル・アライアンス（1）誕生の背景、動向 8. グローバル・アライアンス（2）増収、世界戦略 9. 日本の航空のこれから 10. 航空のサービスとホスピタリティ 11. ホスピタリティ v s LCCの低運賃 12. 航空と観光 13. 航空とCSR，地球環境 14. 北東アジア共通航空市場を考える 15. 講義全体のまとめ、夫々の到達点 * 専門家の講話も検討する * 上記関連で、講義の順番など事前に通知の上、一部変更することがある	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：ANA総研『航空産業入門』（東洋経済新報） 参考文献：伊藤元重他『日本の空を問う』（日経出版社）、山路顕『日本から発信するホスピタリティ』（ていくおふ）、ANA総研『エアライン・オペレーション入門』（ぎょうせい）他		期末試験（70％）に、出席状況、授業でのコメント・シートの内容、発表他授業への参画姿勢など総合的に評価する。	

09 年度以降	交流文化論（開発文化論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
グローバルとローカルなものの対抗・交渉は現代の地球社会を考える重要な視座の1つです。 近年、alternative（もう1つの）という言葉の時々耳にします。グローバル化の進展に対抗するように、ローカルな文化や環境を重視したもう1つの動きが内発的な発展として世界各地で活発化してきています。 この講義は、開発文化論として、グローバル化と国民国家に翻弄される伝統社会・文化と社会的弱者達の変容と反応について考えます。講義される事例は、担当教員の調査研究の成果であるメキシコ南部の先住民族に関するものを中心となりますが、地域研究ではなく、アジアその他の地域の事例も適宜交え、より普遍的な視点から、発展途上地域の開発問題について考察します。 開発と貧困、ジェンダー、教育、宗教、先住民族の権利、構造的暴力と民衆、NGOや協力する者の立場といった話題を、現場の事例をみながら考えてきます。 （参考文献） W.ザックス『脱「開発」の時代』、N.ローツェン他『フェアトレードの冒険』、J.フリードマン『市民・政府・NGO』、P.フレイレ『被抑圧者の教育学』、B.トムゼン『女の町フチタン』、H.ノーバークホッジ『ラダック：懐かしい未来』、S.ラトゥーシュ『経済成長なき社会発展は可能か？』、北野収『国際協力の誕生』		1. 講義の概要 2. 豊かさの指標：開発とは何か、貧困とは何か 3. 近代化と文化変容（ビデオ『懐かしい未来』） 4. 貧者と共に生きる：フェアトレード誕生秘話 5. 教育・学び・文化 6. ジェンダーとフェミニズム 7. 宗教と社会開発 NGO 8. ローカルメディアとアイデンティティ戦略 9. 開発ワーカーと異文化適応※教室内ワークショップ 10. 開発は自分たちの手で（ビデオ『グラミン銀行』予定） 11. 新自由主義・構造調整と農民・先住民の自己防衛 12. 巨大開発計画と地域住民・NGO 13. 貧者と人間の尊厳（ビデオ『セバスチャン・サルガド（「アフリカ」等で知られる写真家）』予定） 14. 日本の開発経験：生活改善運動と一村一品運動から 15. まとめ、試験対策	
テキスト、参考文献		評価方法	
（テキスト）北野収『南部メキシコの内発的発展と NGO』勁草書房。※DUO 等で各自購入してください （参考文献）上欄を参照。		期末試験（60%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（40%）。	

09 年度以降	交流文化論（食の文化論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
食べ物は私達にとって、もっとも身近で不可欠なものです。この授業では「食」という視点から、人間、家族、コミュニティに密接不可分・地域固有な存在であった「食」が、近代～現代という歴史的過程で、ナショナル化さらにはグローバル化されていく過程を考え、そこで見落とされがちな問題を考えていきます。 一方で、現代の世界は、「飢餓と飽食」が同時に進行するという危機的な状況にあります。私たちの住む日本では、食料の大半を海外から輸入しながら、食べ物の多くを廃棄しています。耕す土地はあるのに耕す人がいないため、耕地が放棄されています。農業は危機的な状況にあります。食べ物は人に幸せをもたらす一方で、それをめぐって国と国が対立し、憎しみあることもあります。こうした現象の背景として、政治、経済、文化など様々な要素が複雑に絡み合っています。 このような現状を踏まえ、「文化としての食」を手がかりとして、私たちの身の回りを点検し、地球社会のことを考えていきたいと思います。		1. 講義の概要 2. 食の文化を見る眼：文化とは何か 3. 食の地誌論（風土と食） ※ビデオ『人間は何を食べてきたか』（予定） 4. 私たちの食生活の変化：自給率問題を手がかりに 5. 遺伝資源は誰のものか（農民から国家、企業へ） 6. マクドナルド化と食生活：合理化と脱人間 7. ナショナリズムと食：伝統の形成と思い込み 8. 食卓と家族団らん：その意義をあらためて考える 9. 食育と学校 10. コーヒーのグローバルヒストリー 11. フェアトレード：食と社会正義、倫理的消費 12. イタリアのスローフード、米国のシビック・アグリカルチャー、日本の地産地消 13. 地球社会と「食」：食料廃棄物、食糧援助 14. 食の「再ローカル化」(re-localization) ※ビデオ『未来の食卓』（予定） 15. 講義のまとめ、試験対策	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書は特に指定しない。参考文献は適宜紹介。		期末試験（70%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（30%）。	

09 年度以降	交流文化論（ツーリズム人類学）	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
ツーリズムがホスト社会に与える影響は、経済的側面のみならず、社会的・文化的・政治的側面など、多岐にわたる。それゆえツーリズムに学問的にアプローチする方法論も多様である。本講義は、そのなかでも文化人類学という学問を手がかりにしながら、ツーリズムを「文化」という側面から検討するための基礎的概念・考え方について学ぶ。 本講義では、1. ツーリズムを作り出す仕掛け、2. ツーリズムがもたらす影響、3. ツーリズムが作り出す文化、という3つの側面から講義を行い、ツーリズムを社会・文化現象として分析する際の基本的な視座の習得を目指す。同時に、ツーリズム研究に関連する現代文化人類学における主要な問題意識・諸概念についての理解を深めることを目指す。 受講に際しては、文化人類学の基礎知識は必ずしも必要ないが、授業内で紹介する文献資料の読解を各自行なうなど、予習・復習が不可欠となる。		1. 趣旨説明 2. グローバリゼーションの民族誌 1 3. グローバリゼーションの民族誌 2 4. 観光の誕生 5. ビデオ上映 6. 表象の政治学—情報資本主義と観光 7. メディアと観光—「楽園」ハワイの文化史 8. 植民地主義と観光—「神々の島」バリの誕生 9. 文化装置としてのホテル 10. 世界遺産の窮状—カンボジアの事例 11. セックス・ツーリズム—タイの事例 12. 少数民族と観光—タイの事例 13. 文化の著作権と「サンタクロース民族」 14. 他者との協働を目指して：北海道アイヌ観光の現在 15. まとめ・予備日 (なお、授業で取り上げる事例は、授業の進み具合や、受講生の関心等によって変更になる場合があります。)	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。随時、文献リストを配布する。		授業毎の小レポート(50%)、期末テスト(50%) 4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム文化論）	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 観光の諸現象が文化と深く関連し、又、文化も、観光行為により変容していく様を、観光人類学見地より考察し、観光の多様性を理解する。 講義概要 観光を、疑似イベント、イメージ、メディアの視点から考察し、観光現象を多面的に理解する。 併せて、貧困ツーリズム、戦場ツーリズムに見る観光形態の多様性や、バリ島の観光開発の光と影に触れ、文化の変容についても考える。又、ディズニーランドを模型文化としての視点より考察し観光現象の多様性を学ぶ。 近年若者の海外旅行離れが懸念されているが、その現象を観光メディアの視点から考えてみたい。 又、時々刻々変化する現代社会の流れ等々観光文化、観光関連業界の報道記事を適宜取り上げ、学習の参考にしたい。		1. 講義概要 2. 文化への新しいアプローチとしての観光 3. 観光の誕生・疑似イベントとしての観光 4. メディアと観光・イメージの形成とメディア 5. バリ島観光開発の植民地政策と文化の流れ 6. 楽園バリ島誕生の形成と文化の流れ 7. 観光文化のグローバル化と商品化 8. 文化観光と観光行動（疑似体験としての観光旅行） 9. 疑似体験としての貧困・戦場ツーリズム 10. 文化の商品化と観光文化・観光芸術 11. 模型文化とディズニーランド 12. ディズニー化とマクドナルド化 13. 観光メディアと旅行市場形成 14. 観光メディアと海外旅行 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：『観光文化学』（山下晋司編）新曜社 その他は適宜指示する。		試験結果に基づいて評価する。	

09 年度以降	交流文化論（国際会議・イベント事業論）	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 今や、ツーリズムの重要な担い手であり、地域の文化交流や産業経済に刺激を与え、地域の活性化に貢献する国際会議やイベントについて学習する。 講義概要 国際会議、博覧会やイベントとは何か、その歴史的経緯、現状と市場を考える。 又、代表的な事例を取り上げ、その運営、仕組みや旅行業、宿泊業を含む観光関連産業との関連性を学ぶことにより、国際会議やイベントが現代社会における重要な役割を担っていることを理解する。 併せて、イベント・コンベンション推進機関や制度、課題と将来の展望についても学習する。 講義では、国際会議、博覧会、イベントを中心に観光関連トピックスを取り上げ流動的な観光業界の動きにも触れたい。 履修希望者は 2012 年度 JATA 旅博（9 月 21 日～23 日）を必ず見学しておいて下さい		1. 講義概要 2. イベント・コンベンションの発生と発展 3. イベント・コンベンションとは① 4. イベント・コンベンションとは② 5. 世界と日本のイベント・コンベンション動向 6. イベント・コンベンションの仕組みと実務① 7. イベント・コンベンションの仕組みと実務② 8. イベント・コンベンション産業① 9. イベント・コンベンション産業② 10. イベント・コンベンションの施設と付帯設備 11. コンベンション・ビューローの役割と機能 12. イベント・コンベンションの推進機関 13. イベント・コンベンションの課題と展望① 14. イベント・コンベンションの課題と展望② 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：『イベント&コンベンション概論』（JTB 能力開発）その他は適宜指示する。		試験結果に基づいて判断する。	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム政策論）	担当者	山路 顕
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 ツーリズムの持つ、社会（地域、国、世界）や政治、経済との係り、これまでの“お上”主導のツーリズム政策の問題を検証し、“観光立国”のあるべき姿、方向を考察する。 講義概要 ・明治期、不平等条約改正の一助として用いられたインバウンド・ツーリズム政策、貿易収支のバランス材だったツーリズム、地域や景観破壊に結びつくツーリズムの商業的側面を検証しながら、ツーリズムのあり方を政策の観点から点検する。 ・日本人の豊かな感性、自然観に根差したツーリズムの姿を探究する。 ・以上の文脈の中で「若者の旅離れ」や観光立国推進基本政策など現代的課題について考察する。 （＊）ツーリズムと観光という用語は文脈の中で使い分けていますが同じ意味で用いています。		1. オリエンテーション；講義内容、進め方、成績評価について 2. ツーリズム政策の位置づけ 3. 日本の観光政策の史的考察 4. 観光の経済力、規模、影響力 5. アウトバウンド・ツーリズム政策 6. インバウンド・ツーリズム政策の検証、国際比較 7. 「若者の旅離れ」とツーリズム政策 8. ディスカッション；「若者の旅離れ」 9. 貿易立国から観光立国へ 10. 「観光立国」を考える 11. ツーリズム政策の課題（1）；ツーリズム行政 12. ツーリズム政策の課題（2）；景観を守る 13. エコロジーを考える 14. ツーリズム政策論 15. 講義全体のまとめ、夫々の到達点 （＊）専門家の講話予定の検討などで、講義の順番を一部変更することがある。 事前に通知する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：レジュメを配布する 参考文献：鈴木茂他『観光立国と地域観光政策』（晃洋書房）、川村晃生他『崩れゆく景観』（慶応大学出版）、その他授業の中で紹介する。		期末試験（70％）に、出席状況、授業でのコメント・シートの内容、発表他授業への参画姿勢などを総合的に評価する。	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム・マネジメント論）	担当者	山路 顕
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 ツーリズム政策論を国レベルの視点で捉え、ツーリズム・マネジメント論では産業レベルでの取り組みや政策を捉える。景観や地域の破壊に繋がる近視眼的な商業主義、大量生産・大量消費型のツーリズムから脱し、自然や景観、地域を守ることも視野に入れたツーリズム・マネジメントのあるべき姿を考察する。 講義概要 ・景観、地域環境、自然の破壊に繋がる儲け第一主義のツーリズム運営のあり方を検証し、景観や自然と共に発展するツーリズム産業のあり方を考える。 ・インターネットの普及の下での旅行会社離れ、若者の旅離れの実体を通してツーリズム産業の今、これからを探究する。 ・「和」、日本人の感性が生み出すツーリズムの形、「着地型観光」、体験型の観光に目をむけ、これからのツーリズム・マネジメントを考える。 (*) ツーリズムと観光という用語は文脈の中で使い分けていますが同じ意味で用いています。		1. オリエンテーション；講義内容、進め方、成績評価について 2. 観光産業の構造と観光の要素 3. 観光の経済波及効果 4. 観光産業の規模と観光収支 5. 縮小する旅行業の課題 6. 宿泊産業；衰退する日本旅館のマネジメント 7. ディスカッション；「和 - 日本旅館を救済する」 8. 航空産業とツーリズム 9. ホスピタリティとツーリズム 10. ツーリズム・マネジメントから見える日本の課題 11. 着地型観光；マスツーリズムからの脱却 12. 自然保護とツーリズム（1）；エコツーリズム 13. 自然保護とツーリズム（2）；景観法、テーマパーク 14. ツーリズム・マネジメント；既成を超える 15. 講義全体のまとめ、夫々の到達点 (*) 専門家の講話予定の検討などで、講義の順番を一部変更することがある。 事前に通知する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：レジュメを配布する 参考文献：横山秀司『観光のための環境景観学』（古今書院）、尾家建生他『着地型観光』（学芸出版）、その他授業の中で紹介する		期末試験（70％）に、出席状況、授業でのコメント・シートの内容、発表他授業への参画姿勢などを総合的に評価する。	

09 年度以降	交流文化論（表象文化論）	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 表象(representation)と文化の関係を、「他者の展示」という文脈から考察する。 【講義概要】 テキストには、カルチュラル・スタディーズの主要な論客である Stuart Hall が、イギリスの Open University のために編纂した、<i>Representation: Cultural Representations and Signifying Practices</i> (London: Sage, 1997)から抜粋(pp.153-222)を用いる。 テキストは図書館の指定図書になっているので、各自でコピーすることもできる。そうでない場合は、アマゾン等で購入すること。		1-2 (2.2 What is a museum?) 初回、2 回目では教科書の 155~160 ページを扱う。章末の READING A も必ず読んでおくこと。履修登録が済んでいない学生でも、この部分の予習をしていなければ、次回以降の授業への参加は認めない。(単位は認定されない。) 3-4 教科書の 160~167 ページ 5-9 教科書の 168~184 ページ 10-14 表象とパフォーマンスの関係を、他のテキストも参照しながらディスカッションしていく。 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記のほかは、授業中に指示する。		授業中のディスカッション、発表、期末の課題。	

09 年度以降	交流文化論（ツーリズム・メディア論）	担当者	高橋 利男
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義の目的は、「ツーリズム」と「メディア」の新しい動向について学習するとともに、「両者の係わり方」について考察することです。 講義内容としては、新聞・業界紙等のメディアを通して、旅行業及び航空・宿泊等の関連産業について、企業の広報・広告、メディア販売、消費者（旅行者）ニーズ、地域活性化等の様々な視点から、事例研究します。 地域観光推進の事例、及び、海外旅行、国内旅行、訪日旅行、新しいツーリズムの各分野等にわたる事例を幅広く取り上げます。また、代表的な世界遺産についても学習します。 「グループ討議」、「テーマレポート」及び「プレゼン発表」を実践することにより、ツーリズム産業を展望するにあたり必要な様々な基礎知識を習得するとともに、課題考察力を養うことを主眼としています。		1. 講義の概要 2. 多様化するメディア(1) 3. 多様化するメディア(2) 4. ツーリズムの新たな動向(1) 5. ツーリズムの新たな動向(2) 6. 進化するマーケティング(1) 7. 進化するマーケティング(2) 8. 観光誘致策(1) 9. 観光誘致策(2) 10. メディア販売(1) 11. メディア販売(2) 12. 企業広報(1) 13. 企業広報(2) 14. 旅行業法の枠組み 15. 世界遺産セレクト 10 (日次の順序は前後します)	
テキスト、参考文献		評価方法	
新聞・業界紙等の記事コピー等		評価方法：期末定期試験（約 50％）＋平常授業における課題レポート等（約 50％）＝100 点満点	

09年度以降	交流文化論（市民参加のまちづくり論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、「市民参加のまちづくり論」として、日本と海外、都市と農村など地域や分野を横断的に取り扱い、そこにある普遍的な理論や問題を考えます。 まち（地域）づくりという言葉から何を連想しますか。道路やビルを造ること、景観を整備すること、商店街を活性化させること、等々。本講義では、「まちづくり＝人々の間のコミュニケーションの総和」として捉えます。なぜ「市民参加」が必要なのでしょう。それは互いに異なる者同達が、コミュニケーションする場と空間が必要だからです。取り上げる具体的な事例としては、ゴミリサイクルによる地産地消、都市近郊での環境教育、ニューヨークのドッグラン、インドネシアでのNGO活動など、多様ですが、人々のコミュニケーションという共通の視座を考えていきます。 教科書として指定する書籍には、地域計画に関するやや専門的な内容も含まれますが、できるだけ分かりやすくかみ砕いて解説するように努めますので、この点に関する心配は無用です。		1. 講義の概要 2. 地域とは何か、発展とは何か 3. 住民参加の意義と多義性 4. 事例研究：参加型開発 ※教室内ワークショップ 5. 組織・制度化、学習プロセス：山形県の事例 6. 地域づくりにおけるキーパーソン：兵庫県の事例 7. 共益から公益の創出へ：NYと東京の事例 8. ビデオ『坂本龍一・地域通貨の未来』 9. 地域づくりとまなざしの多様性：島根県の事例 10. 開発とコミュニケーション：インドネシア NGO 援助の事例 11. ビデオ『湯布院癒しの里の百年戦争』 12. ソーシャル・キャピタル 13. (予定)つながりと居場所の構築：大阪の事例 14. まとめ：まちづくりは人づくり 15. 試験対策	
テキスト、参考文献		評価方法	
（テキスト） 北野収『共生時代の地域づくり論』農林統計出版 ※DUO等で各自購入してください		期末試験（60%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（40%）。	

09 年度以降	交流文化論（トランスナショナル社会学）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
本授業の目的は、グローバル化時代の現代社会を考える手がかりとして、①国民国家・国境の存在を相対化することによって初めて見えてくる人々や文化の<u>越境現象の実際を知る</u>こと、②それを踏まえたより踏み込んだ意味での「共生」概念の可能性を考えること、③国際的視点のみならず民際的視点も併せ持った<u>複眼的な視点</u>から、文化・社会・政治における諸現象を考えられるようになること、の3点です。 21 世紀のキーワードである「共生」を基底概念として、人間と価値の越境現象に着目する。グローバル化に伴う社会構造の変動に規定された様々な越境現象の実情と、当事者のアイデンティティ・民族・国家の相関関係について考察します。 関連する理論・言説について講義するとともに、ディアスポラとしての外国人花嫁、アイヌと在日の問題、消えた民「サンカ」などの日本国内の事例を中心に上げます。それらを踏まえて、「国際」視点から「民際」視点の転換の意義、地域における交流活動や「学び」の実践の可能性について展望します。		1. 講義の概要 2. 社会学とはどのような学問か 3. 国家と社会との関係、トランスナショナリズムとは 4. 国境・国民概念①：アイヌからみた日本とロシア 5. 国境・国民概念②：知られざる漂泊民サンカの末路 6. グローバル化と越境現象①：移民とトランスナショナリズム 7. グローバル化と越境現象②：移民と地域における受容 8. グローバル化と越境現象③：若者の『文化移民』と日本帰帰 9. 国際結婚①：国際結婚の語源と歴史 10. 国際結婚②：日本人の国際結婚と越境する女性達 11. 中間まとめ ※ビデオ『となりの外国人』（予定） 12. アイデンティティについて 13. 民際協力としての自治体国際協力 14. 講義全体のまとめ 15. 試験対策	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはなし。参考文献は適宜紹介。主なものは以下のとおり。 テッサ・モーリス・鈴木『辺境から眺める』みすず書房、藤田結子『文化移民』新曜社、嘉本伊都子『国際結婚論!?!』（歴史編・現代編）法律文化社、西川芳昭『地域をつなぐ国際協力』創成社		期末試験（70%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（30%）。	

09年度以降	交流文化論（オルタナティブ・ツーリズム論）	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
オルタナティブ・ツーリズムと呼ばれる「新しい」観光形態・観光実践の動向や諸議論について検討する。 オルタナティブ・ツーリズムとは、ツーリズムの大衆化（マス・ツーリズム、近代観光）がもたらした、ホスト社会の生活文化や自然環境への弊害を克服するために登場したものである。本講義ではまず、オルタナティブ・ツーリズムが生まれてきた歴史的・社会的背景について概説する。そしてエコツーリズムやヘリテージ・ツーリズム、コミュニティ・ベース・ツーリズムなどの「新しい」観光形態・開発実践について、主に文化人類学・社会学などの視点から検討し、その可能性について考える。 なお本講義では、出来る限り実際の観光の現場で生じている個別具体的な事例から、観光の問題と可能性について考えてみたい。その際に扱う地域は、主として東南アジア、ラテンアメリカ、オセアニアなどの非西洋地域が中心となる。		- 趣旨説明 - オルタナティブ・ツーリズムの背景 - ビデオ上映（ジャマイカの観光開発） - 場所性の商品化—アマンリゾーツの戦略 - 環境主義の商品化—エコリゾート - 世界遺産と観光 1—ラオス・ルアンパバンの事例 - 世界遺産と観光 2—中国・麗江の事例 - ビデオ上映（バックパッカーの窮状） - 先住民と観光—北米インディアン事例 - 先住民と開発—開発的遭遇 - 先住民と環境主義 12~13 コミュニティ・ベース・ツーリズム:タイの事例 - 現代日本における農山村の再編と観光—高知県四万十川流域を事例として - ダーク・ツーリズムの現状と可能性—西アフリカの事例から （なお、授業で取り上げる事例は、授業の進み具合や、受講生の関心等によって変更になる場合があります。）	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。		授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%)。 4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。	

外国語学部共通科目シラバス

03 年度以降	総合講座（EU の歴史と現状 1）	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、戦前から今日までの欧州統合の歩みを辿ることにより、今日の国際社会において大きな影響力を持つ EU（European Union）が生まれた背景や目的、その制度や政策について考察することを目的とします。 地域統合の歴史的な前例としての EU について学ぶことは、ヨーロッパに関する知識の獲得にとどまらず、今日の日本と諸外国の関係について考えるためのヒントにもなるでしょう。		1. 講義の概要 2. 第 2 次大戦以前のヨーロッパ構想と運動 1 3. 第 2 次大戦以前のヨーロッパ構想と運動 2 4. 第 2 次大戦以前のヨーロッパ構想と運動 3 5. 第 2 次大戦と欧州統合 6. 戦後復興と欧州統合 1 7. 戦後復興と欧州統合 2 8. ECSC の成立 1 9. ECSC の成立 2 10. EEC の成立 1 11. EEC の成立 2 12. EEC の定着期 1 13. EEC の定着期 2 14. EEC の定着期 3 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：なし 参考文献：B.アンジェル、J.ラフィット『ヨーロッパ統合—歴史的な大実験の展望』、創元社、2005 年		平常授業における小テスト（複数回実施、50%）と期末レポート（50%）	

03 年度以降	総合講座（EU の歴史と現状 2）	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
内容は春学期の続きになりますが、秋学期からの履修も可能です。ただし、秋学期からの履修者は、事前に参考文献を読むなどして、EU の歴史に関する基礎知識を身につけておくことが望ましいです。		1. 講義の概要 2. 通貨統合 1 3. 通貨統合 2 4. 通貨統合 3 5. マーストリヒト条約以降の EU1 6. マーストリヒト条約以降の EU2 7. EU の制度 1 8. EU の制度 2 9. EU の政策 1 10. EU の政策 2 11. 加盟国と EU1 12. 加盟国と EU2 13. 加盟国と EU3 14. EU の現在の課題 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：なし 参考文献：B.アンジェル、J.ラフィット『ヨーロッパ統合—歴史的な大実験の展望』、創元社、2005 年		平常授業における小テスト（複数回実施、50%）と期末レポート（50%）	

03 年度以降	総合講座（性と芸術）	担当者	コーディネーター 谷口 亜沙子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期の総合講座は、「性と芸術」というテーマによるリレー講義です。 「ジェンダー」「セクシュアリティ」「エロス」等をキーワードにした場合、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、その他の国の、たとえばどんな芸術作品がどんなふうに浮かび上がってくるのか。どのような問題意識があり、どのような背景があったのか。そこには、どんな表現、抵抗、当惑、禁忌、偏見、検閲、欺瞞、挑戦があったのか。そして、それらの作品を受容する現代の私たちには、いかなる態度が可能なのか。 時代も国も異なるさまざまな作品に触れながら、「芸術」と「性」をめぐる多様な視点を手に入れてください。		1. 谷口亜沙子（フランス語学科）：初めに ― 性と芸術 2. 原成吉（英語学科）：アメリカ詩にみるホモセクシュアリティ ― アレン・ギンズバーグを中心に 3. 若森栄樹（フランス語学科）：フランス文学とセクシュアリティ 4. 前沢浩子（英語学科）：「恋」か「友情」か ― Shakespeare の男たち 5. 片山亜紀（英語学科）：19-20 世紀イギリスの同性愛文学 6. 一條由紀（早稲田大学非常勤講師）：少年愛と吸血鬼 ― 『マルドロールの歌』を中心に 7. 江花輝昭（フランス語学科）：18 世紀フランス文学に見る男と女 8. 柿田秀樹（英語学科）：絵画の視覚論 9. 上野直子（英語学科）：フェミニスト文学批評入門 10. 渡部重美（ドイツ語学科）：グリム童話の男の子と女の子 11. 青山愛香（ドイツ語学科）：アダムとイブ ― 北方世界におけるヌード（Akt）の誕生 12. 下川浩（ドイツ語学科）：なぜ不倫小説が多いのか？ 13. 前田直子（ドイツ語学科非常勤講師）：ドイツの移民女性たち 14. 谷口亜沙子：ユディットとルクレチア ― 女性の表象を読む 15. 谷口亜沙子：総論	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に提示されます。		出席状況と筆記試験。 各回の終わりにコメントペーパーを提出してもらいます。	

03 年度以降	総合講座（神は細部に宿る）	担当者	コーディネーター 谷口 亜沙子
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期の総合講座は、「神は細部に宿る」という言葉から連想されるものならどんなテーマでも結構です、という呼びかけに応じてくださった多彩な講師陣によるリレー講座です。 「細部」や「具体」への注目が真理の発見や手ごたえのある喜びにつながるという例や、「徴候」や「めだたないもの」への注意深さが全体の理解や新しい変化の鍵となることがあるというお話を、様々な分野で聞くことができれば、というのが当初の構想でした。 さて、文学、思想、言語学、美術、歴史、人類学、精神医学、宗教、神話、社会、都市、政治、教育、コミュニケーション学などにおいて、一体どんな「神」と「細部」が登場するのか――？ 「神は細部に宿る」という言葉を、ひとつの方法論あるいは問いかけとして身に持っていることによって、目の前の世界や時間にどんな変化が起こるのかを体験してみてください。		1. 谷口亜沙子：初めに ― シャーロック・ホームズに倣って 2. 田村毅（フランス語学科）：一編の詩から詩人とその時代の宗教思想を読み解く 3. 工藤達也（ドイツ語学科）：ヴァルター・ベンヤミンのモノドロジーと歴史について 4. 安井美代子（英語学科）：神の設計 ― 言語の単純性と無限性 5. 辻田麻里（ドイツ語学科）：メタファーに聞く人間の心 6. 工藤和宏（英語学科）：世界を変える大学生たち 7. 佐野康子（英語学科）：「ダーウィンの箱庭」― タンザニアから世界へ 8. 日野克美（交流文化）：地名の不思議 ― モントリオールの街路名 9. 須永和博（交流文化）：＜周辺＞という「細部」― 寄せ場と貧困の人類学 10. 佐藤唯行（英語学科）：ユダヤ教の成立 ― 613 もの戒律 11. 下川浩（ドイツ語学科）：神と仏と愛と 12. A.ゾーリンジャー（英語学科）：Utsushi: The Art of Copying（英語による講義） 13. 青山愛香（ドイツ語学科）：神は細部に宿る ― ファン・アイク兄弟の『ゲントの祭壇画』（1432 年） 14. 鈴木隆（フランス語学科）：細部に宿る都市空間の秩序 15. 谷口亜沙子：総論 ― 詩の生まれる瞬間	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に提示されます。		出席状況と筆記試験。 各回の終わりにコメントペーパーを提出してもらいます。	

03 年度以降	情報科学概論 a	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。 本講義では、（１）コンピュータと情報処理に関する基礎知識（２）コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み（３）コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。 本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。		1. 講義の概要と目標、情報科学とは 2. データ表現、基数変換、論理演算 3. コンピュータの構成要素 4. ソフトウェアの役割、体系と種類 5. オペレーティングシステム（OS） 6. プログラム言語 7. データ構造—リスト、スタック、キュー、2 分木 8. アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 9. コンピュータによる言語情報処理技術（１） 10. コンピュータによる言語情報処理技術（２） 11. 機械翻訳システムの演習 12. 情報検索と質問応答システム 13. インターネット上の多言語処理技術 14. 授業のまとめ 15. 授業のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中指示するテキスト・参考文献を使用してください。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。	

08 年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。 コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用] 科目を履修できる。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論 (情報処理演習)」の各科目、および [応用] の各科目を履修したことのある人は履修できない。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08 年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。 コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用] 科目を履修できる。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論 (情報処理演習)」の各科目、および [応用] の各科目を履修したことのある人は履修できない。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08 年度以降	〔入門〕 情報科学各論（情報処理演習 英語）	担当者	内田 富男
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、〔応用〕科目を履修できる。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または〔応用〕の各科目を履修したことのある人は履修できない。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08 年度以降	〔入門〕 情報科学各論（情報処理演習 英語）	担当者	内田 富男
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、〔応用〕科目を履修できる。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または〔応用〕の各科目を履修したことのある人は履修できない。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08 年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 ヨーロッパ言語)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論 (情報処理演習)」のいずれか、または [応用] の各科目を履修したことのある人は履修できない。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08 年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 ヨーロッパ言語)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論 (情報処理演習)」のいずれか、または [応用] の各科目を履修したことのある人は履修できない。		1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08 年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション）（中級 プレゼンテーション）（中級 万能ツールとしての Excel）（中級 表計算応用 1）」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（プレゼンテーション中級）」を履修したことがある人は履修できない。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(1) 9. マクロの利用(2) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08 年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション）（中級 プレゼンテーション）（中級 万能ツールとしての Excel）（中級 表計算応用 1）」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（プレゼンテーション中級）」を履修したことがある人は履修できない。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(1) 9. マクロの利用(2) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08 年度以降	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論 (初級 表計算入門) (初級 プレゼンテーション入門) (中級 プレゼンテーション)」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)」を履修したことがある人は履修できない。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ 受講者数や学習状況によって変更することがある	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08 年度以降	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論 (初級 表計算入門) (初級 プレゼンテーション入門) (中級 プレゼンテーション)」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)」を履修したことがある人は履修できない。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ 受講者数や学習状況によって変更することがある	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08 年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度に「情報科学各論 (中級 Word を使いこなす)」を履修した人は履修できない。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08 年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度に「情報科学各論 (中級 Word を使いこなす)」を履修した人は履修できない。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08 年度以降	〔応用〕 情報科学各論 (Office 中級)	担当者	松山 恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、〔入門〕 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるので、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳しい用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定 3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成 4. Word (3) ワードアートの利用 5. Word (4) 図形の利用(1) 6. Word (5) 図形の利用(2) 7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に 9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に 10. PowerPoint (1) 基本操作の確認 11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用 12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1) 13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		授業時に説明する。	

08 年度以降	〔応用〕 情報科学各論 (Office 中級)	担当者	松山 恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、〔入門〕 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるので、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳しい用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定 3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成 4. Word (3) ワードアートの利用 5. Word (4) 図形の利用(1) 6. Word (5) 図形の利用(2) 7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に 9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に 10. PowerPoint (1) 基本操作の確認 11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用 12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1) 13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		授業時に説明する。	

03 年度以降	情報科学各論（言語情報処理 1）	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】 この授業ではコンピューターを用いた「学習者言語」の分析を行う。われわれ日本人が話す、あるいは書く英語は全て「学習者言語」であり、ネイティブスピーカーの発話とはさまざまな面で異なる。たとえば「流暢さ」、「使用する単語の種類」、「使用する文法の複雑さ」、「正確さ」などである。この授業は、これら（学習者）言語分析の観点と方法を学ぶことを目的とする。それにより、自分自身の英語力を振り返ることが出来るようになったり、将来教職（英語教師）に就きたいと希望する場合は、生徒たちの英語力を測定評価できる技能を身につけることが出来るようになったりすることを旨とする。<u>英語学習に強い興味関心がある人、教職を目指す人</u>に適した内容と考える。 【概要】 ごく基本的な言語学の知識の講義から始め、その後は 1 人 1 台のコンピューターを使い、演習を中心に授業を進める。自分で学習者言語データを分析し結果をレポートにまとめることも課題となる。コンピューターの操作にある程度慣れていることが望ましいが、授業を通して学習することも十分可能。		1. 【ガイダンス】 2. 言語の基本（1）：品詞 3. 言語の基本（2）：形態素、単語、句、節 4. 学習者言語の分析：語彙力とは何か（1） 5. 学習者言語の分析：語彙力とは何か（2） 6. 学習者言語の分析：語彙力とは何か（3） 7. 学習者言語の分析：文法力とは何か（1） 8. 学習者言語の分析：文法力とは何か（2） 9. 学習者言語の分析：文法力とは何か（3） 10. 学習者言語の分析：流暢さとは何か（1） 11. 学習者言語の分析：流暢さとは何か（2） 12. 学習者言語の分析：流暢さとは何か（3） 13. 最終レポート準備（1） 14. 最終レポート準備（2） 15. 【まとめ】	
テキスト、参考文献		評価方法	
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する		出席＋授業活動への参加度＋レポートにより評価する。欠席の場合でも必ず課題を提出すること。	

03 年度以降	情報科学各論（言語情報処理 2）	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】 春学期に引き続き、学習者言語の分析を行う。それにより、英語学習を進める上で直面する困難点を、具体的な数量的に把握する視点や分析方法を身につける。 【概要】 春学期の内容を総合的に復習し、それらを踏まえた上で演習を中心に授業を進める。そのため、春学期の「言語情報処理 Ia」を予め履修していることが望ましい。秋学期から履修する場合は、言語学の基礎的な知識を身につけていることが望ましい。 授業においては、実際に学習者言語のデータ収集を行い、その分析を進めていく。受講人数によって、グループ活動または個人活動になるが、受講生の作業、演習、発表が中心になる。		1. 【ガイダンス】 2. 学習者言語の分析の視点（1）：概要 3. 学習者言語の分析の視点（2）：流暢さ 4. 学習者言語の分析の視点（3）：語彙力 5. 学習者言語の分析の視点（4）：文法力 6. 学習者言語の分析の視点（5）：正確性 7. データ収集と学習者コーパスの作成（1） 8. データ収集と学習者コーパスの作成（2） 9. 学習者コーパスの加工：tagging（1） 10. 学習者コーパスの加工：tagging（2） 11. 分析（1） 12. 分析（2） 13. プレゼンテーション（1） 14. プレゼンテーション（2） 15. 【まとめ】	
テキスト、参考文献		評価方法	
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する		出席＋授業活動への参加度＋プレゼンテーションにより評価する。欠席の場合でも必ず課題を提出すること。	

03 年度以降	情報科学各論（言語情報処理 1）	担当者	吉成 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
（講義目的・講義概要は春・秋学期共通です） 本講義では、最終的にはコンピュータというメガネを通して、「英語」という言葉の特徴を見てみようというのがねらいです。たとえば、皆さんはある形容詞がどのような名詞と相性を知りたい時、どうしますか。辞書で調べても知りたい形容詞と名詞の組み合わせが出ていたとは限りません。身近にネイティブスピーカーがいればその人にたずねるのも一案ですが、必ずしも近くにいるとは限りませんし、聞く相手によって答えが揺れることもあります。 そんな時に、一つのヒントを与えてくれるものが、「コーパス」です。コーパスというのは、コンピュータで自在に検索できる言葉のデータベースです。コーパスを検索することで、普通の辞書では得られない例文を見つけたり、また先ほどのコロケーションの問題もスコアで示したりできます。これは英語を勉強・研究する人に大変便利なものです。 本講義では、まず春学期に情報処理の基本的な考え方、発想を Microsoft Excel を使って学びます。秋学期に Excel を使って言語処理を行うための準備です。コーパスの分析（下に続く↓）		1 講義のガイダンス：言語情報処理とは何か 2 言語情報処理とコーパス・表計算一巡り 3 計算(計算式、計算式のコピー、セルの相対参照、絶対参照等) 4 Excel 関数(算術・統計関数を中心に) 5 Excel 関数(文字列操作関数を中心に) 6 Excel 関数(論理関数を中心に) 7 Excel 関数のネスト(1) 8 Excel 関数のネスト(2) 9 Excel 関数のネスト(3) 10 データベース処理(並べ替えと集計・レコードの抽出および条件検索) 11 データベース処理(クロス集計とピボットテーブル) 12 データベース上のデータの蓄積方法 13 自家製コーパスの構想を練る：データ収集の方法など 14 データベースの活用 15 まとめと演習	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (http://www.yuchan.com/~gengojoho/) を参照すること。		学期末試験および 2 回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。	

03 年度以降	情報科学各論（言語情報処理 2）	担当者	吉成 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
には専用のソフトウェアがいくつか開発されていますが、それらのツールは特定の処理には適しているものの、汎用性が少なくまた自由な発想からの分析には向いていません。この講義ではそのようなツールを使うのではなく、あえて汎用性のある表計算ソフトウェアを使います。 秋学期は、春学期に学んだ Excel の知識を活用して、学生一人一人が自分だけの「自家製コーパス」を作ります。同時にコーパス言語学の基礎的な知識を学びます。素材の集め方から、コーパスの構築の仕方、および Excel で KWIC Concordance を実現する手法、および統計的な処理方法をじっくりと学ぶことにします。さらに、本格的なコーパス、約 1 億語の British National Corpus にアクセスします。秋学期後半は、コーパス以外の言語分析についても触れたいと思います。文体をコンピュータで分析する試みや語彙の使われ方をコンピュータで見るとどのようなことが分かるのかなどを実際に文献をコンピュータを使って分析してみましょう。 本講義で修得したコンピュータを使った見方と、構築した自分専用のコーパスは、講義終了後も生の言語レファレンスとして活用できることでしょう。		1 講義のガイダンス：コーパスとその応用 2 Access 上にデータを格納 3 Access のデータを引き出して Excel で分析 4 コンコーダンスの利用(1)：コロケーションを調べる(MI-Score)。 5 コンコーダンスラインの利用(2)：コロケーションを調べる(t-score)。 6 コンコーダンスラインの利用(3)：演習 7 品詞情報のタグ付け：各単語に品詞のタグをつけて、より精密な分析を試みる。また、自動タグ付けも試みる。 8 タグ付けされたテキストの分析：品詞情報のタグ付けがされたテキストを分析する。 9 品詞の使われ方と英文の特徴 10 「文体」をどうとらえるか。一文の長さー 11 語彙の出現情報から何を読み取るか(1) 12 語彙の出現情報から何を読み取るか(2) 13 語彙の出現情報から何を読み取るか(3) 14 最先端のコーパスの現状：体験アクセス 15 まとめと演習	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (http://www.yuchan.com/~gengojoho/) を参照すること。		学期末レポートおよび 2 回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。	

08 年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。 まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである WWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論 (HTML 入門) (HTML 応用 1) (HTML 正しく伝えるために) (HTML 美しく見せるために)」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論 (HTML 中級)」を履修したことのある人は履修できない。		1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習 クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08 年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。 まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである WWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論 (HTML 入門) (HTML 応用 1) (HTML 正しく伝えるために) (HTML 美しく見せるために)」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論 (HTML 中級)」を履修したことのある人は履修できない。		1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習 クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03 年度以降	情報科学各論 (HTML 中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML 入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「<u>HTML を用いたホームページ作成技術を習得した人 (FTP の理解を含む) を対象</u>」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。 この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び HTML、FTP などの復習を行う。次に JavaScript や CGI プログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。 受講上の注意： 評価方法等を詳しく説明しますので、ガイダンスには必ず出席すること。 平常点評価の実習授業ですので、全回出席する、という前提で授業は構成、進行します。		1 ガイダンスとイントロダクション 2 HTML と FTP の復習 (1) 3 HTML と FTP の復習 (2) 4 インタラクティブなページ (HTML と CGI) 5 プログラミングの基礎知識 6 JavaScript (1) 7 JavaScript (2) 8 JavaScript (3) 9 JavaScript (4) 10 JavaScript (5) 11 CGI の利用 12 総合課題 (1) 13 総合課題 (2) 14 総合課題 (2) 15 鑑賞・報告会	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業用 Web にて資料等を配布。 参考文献等は随時紹介します。		授業中に作成する課題と平常点 (課題の途中経過を含む) で総合評価する。出席及び締切厳守は特に重視する。	

03 年度以降	経済原論 a	担当者	未定（掲示で確認）
講義目的、講義概要		授業計画	
講義概要 本講義は経済学をより深く学びたい学生を対象にした授業である。春学期でミクロ経済学に相当する内容を、秋学期でマクロ経済学に相当する内容を解説する。春学期のミクロ経済学では主に家計と企業の意思決定と、市場の機能について説明する予定である。 講義目的 日常の経済活動をよりよく理解するためには経済学の知識が不可欠である。この講義ではミクロ経済学を学習するが、消費者（家計）や生産者（企業）がどのようなことを考えながら行動しているかを学習することを通して、経済をより深く理解できるようになることが本講義の目的である。		1. ミクロ経済学とは何か 2. 市場機能の働き① 3. 市場機能の働き② 4. 数学的予備知識の準備 5. 消費者の行動理論① 6. 消費者の行動理論② 7. 消費者の行動理論③ 8. 生産者の行動理論① 9. 生産者の行動理論② 10. 生産者の行動理論③ 11. 市場均衡と資源配分 12. 市場の失敗 13. 政府による市場介入① 14. 政府による市場介入② 15. 試験前まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは特に指定しない。参考文献としてスティグリッツ『ミクロ経済学』をあげておく。必要があれば、授業中に適宜紹介する。		定期試験の成績によって評価する。受講人数が少ない場合、小テストを行うこともある。	

03 年度以降	経済原論 b	担当者	未定（掲示で確認）
講義目的、講義概要		授業計画	
講義概要 本講義は経済学をより深く学びたい学生を対象にした授業である。春学期でミクロ経済学に相当する内容を、秋学期でマクロ経済学に相当する内容を解説する。秋学期のマクロ経済学では主に日本経済の概要とマクロ経済モデルに基づいた財政金融政策について説明する予定である。 講義目的 日常の経済活動をよりよく理解するためには経済学の知識が不可欠である。この講義ではマクロ経済学を学習するが、日本のマクロ経済の実態や、経済がどのような政策によって運営されているかを学習することを通して、経済をより深く理解できるようになることが本講義の目的である。		1. マクロ経済学とは何か 2. スtock変数とフロー変数 3. GDP の概念 4. 経済成長と寄与度 5. 消費と貯蓄 6. 投資 7. GDP の決定 8. 財市場分析 9. 貨幣需要 10. 貨幣供給 11. 政府の役割と財政金融政策① 12. 政府の役割と財政金融政策② 13. 総需要と総供給 14. インフレーションとデフレーション 15. 試験前まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは特に指定しない。参考文献として伊藤元重『マクロ経済学』をあげておく。必要があれば、授業中に適宜紹介する。		定期試験の成績によって評価する。受講人数が少ない場合、小テストを行うこともある。	

シラバス ドイツ語学科

2012年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電 話 048-946-1656



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学年	氏 名
学科	年	